國内經濟が圓滑に行かないか、その根柢の何なるやを研究し、併せて各列强國がその恩惠に預らうとするもの〻如くであることは容易に首肯できる點である。また一には、國際聯盟が支那の申出を引受けた體面上、兎も角現在の國民黨政府が内債また内債を以てしても、遂に新規事業に必要な資源を得ることが出來ず、極度の國家財政難に疲弊し、しかも特定國からの借款を欲しない者のある折柄であるから、曾つてオーストリア、ハンガリー等の財政救濟に乘り出した例もあるのであり、國際聯盟が支那の斯様な窮狀を諒察して援助することは當然聯盟加入國相互の任務であるとも謂はれてゐる。國際聯盟が一國内の財政救濟に實質的面目的に着手しようとするのは、戰爭直後の各國財政改革期に是非とも必要とされたことの副産物ではあるが、現在のやうな恒常經濟に於ては、ベーゼルの國際決濟銀行のやうな機關が、之れに一荷を藉すのが當然であらう。けれどもベーゼルの國際決濟銀行は、設立されてから間もなくして大戰の賠償問題の急務に追はれてゐる際であり、この折に臨んで斯かるリーグ・ローンは大いに意義の有ることである。

曾つて世界の實際經濟學者が、支那四億の國民と、この國民が消費する物貨高は、世界何れの國のそれよりも莫大なものである。國内經濟の萎縮衰微した國は宜しく開拓を支那に向ける可きである。と、如何にしても支那市場に着眼すべきであることを叫んだのは、蓋し至當なる先見の言葉である。それ故、リーグ・ローンが問題となる前にも、對支借款の各種の計畫は續々發表せられてゐたのである。その最も著名なものは、ビットマン委員會案として知られるものであつて、支那に銀を以て二億五千萬弗を貸し付け、二分の低利で五十年の長期貸付を斷行し、其の間に幾多の道路を開設せしめる、つまりこの建設事業に充てしめんとするのであらうと評されてゐる。この計畫は現在暴落してゐる銀を貸し付けて、將來騰貴した時に返却させるといふ利殖論であることは誰れにでも理解出來ることである。

然し現在銀の偏在によつて銀價の暴落を招來してゐる折、この上更に銀の貸付を試みることは、却つて銀價の大暴落を助長するであらう。さうしてこれの結果は金本位制採用を阻止するのみならず、中華民國はいつ迄經つても貧乏國に終始するであらう、と考へられるのは當然である。

ビットマン委員會は、斯くの如く支那の國家財政の樹て直しと、國内產業の振興を名目として、却つて支那を舞臺として種々なる策動を行ふのであるといふ觀がないでもない。若しも、ビットマン委員會案が、全く國際協調主義に立脚して飽まで他國の窮狀を救濟せんとするならば、委員各自は如何に大なる犧牲をも之れを惜しまない筈である。一方に投資的野心を持ち、一方に救濟的良心を持つなどは、多少の矛盾に困惑しないものであらうか。

畢竟ずるに特定國の對支借款說は、國際聯盟による借款案より猶ほ甚だ不完全なものである。然して、他の何れの國家よりも對支借款に於てその利拂ひさへも決濟し得ず、また支那交通に關して

は、わが鐵道權益の無視に基く並行線敷設の計畫、或は鐵道附屬地行政權の回收を敢て爲す等の苦しい經驗と深刻な知識を有つ日本は、この聯盟の比較的妥當な對支經濟救濟案の提出を俟つて、之に援助を與へる必要は認め得られる。然し特定國の特定的對支借款案は、世界經濟の安定策としては一方的打開に終るもの、乃至は却つて支那の國內經濟を萎縮せしむるものとして之れに贊意を表することは考慮の餘地がないだらうか。世界各國の政治的經濟的動きと共に、中華民國も政治的にも經濟的にも著るしい變化のみちを辿つてゐる。這般の滿蒙事變をきつ掛けとして、再び國際聯盟の對支經濟調査研究も大いに變化して行くに違ひない。何故かなれば、新國家發生と同時に滿蒙を中心とした交通機關、或は國民政府の政治組織國民政府と廣東政府の合體等の幾變化によつて、支那國內に於ても今や重大な變革期に直面してゐる。然し今回の滿蒙事變が一度國際聯盟に持ち出されるや、聯盟理事會の空氣は事毎に支那に好意を寄せ、わが日本に不利の態度を持續して來た。精到且つ冷靜に國際聯盟理事國の感情を考察するに、理事會全般の空氣はわが國の對支政策の既往現在を誤解してゐる如く感知される。少くも世界の平和安寧を期する可く存在する聯盟自體が、一片の感情問題、乃至認識不足に基いて、一方的に辯護と同情を寄する如きは之れ大なる誤りでなければならない。支那の常に反省するところなき惡宣傳と不法な辯護に依つて、世界の輿論を掌握する國際聯盟が動かされるなどは、聯盟自らの威信を傷けるのみならず、餘りに感情に捉はれた偏狹さと謂はなければならない。

以上、國際聯盟と支那との關係を一通り述べたが、特に讀者の關心せねばならぬのは、今回の滿蒙事變と上海事變によつて派遣せられた、國際聯盟理事會決議に基づく理事國側の事變現地調査委員の報告である。勿論、如何なる調査意圖を持つてゐるか、また如何なる調査方針を樹てゝゐるかは量り知れないが、尠くも聯盟理事會に聲を大にしてわが日本を攻擊した支那側の報告が、之れら調査員の眼に如何に映じるか、次の國際聯盟理事會の會議及び討評が見ものである。

第四　南滿洲鐵道株式會社と其の事業

(一)　南滿洲鐵道株式會社の設立と組織

南滿洲鐵道株式會社……これは俗に「滿鐵」と稱し、日本の滿洲に於ける大なる事業の一つで、日本がこの鐵道の權利及びこれに附隨する特權、財產及び炭坑を讓受けたのは、明治三十八年で、日露戰爭の講和條約に依るのである。卽ち、明治三十八年九月五日調印、十月十六日發布された同條約の第六條に、

日露講和條約に依る權益

日露講和條約第六條

露西亞帝國は長春（寬城子）旅順口間の鐵道及その一切の支線並に同地に於て之に附隨する一切の

權利、特權及財産及同地方に於て該鐵道に屬し又は其の利益の爲めに經營せらるゝ一切の炭坑を補償を受くることなく且清國政府の承諾を以て日本政府に移轉讓渡すべきことを約すとある。この長春（昔は寬城子と稱し滿洲新國家が生れて新京と改稱）旅順間の鐵道が卽ち南滿洲鐵道である。

同社は右の條約に依り明治三十八年十二月七日に設立されたもので、會社の組織は幾度か變更改正されたが、今日に於ては、總裁副總裁各一名、理事四名以上、監事三名乃至五名の役員を置くことになつてゐる。總裁、副總裁、理事の下に總務、監理、經理、鐵道、地方、商事の六部と技術局とを設けてゐる。更らにその下に各課がある。

組織の變更

尙總裁副總裁は勅裁を經て政府これを任命し、理事は百株以上を所有する株主中から政府これを任命し、監事は株主總會に於て株主中から選任する。總裁副總裁の任期は五ケ年、理事は四ケ年、監事は三ケ年である。

幹部の任期

(二)　南滿鐵道附屬地

滿鐵の附屬地は、大連長春間四百三十八哩、奉天安東間百六十一哩、その他旅順線、營口線、煙臺線、撫順線、渾楡線、瓢兒屯線等六百九十哩に涉る鐵道の用地及び市街用地であつて、關東州以外は、鐵道の兩側六十二米である。幅六十二米と言つても、本線に於て、最も廣い所は四百二十六米、最も狹い所は四十二米六七で、安奉線の最も廣い所は三十六米、最も狹い所は十六米七六である。要するに鐵道沿線の帶狀の細長い土地が南滿附屬地なのである。最も市街地その他特殊の事情ある地方に於ては、廣濶なる境域を有してゐる。

滿鐵附屬地の面積

(三)　監督機關

南滿洲鐵道株式會社は、半官半民の會社であり且つその事業が極めて廣汎である爲めに、第一次監督として關東長官の監督を受けてゐるが、昭和四年拓務省が出來て以來同社の業務はあげて拓務省の主管に歸一するに至つた。

半官半民の會社

この外會社の實況に就ては監理官制度が設けられてゐる。監理官は會社の金庫、帳簿種々の文書等を檢査するほか、會社の營業方針の改善その他に就て拓務大臣に意見を具申し、或は株主總會や種々の會議に出席して意見を述べることが出來る。

監督官制度

(四)　資本金と營業成績

會社の資本金は現在四億四千萬圓を有してゐるが、創立の時は二億圓であつた。この二億圓の

資本金四億四千萬圓

ち一億圓は政府が出資し、殘りの一億圓は日本及び支那の投資家から募集した。現在の四億四千萬圓に增資したのは大正九年四月で、この時は、その增加額の半額一億二千萬圓を政府が引受け、他の一億二千萬圓は、增資前の未募集株として殘つた二千萬圓と合せて、一億四千萬圓を一般民間から募集したものである。

拂込資本金

拂込資本金は四億七百十三萬六千圓で、未拂込株金が猶五千二百八十四萬四千圓殘つてゐる。

營業成績

營業成績はその年に依り多少の相違はあるが、次第に發展し、鐵道收入を主要收入とし、港灣、採炭、製鐵事業からもそれ〳〵增加してゐる。卽ち昭和五年度に於ける利益金は二千百六十七萬圓で、四年度の四千五百五十萬圓に比し著しく減少してゐるが、これは不況と支那鐵道の競爭と銀價の暴落の爲めである。それまでは年々利益金が增加してゐたのである。

收入と支出

收入及び支出の關係はどうかといふに、昭和五年度の成績を示せば次の通りである。

昭和五年度事業別營業成績

業別	收入	支出	損益
鐵道	九五、三三〇、七三〇圓	三六、七六八、五七六圓	五八、五六二、一五四圓
港灣	八、三五八、七〇五	六、七三七、六三一	一、八二一、〇七五
鑛業	六二、四四一、一六一	六〇、六三七、九八九	一、八一三、一七一
製鐵所	六、六四一、二六九	七、五〇七、九三一	六六六、六三二
地方	四、九八六、三六九	一五、三〇五、四三〇	損　一〇、七九、〇六一
總體費	—	一〇、八六七、七九〇	損　一〇、八六七、七九〇
收支利息	五、三五六、九八二	二三、八六三、九七二	—
雜損益	二、五七二、四二六	一、〇三七、九七八	一、五三五、四四七
社債差額塡補金	—	一、三三〇、四八〇	損　一、三三〇、四八〇
計	一八八、一〇四、〇六三	一六六、四三〇、六〇一	三一、六七三、四六二

滿鐵の一ヶ年の收入

これに依つてみると、滿鐵五年度の收入は一億八千八百十萬圓餘、その支出は、一億六千六百四十三萬圓餘で、結局前記の通り二千百六十七萬圓餘の利益をあげてゐる譯である。

滿鐵の中心事業

右の各事業のうちで最も收入の多いのは、なんと言つても鐵道事業で九千五百三十萬圓に達し、その次が、鑛業の六千二百四十萬圓、港灣の八百五十萬圓、製鐵所の六百六十萬圓等がこれに次いでゐる。

(五)　滿鐵とその事業內容

滿鐵の中心事業は、なんと言つても鐵道であるが、この他に附帶事業として港灣、鑛業、地方施設等を行つてゐる。次にこれ等の各種事業を詳しく說明する。

(六)　鐵　道　業

滿鐵の幹線は、大連新京(長春)を結ぶ連長線に、奉天安東間を連絡する安奉線の二つである。前者は、大連港を起點として大滿洲國の平野を西北に縱走し、奉天に於て北寧鐵路及び瀋海鐵路と會し、四平街に於て四洮鐵路と接してゐる。更らに終點の長春に於ては、吉林、敦化に通ずる吉長鐵道及び東支鐵道と會してゐる。安奉線は、例の鴨綠江の鐵橋を經て朝鮮鐵道に通じてゐる。

滿鐵の支線

支線には周水子旅順間を連絡する旅順線、大房身柳樹屯間の柳樹屯線、大石橋營口間の營口線、煙臺炭坑線、撫順線及び渾楡線等がある。

運輸貨物の量

これ等の鐵道の運輸貨物は、創立當時の明治四十年には約百三十萬噸にすぎなかつたが、昭和四年には約十四倍の千八百五十萬噸に達した。

乘車人員數

乘車人員は昭和五年度に於て八百十一萬人であるが四年度に於ては一千萬人を突破してゐる。

(七)　港灣事業

港灣事業は大連港、營口港及び安東港を經營するものである。大連港は滿鐵の輸送する貨物の呑吐港として、滿鐵には非常な關係を有つてゐるので、滿鐵では之が經營に多大の資金を投じ、極めて大規模の港灣設備

大規模の港灣設備

積は約九十萬坪に及び、水深は平均九米餘に達してゐる。五千噸の大汽船を一時に三十七隻を繫留し得る棧橋設備を有し、一ヶ年七千萬噸の貨物を呑吐し得る。汽船の出入は一ヶ年大小を合せて約四千隻に達してゐる。

(八)　海　運　業

滿鐵の定期航路

會社は明治四十年八月、大連上海間の定期航路を開始してゐるが、現在はこれを大連汽船會社が經營してゐる。この航路は、上海と滿洲とシベリヤを經て歐洲に連絡するもので、極めて重要な航路である。後に至つてこの航路に靑島を加へたが、益々支那本土と滿洲及び歐洲との連絡を完全にするに至つた。

(九)　倉　庫　業

倉庫の特徵

この倉庫事業中、最も規模の大なるものは大連港に在るものである。この倉庫の特徵は混合保管をなす事であるが、大豆、豆油、豆粕及び小麥の四種に限られてゐる。これは、大豆の品質を改良し容量包裝を統一して、取引の安全を圖り、且つ運送保管の機能を向上せしむる爲めで、その成績は

極めてよく、滿洲大豆の取引に非常な信用を齎してゐる。

(一〇) 鑛業

滿洲に於ける有名な炭坑は撫順炭坑であるが、これと煙臺の炭坑とを滿鐵で經營してゐる。撫順炭は日本炭の品質と同じく光澤强く漆黑を呈し、揮發分に富んでゐる。その埋藏量は實に九億五千餘萬噸に達してゐる。最近は一ヶ年に約七百萬噸内外を採炭してゐるが、今後百年以上採炭することが出來る。

撫順炭の特質

煙臺炭坑は、その埋藏量が二千萬噸で、撫順に比較すると極めて小規模である。炭質は亞無煙炭で、既往採炭量は百八十萬噸であるから、まだ千八百萬餘噸が殘されてゐる。

煙臺炭坑の埋藏量

これ等の石炭は一體どの方面で消費されるかといふに、約三千餘萬噸は滿洲各地で消費され、他の四千三百萬噸は南洋、南支那、臺灣、朝鮮、日本内地、北支那及び船舶燃料として消費されてゐる。滿洲炭の輸出先

尚撫順に於ては石炭採掘の附帶事業として、硫酸工場、イエルシエール採油工場を經營してゐる。

(一一) 製鐵事業

鞍山製鐵所は、大正五年三月に設立された日支合辦の鞍山鐵鑛無限公司採鑛の鐵鑛を以て製鐵事業を行ふ所で、大正八年に作業を開始してゐる。

鞍山鐵鑛無限公司

鞍山に鐵鑛があることは、昔から知られてゐたのではなく、滿鐵が業務開始後間もなく地質研究所なるものを設け、滿洲に於ける各地の鑛物を研究したが、その際に研究員が發見したものである。發見後、滿鐵はこれが採掘を支那當局に交涉すること數年に及び、漸く大正四年五月日支條約關係公文に依り、日支合辦に依りこれが採鑛を行ふことになり、翌五年前記の如き鞍山鐵鑛無限公司の設立を見るに至つてものである。

鞍山鐵鑛を發見

然し鞍山の鐵鑛は、含有量四十パーセント以下の貧鑛が多いので、最初は五十パーセント以上のもののみを選定してゐたが、貧鑛を經濟的に處理することが出來れば、如何に有益であるかを知り、これが研究に着手して大正十年九月に至り、遂に有利なる處理方法を發見し、製鐵事業上に一新紀元を劃したのである。

貧鑛處理方法を發見

昭和五年に於ては二十八萬八千噸で、その販賣高は五百六十六萬圓に達してゐる。

(一二) 地方施設

滿鐵は以上の事業の他に、政府の命令に依り、鐵道附屬地に於ける土木、教育、衛生等の各種の事業を行ふてゐる。これを卽ち地方施設と稱し、本社の地方部及び主要都市に設けられた地方事務

政府の命に依る地方施設

所がこれ等の事業に當つてゐる。この地方事業には

地方施設の内容

一、土地建物の管理經營　二、市街經營として地區計畫、道路、橋梁、整地、公園、護岸、市場、墓地及び火葬場、屠獸場等を營み　三、衛生施設として醫院、公醫、衛生研究所、上下水道を　四、教育施設として學校圖書館を　五、警備施設として消防警戒を　六、農業施設として農事奬勵、農事試驗場、獸疫研究所、苗圃、種畜場、植樹等を　七、商工施設として中央試驗所、商工機關補助、商工奬勵等を　八、鐵鑛業施設として地質調査所、鑛業奬勵等を行ふてゐる。

以上のうち、農業施設、商工施設の概要を說明すれば

地方施設のうち農業施設の内容

一、水稻の改良

二、改良大豆の種子を配付し、その耕作を奬勵し奬勵金を交付する

三、煙草栽培の奬勵

四、棉花の試作及び栽培奬勵

五、苹果の栽培指導及び取引改善

六、造林奬勵

七、滿蒙羊毛及び滿蒙牛輸出奬勵

地方施設のうち商工施設の内容

商工施設の概要は、產業助成金として、滿洲各種の邦人企業に對して毎年百五十萬圓內外の補助金を交付し、その奬勵助成に資するの外、直營施設として、大連に中央試驗所及び滿蒙資源館を設け、產業開發上の基本資料の給源として活動せしめてゐる。商工團體に對する補助は、滿鐵沿線の主要地に在る日本人商工會議所、民國人商務會、輸入組合與地方面に於ける貿易館等に對する補助である。

(一三)　滿鐵の傍系會社

滿鐵の機能を完全に實現する爲め種々の傍系會社を經營してゐる。その會社數は實に五十八社に及び、資本金のみにても三億八千七百萬圓餘に達してゐる。而してこの五十八社のうち、工業關係が十六社、商業關係が七社、鑛業が五社、農業が二社、運輸倉庫が九社、電氣ガスが三社、土木建築が二社、信託保險が九社、新聞が三社、雜が二社であるが、そのうち滿鐵がその株式全部を所有するものは十三社で

滿鐵の機能を完全ならしむる爲めの傍系會社

傍系會社の數と資本金

滿鐵が株式全部を所有する傍系會社

滿鐵が株式半分以上を持つ傍系會社

昭和製鋼、大連汽船、南滿洲電氣、南滿洲ガス、日滿倉庫、日本製蠟、滿洲船渠、大連農事、南滿旅館、福昌華工、大連窯業、その他二社等である。

滿鐵が株式の半分以上を所有する社は十八社で

東亞勸業、東亞土木企業、撫順炭販賣、營口水電、大興煤鑛、大連鑛業、南滿鑛業、長春二市市

場會社、取引所信託四社、その他五社である。

(一四)　滿鐵の將來

滿鐵は、滿蒙に於ける日本の大なる權益の一つで、この機關が中心となつて日本の勢力を彼地に張つてゐるのである。然るに歐洲大戰後、支那に澎湃として起つた排外熱は、滿洲に於ける日本の權益までも驅逐せんとした。滿洲に於ける日本の權益、それは滿鐵が中心である。故に支那は無謀にもこの滿鐵を打倒せんとし、支那自ら滿蒙新鐵道政策を樹立し、滿鐵に大影響を與へんとしたのである。

支那の排外熱と滿鐵

支那の滿鐵對抗線計畫

その計畫は次の如きものである。

第一幹線、露領ブラゴエチエンスクと國境を隔てゝ相對する黑河を起點として滿洲の中央部分を南下し、齊々哈爾、洮南、開魯を經て、勃海灣の北部、葫蘆島に出でんとする滿洲縱貫鐵道。

第二幹線、滿洲の東北端の都會綏遠から斜線的に南下し吉林を經て奉天に至り、更らに奉天から錦州を通じ葫蘆島に出で、第一幹線と結び付けんとする、滿鐵をこの第一第二の兩幹線で東西から打擊を與へんとするものである。

第三幹線、これは第一幹線の開魯から分岐して西南に下り、北平に至る線で、滿洲と支那本土との完

全なる連絡を爲さんとするものである。

以上の三大幹線は未だ計畫だけで實施するに至らないが、然し支那側はこの幹線實現の魁として、昭和元年以來

支那側の既設鐵道

洮昂鐵道、呼海鐵道、奉海鐵道、吉海鐵道、梅西鐵道、吉敦鐵道、打通鐵道、昂齊鐵道、齊黑鐵道、齊克鐵道、挑索鐵道

葫蘆島築港

等を既に敷設してゐる。これ等の鐵道は合計十一線、千六百粁に達し、何れも三大幹線の培養線ともなるべきものであつた。而して、これが敷設の資金は主として日本以外の諸外國から借款し、止むを得ざるものは日本から借款したが、その元金も利子も、口實を設けて支拂はず、常に日本に故意の損害を與へてゐた。この不法行爲に對して日本は飽迄も隱忍自重し來つたが、偶々、昨秋突發した滿洲事變に依つて新國家が建設され、總ての形勢は一變して日本に有利に轉回したものとみられるのである。

更らに、支那は、以上述べた三大幹線の物資を呑吐する爲めに、渤海灣の葫蘆島に築港せんとし、昭和五年七月以來、五ヶ年計畫で、着々工事を急いでゐる。この築港計畫は最初、一ヶ年二百萬噸の貨物を呑吐する能力を目標として進められてゐたが、後になつて、これを擴張し四百五十萬噸を目標としてゐる。

この築港は、滿鐵の呑吐港たる大連を壓迫せん爲めのもので、これに依つて支那側が如何に滿鐵に打擊を與へんとしつゝあつたかを窺ふことが出來る。

滿鐵將來の發展性

今後、新滿洲國が、如何なる鐵道政策を實施しても、日本の權益を侵害するやうな不法行爲は敢てしないであらうから、滿鐵は今後も從來と同樣、年を逐ふて發展するであらう。

滿洲國の面積

日本內地の三倍半

日本國民の海外發展性

第三章　滿蒙移民に就て

第一　日本移民の現狀と將來

(一)　一億の人口を容れ得る滿洲國

滿洲國の面積は實に廣袤七萬五千七百七十二方里、日本內地の約三倍以上の大きさで、その人口は三千四百萬である。卽ち面積は日本の三倍半にも餘り人口は僅かにその半分に過ぎない。故に少くとも滿洲には優に一億の人口を容れることが出來る。それを思へば實に滿蒙の前途は、極めて有望である。滿蒙を以つて日本の生命線と言ふのも決して過言ではないのである。日本內地は人口の過剩と、面積の狹少とに依り、殆んど行詰つてゐることは、周知の事實で、今更玆に述べる必要はないが、この過剩人口のはけ口と、經濟的進展を求むるには滿蒙が最も日本にとつては適當の地である。以下順を追うて滿蒙に於ける日本人の現況を詳述し、更らにその將來を考察してみようと思ふ。

(二)　世界各植民地に於ける日本の移民數との比較

日本人が古來から比較的海外發展性を有してゐたことは歷史の明らかに證明する處であるが、然

し、德川時代の鎖國主義に依つて、この發展性は壓迫され、當時日本人は殆んど海外に發展しなかつた。

然るに、明治維新の機熟すると同時に、日本國民の海外發展性は再び伸展し、世界各國に活躍の舞臺を求めて進出するに至つた。

滿蒙への移民が最も多數

昭和六年首めに於ける日本の海外植民數は、總計七十九萬人で、その內譯は次の通りである。

滿洲國	二三五、二五七人	米國合衆國	二七、六〇九人
ブラジル	一二六、五〇五人	ハワイ	二〇、九〇九人
支那本部	六八、〇七七人	ペルー	二〇、三五五人
カナダ	二〇、八三八人	メキシコ	五、九〇八人
ジヤワ、スマトラ	七、〇四七人	マレー半島ボルネオ	七、六四九人
フイリツピン	一九、六二八人	アルゼンチン	四、〇一六人
極東露領	三、〇四五人	印度及セイロン島	一、九九八人
太洋洲	三、九五二人		

以上が日本の海外植民の主なるものであるが、とにかく、滿蒙に於ける植民數が、最大多數を占めてゐることは、如何に滿洲がその地理的關係に於て、日本と密接なるものなるかを物語るものである。移民と言へば、南米や南洋を想ひ起すのであるが、事實、日本人が

日本が大なる犧牲を拂つた滿蒙

最も簡易に手近に移民し得るのは滿蒙なのである。

而もその滿蒙たるや、日本は、この地域の平和を維持せんとして日露戰爭に於て、十萬の精靈と二十億圓の巨費とを犧牲にしてゐる。加ふるにその後に於ても、赤露軍の侵入に備へんがため、シベリヤ及滿洲への出兵を行ひ、數億の費用をも使つてゐる。實に滿蒙こそ、想へば日本にとつては禍の地であつた。

大なる犧牲を生かせ

そこで、日本は、この尊い犧牲を生かし、且つ東洋の平和を確立せんとしたが、永い間の支那內亂とその軍閥の爲めにこれを實現することが出來なかつたのである。然るに今回、大滿洲國が建設され、東洋の一角に一大平和境が實現したのである。この平和境こそ、日本民族の發展すべき所である。

日本移民の現況

(三)　滿蒙に於ける日本移民の數と分布狀態

滿蒙に於ける日本移民は二十五年間に四十倍に增加

鰯つて、この滿蒙に於ける日本人は、現在如何なる狀態にあるか、以下詳しく說明することゝしよう。

滿蒙に於ける日本人人口の著しい增加を來したのは日露戰爭後である。卽ち明治三十八年末に於ては五千二十五人であつたものが大正七年末には十二萬四千三百五十五人となり、昭和三年末には

十八萬五千二百八十四人となり、更に同五年末には二十二萬八千七百八十四人となり、過去二十五年間に四十倍に增加してゐる。

四十倍といふと、著しい增加のやうであるが、あの大滿洲に二十二萬餘の日本人しか活動してゐないことを思ふと、轉た寂寞を感ぜざるを得ない。少くとも吾々は十倍の二百萬の日本人否五百萬乃至一千萬人の日本人を大滿洲國に送りたいと思ふ。それは亦日本としても是非實施しなければならぬ問題である。而して現在滿蒙に於ける日本人二十二萬餘人が如何なる方面に移住してゐるかといふに、これを示せば

關東廳管內人口別

管內	內地人	朝鮮人
旅順	三一、一三六	一三
金洲	一、七七五	九六
貔子窩	一、二八五	一八〇

滿鐵附屬地內人口別

管內	內地人	朝鮮人
瓦房店	三、六一	五
營口	二、六三四	一五六
遼陽	四、八八六	一三五

管內	內地人	朝鮮人
大連	九、七一七	一、三九
普蘭店	一、一三九	一八
大石橋	三、六四八	九
鞍山	六、七五	三五
奉天	一三、四八〇	七〇

關東廳管內日本移民數

附屬地內人口別

本溪湖	二、七二
撫順	一七、八九二
開原	二、五九六
公主嶺	二、三〇五
（以上領事館管內）	
牛莊	五〇九
奉天	三、〇三三
鐵嶺	六〇二
（以上鐵道附屬地以外に於ける領事館管內）	
其他	八、四八九
合計	二三八、七四

安東	三、一〇八
鐵嶺	三、〇五七
四平街	四、二七
長春	一〇、六〇〇
遼陽	一〇八
安東	一九五
長春	三六二
合計	五五、〇二一

日本移民の男女別

壯年者の減少

この人口統計に依ると安東とか、鐵嶺とか同一地方が二つに分れてゐるが、これは鐵道附屬に居るものは、その警察管內の統計に依り附屬以外の遠方に居るものは、領事館の調査に依るものである。尙關東州管內のものは關東州民政署の統計に依るものである。

而してこの二十二萬人の在留日本人を男女別に分けると約半數は女子で、その四分の一は、十歲以下の兒童である。卽ち半分は女子であり、四分の一は子供であるから殘り四分の一卽ち約五萬餘人が大人の男子である。嘗つては二十萬人の日本人中、壯年の男子が七割も八割も占めてゐたこと

があつたが、それが次第に減少し、今日に於ては二割五分の五萬餘人となつてしまつたのである。如何に日本人の活動力が旺盛であると言つても婦女子のみ多く壯年の男子の少ないのは誠に心細いことである。新興大滿洲國に於ける日本人現下の數は誠に悲觀すべき狀態である。

(四)　滿蒙日本人の職業別年齡別

而してこれ等日本人のうち、結婚してゐる者が四十五パーセントで、獨身者は五十五パーセントである。又これを年齡から考察すると十五歲未滿の者が三十四パーセント、十五歲以上六十歲以下の者が六十三パーセント、六十歲以上の者が二十二パーセントである。

又これを職業關係に於てみるに、各種の事業を經營し、又は商店を有する者が八萬二千餘人である。勿論このうちには、會社も一個の事業經營者として含まれてゐるのであるが、とにかく、自ら正業を經營する者がこれだけあり、この事業に從屬する者が合計十四萬五千餘人である。これに依ると在滿蒙日本人中の三十六パーセントは自營者で六十四パーセントは被使用人である。

尙、これ等の自營者八萬二千人のうち最も多いのは商業と工業で、前兩者とも約十九パーセント即ち一萬五千五百人に達してゐる。その次に多いのは、官吏や公務員で約十八パーセントで、農業は漸く六パーセントにすぎない。この他の六パーセントの中に、鑛業、水產、林業や無職者が含まれてゐるのである。

(五)　滿蒙に於ける日本人の投資額

從來の日滿關係

從來に於ける日本と滿蒙との關係は主として經濟的關係又は軍事的關係で、事實移民關係といふものは極めて少なかつたのである。單に數字の上では日本人が二十二萬人を突破し世界何れの植民地に於ける日本の移民よりも多いのであるが、これ等の人口中には、眞の移民は比較的少なく、會社員、官吏及びその家族が比較的多數を占めてゐるのである。是れ卽ち滿蒙が他の從來の日本人植民地と異なり著しい投資地帶であるが爲めである。

日本の投資額

然らば現在、日本が滿蒙にどれだけの資本を投じてゐるか、これを調査してみれば次の通りである。（拓務省調査昭和七年三月現在に依る）

會社組織投資	一、一三五、三五一、九二九圓
個人的投資	九四、九九一、五六〇圓
借款に依る投資	一七一、六九一、一九六圓
合計	一、四〇二、〇三四、六八五圓

卽ち日本の投資額は十四億圓を突破してゐるが、このうち何の事業が一番多いかといふに運輸業

が七億八千萬圓、商業が一億二千萬圓、農鑛林業一億一千萬圓、銀行業が一億六百萬圓、工業が一億五百萬圓、金融信託業が九千七百萬圓、その他であるが、運輸業の投資額が著しく多いのは滿鐵を含んでゐるからである。

(六)　朝鮮移民に就て

朝鮮移民は比較的成功

日本移民を述べた序に滿蒙に於ける朝鮮移民、支那移民を茲に略述する必要がある。

前述の如く、從來に於ける滿蒙の日本移民は決して成功ではない。これには種々の原因がある。これは別項に於て詳述するが、これに反し朝鮮移民は、大體に於て成功を收めてゐる。勿論、これはその氣候に於て、生活に於て、日本人よりは、朝鮮人がより良く滿蒙に生活し得る條件を備へてゐるからであらう。既に鴨綠江を越えて、勇敢にも滿蒙に移住した朝鮮人は實に約百萬人に達し、内地人の五倍に達してゐる。而も彼等は北へ北へと新天地を求めて移住するのであるから、その勇氣は學ぶべきものがある。而も朝鮮移民は、支那官憲に虐待され、日本人のお先棒のやうに思はれて迫害されてゐたものである。それにも拘らず、彼等は新天地開拓の爲め大滿蒙の各地方に移住してゐる。

支那官憲の朝鮮移民壓迫

然るに今回、滿洲國が建設され、これ等の朝鮮人移民に好意を示すであらうから今後に於ける朝鮮移民の滿蒙發展も蓋し活目すべきものがあらう。

(七)　支那移民に就て

清朝倒壞と滿洲人

朝鮮移民と同樣、滿洲に移民として成功してゐるのは支那人である。滿洲は以前は尠くとも滿洲人の滿洲として知られてゐた。即ち清朝の倒るゝまで永い間、彼等によつて覇を唱へられて居たのであるが、支那革命の勃興と同時に、清朝は打倒され、滿洲も次第に滿洲人のものでなくなつた、多數の南方支那人即ち漢民族が滿蒙に移住して來た。その移住が國民政府の奬勵する處に負ふ所もあるが、彼等漢民族の移住性の熾烈なるに因るものである。

著しい支那移民

而もその移住民數は日本の移住人口に比すれば恰かも洪水の如く、一ヶ年約百萬を突破するの勢ひである。即ち入滿支那移民は昭和二年度に於て百二十萬、三年度に百十萬、四年度に約百八萬に達してゐる有樣である。

投資よりも移民が必要

斯くの如く滿蒙に於ける日本移民は、朝鮮移民に比し、支那移民に比し、その數に於て實に微々たるものである。

勿論、日本は關東州を有し、南滿洲鐵道を經營して居り、約十五億の資本を投じてゐるので、その勢力は偉大なものであるが、現在の日本は、滿洲に投資することよりも、更らにより多くの移民

を送ることが必要な事である。故に本協會は讀者諸君に向つて能くこの點を諒解し出來得る限り滿蒙の天地に活躍せられんことをお勸めするものである。

(八)　滿蒙に於ける日本移民の缺點

日本の移民が、上述の通り、朝鮮移民、支那移民に比し、著しく振はないのは、一體何に原因してゐるのであらうか、大いにこれは檢討する必要がある。而してその主なる原因は

一、永住の志あるものが少ないこと。
二、支那に歸化する人が殆んどないこと。
三、從來土地所有權のないこと及商租權が實施されないこと。
四、日本人の滿蒙移民は計畫者又は經營者のみで、實際農業又は鑛業、林業等に對して勞働する者がないこと。
五、餘りに官廳を賴りすぎること。
六、氣候風土が日本人に適しないこと、殊に北滿地方は日本人の生存に困難なこと。
七、比較的獨立心がないこと。
八、會社又は官廳に月給生活をする者が多く、眞實の移民の比較的少ないこと。

日本移民失敗の原因

計畫又は經營者のみで實際勞働する者の少ないこと

九、滿蒙移民が會社官廳の一派と獨立商人等の二派に別れ容易にその利害關係が一致せず、統一性がないこと。
十、日本人は何時までも植民地に於て日本の習慣を捨てぬこと。
十一、比較的社交性に乏しく、支那人との融和せざること。
十二、軍閥の壓迫と馬賊の爲めに思ふ存分奥地に入り込めないこと。
この他、種々の原因があらうが、その主なるものは、以上の如きもので、これを說明すれば、

第一、永住性なきことは日本移民の大なる缺點で、從來屢々論ぜられた處である。獨り滿蒙に於ける移民のみならず、日本の移民は總て、永住性がないのである。卽ち、五年か十年永くて二十年もすれば小金を溜めて日本の故郷に歸ることを熱烈に希望してゐるのである。無理のない考へであるかも知れないが、然しかうした考へを持つてゐては到底、植民事業の發展を期することは出來ないのである。

永住性に乏しき日本人

この點に於て支那人や歐米人の移民觀念は大いに相違し、渡航の地を卽ち永住の地としてゐるのである。玆に彼等の植民地に於ける發展性があり、移民の著しく增加する原因がある。滿蒙に移民する日本人の如きは能くこの點を考慮し、少くとも滿蒙を以つて骨を埋むる第二の故郷として移民せねばならない。

歐米人及支那人の移民觀念

第二、支那に歸化せざれば從來は土地所有權を得ることが出來ないのである。土地の所有權も商權もなくては、事實永住することは出來ない、然しこれは、新滿洲國の建設に依つて恐らく今後土地所有權も商租權も實施されるであらうから、この點は心配する必要はなくなつたのである。

第三、今述べた土地所有權、商租權の事で今後これは認められるであらうから、この原因は除かれた譯である。

日本の勞働移民が少ない

第四、事實、滿蒙に於ける日本移民中には計畫者や經營者が比較的多く、勞働者の少ないことは事實である。これは勞働者として支那人、朝鮮人に、その賃銀に於て、生活に於て到底競爭し得ないが爲めであらうが、今後の移民は少くとも南米あたりの移民同樣、自ら鋤鍬を持ち、シャベルを持ち田園に山野に、工場に活動する覺悟がなければならない。

依頼心が不可ない

第五、日本人が官廳を頼ることは大なる缺點で、これを利用して權利を得るとか、或は補助金を得るとか、さうしたことを希望する者が多いが、植民地の如く、飽迄も熱烈な獨立心を必要とする處に於てはこの心掛けは排斥すべきものである。

第六、氣候風土の大なる相違は將に日本人にとつて大なる打擊であるが、年月を經るに從つてこれに馴れるから、それまで心配することはあるまい。

獨立心が弱い

第七、日本移民は何れの植民地に於ても支那人やその他の移民に比し獨立心が弱い。これは第五に於て述べた如く、他に頼る心があるからである。

統一が必要

第八、滿蒙に於ける日本人中には、會社員や官廳の者が比較的多く、これ等の者は三年乃至五年にして轉勤を命ぜられるので誠に永住性がなく、從つて、移民が增加しないのである。

融和せよ

第九、滿蒙に於ける日本人が會社關係者と小商工業者と二派に別れ、兎角利害相反し統一のないことは遺憾で、これが爲めに永住する者も永住しなくなるのである。

社交性を有て

第十、日本人は餘りに植民地に於ても日本の習慣に固執し、土地に融和しない爲めに、兎角他國人と圓滿を缺くことがある。

第十一、社交性に乏しいのは日本人の大なる缺點で殊に支那人に對しては優越感を有ち容易に融和しない。

日本移民失敗原因の大半は滿洲國建設に依つて消滅

第十二、從來、張作霖及張學良一派の軍閥橫暴と馬賊の跋扈の爲めに日本人の滿蒙發展は尠からず防害され僅かに滿鐵沿線や重要都市に在留するに留まるにすぎなかつたのである。

以上の檢討に依つて滿蒙に於ける日本移民の餘り發展せざる理由が明らかになつたであらうが、然し、新滿蒙國の建設に依つて、その不振の原因の大半は除かれたのと、今日に於ける日本人の滿蒙に對する考へと、移民せんとする者の考へが大いに變化したので、今後の滿蒙移民は充分に發展の可能性があるのである。

(九)　滿蒙移民成功の心得

以上の說明に依り、滿蒙に於ける日本移民の振はざる原因が判明したと思ふ。然らば、今後に於ても日本移民は失敗に歸するであらうか、どうか次にこれを研究してみようと思ふ。

先づ滿蒙日本移民の振はない原因は、その大半が滿蒙に於て日本人が、自由に活動し得なかつたことに原因することは前述の通りである。既ち滿洲に於ける支那官憲の壓迫とか、條約の不履行とか、さうしたことが日本移民の發展を防害してゐた爲めである。

然るに、今回滿洲國が建設され、日本人の發展に極めて都合よくなつたので吾々の心掛次第で、必らず發展出來るのである。然らば、今後の移民は、どのやうな心掛けが必要であるか、それを少しく述べてみよう。

心掛け次第で成功出來る

先づ移民の成功に最も必要なことは、その資金よりも何よりも大切なものは、移民の覺悟である。信念である。これは敢て滿洲でなくても、成功せんとするには何處でも必要なことであるが、特に滿蒙移民には必要なのである。

資金よりも覺悟

事實、滿蒙に富源が澤山あるからと言つて、野や山に金貨が落ちてゐるのでない。非常な苦心と覺悟がなければ、これを開發することは出來ないのである。或は自ら事業を經營するのではなく、

富源にあつても金は落ちてゐない

人に使はれるにしても、良い加減な考へをもつてゐては金も出來なければ地位も出來ない。結局成功しないことになる。

生き甲斐ある人生

一體、內地に居つてもさうであるが人間は、何か目的がなければ生きてゐる甲斐がない。その目的といふのは、名譽を得るとか、地位を得るとか、金を殘すとか、學問をするとか、國家社會に貢獻するとか、さうした範圍を出でないのである。それだのに、その一つをも得んとせず、生きてゐるが故に生活してゐるといふやうな莫然とした考へをもつてゐては、何時まで經つても、生活は向上し進歩もしない。從つて滿蒙に出かけて行つた甲斐がないことゝなる。

焦つてはいけない

であるから滿洲で移民として將來成功せんとするには先づ、その目的を定め、而して非常な決心と覺悟とをもつて自分の仕事に當らなければならない。

(一〇)　日本移民よ悠久性を持て

滿蒙に於て成功せんには先づ以上の覺悟を有つ外に、悠つくりと成功を收めんとしなければならない。決して焦つてはいけない、移民が成功を焦ることは日本人の大なる缺點である。殊に滿洲に於ては然りである。二三年焦つても成功をしないと斷念して內地に引揚げたりする者が多いが、こんな事では決して成功しない、十年二十年否一生を賭して、成功を俟たねばならないのである。日

本人の滿蒙移民が十年經つても二十年經つても餘り增加せず、依然として二十萬そこ〳〵を出でないのは、餘りに成功を焦る結果、遂に成功せず、內地に引揚げるものが多い爲めであると言へる。

移住地を生涯の地とせよ

支那人の滿洲移民などは、移住地を生涯生活する處としてゐるので、その心の底に熱がある。表面、悠つくりしてゐるが、彼等が移民として、成功せんとする熱と力とは、蓋し賞讃すべきものがある。

(一)　移住地に同化せよ

成功には努力が必要

日本移民が滿洲に於て增加しないのは從來、支那官憲が壓迫したからだと言ふが、或はそれも一つの原因かも知れない。然し今日は滿洲國が出來て、さうした妨害はなくなつてゐるが、この妨害が無くなつたからと言つて成功が極めて容易であるとは言へない。必らず努力が必要なのである。

よく日本の移民は、滿洲に居りながら尙、內地と同樣の衣食住を欲しがつたりてゐる。例へば、態々日本から日本米を取りよせて食べたり、東京の百貨店から品物を小包で取り寄せたりしてゐるやうでは迚も成功は覺束ない。

內地の生活に囚はれるな

一體に日本人は植民地に於ても、日本內地の生活に囚はれすぎる傾向がある。殊に滿洲あたりでは、滿鐵の社宅にても納つて呑氣に暮さんと心掛てゐる者が多いから困つたものである。これではいけない。そんなことは標準にせず、支那人や朝鮮人の勞働者に負けないやうな覺悟で勞働でも何でもやる決心がなければならないのである。殊に今後の滿洲國は、呑氣な官吏や會社員は必要でないのである。自ら第一線に立ち酷寒と闘ひ、苦著と戰ふ人々を要求してゐるのである故に移民せんとする者は、能く其の地に同化し且つこの點を覺悟しなければならないのである。

支那人朝鮮人に負けずに

(二)　商業移民

大規模と小規模の商業

扨て、然らば今後滿洲に於ける移民は如何なる事業に携はつたら良いか、それを次に概說することゝする。

商業に活躍すると言つても幾百幾千萬の資本を投じ會社組織で貿易なり、銀行なりを營むといふものもあれば千圓か二千圓の小資本を持つて店を開かうといふものもある。恐らく後者に屬するものが多いであらうと思ふから、主としてその方面の事を記してみよう。

開店に就ての注意

何の商賣でもさうであるが、一軒の店を持つといふことになると、店の場所とか營業の種別やらを能く考慮せねばならない。只、慢然と人の話などを聞いて投資しては不可ない。加ふるに滿洲の如きは日本と總てに於てその事情を異にしてゐるのであるから、研究の上にも研究してからかゝらねばならない。

開店の場所

そこで本協會の調査に依ると、先づ差當り店舗を開かうとする處は、矢張り大連とか、旅順、瓦房店、大石橋、營口、鞍山、遼陽、吉林、ハルピン、奉天、撫順、鐵嶺、開原、公主嶺、四平街、長春、本溪湖、安東といふやうな大きな都會がよい、この他に局子街、鳳凰城、龍井村、海城、金州、龍子窩等もあるが、先づなるべく多數日本人の居る所がよい。勿論、日本人が滿蒙に於て日本人のみを相手として商賣してゐては所謂共食ひとなつて終ふが、然し小資本を以つて商業を初める人は、矢張り最初は日本人相手に商賣をし、次第に支那人を相手とするやうにするのが良いと思ふ。

支那人も商賣の相手とせよ

最初から支那人を相手とするのは大資本を有する者が貿易的にこれを行ふものである。今後滿蒙に於ける移民は、恐らくその重點を農業とか鑛業とかに置くであらうが、然し、商業は人の集る處必らず行はれるものであるから、この方面に志すのも有望であらう。從來に於ける滿蒙移民中、商業に從事する者が比較的多いのをみても、これが窺はれる。

小資本開業案内

尙この商店經營の詳細は別項「小資本開業案内」の處をみて頂きたい。唯、茲には移民の進むべき方向として商業が比較的容易で有望であるといふことを述べてをくに止めてをく。

(一三)　農業移民

滿洲國が建設され、門戸開放機會均等が實現されるに至つて、日本が最も期待を持つてゐるのは、

農業移民を期待

滿洲への農業移民である。從來、滿洲に於ける日本人は官吏、會社員、商人等がその大部分を占め、農業移民といふものは極めて尠なかつた。勿論、政治的乃至社會的の壓迫があつて農業移民が發達しなかつたのである。然るに今後は、どうしても滿洲に於て日本人が農業に從事し、大滿洲の富源を開發すると同時に、日本の過剩人口の吐け口を茲に求めねばならないのである。

農業移民悲觀說

然らば、果して滿洲への農業移民が可能であらうか、それを研究する必要がある。滿洲への農業移民に就ては悲觀樂觀の兩說がある。その悲觀說といふのは、

日本人農業勞働者は、その生活に於て勞働に於て到底支那人の勞働者に勝てない。支那人勞働者は極めて安い賃銀で而も勤勉であるから日本の勞働者はこれに壓迫され、どうすることも出來ない。故に日本人の農業勞働者は滿洲に於ては望みがない。若し日本人が滿洲に於て農業を經營するならば、それは大資本を投じて支那人勞働者を使用してやらなければならない。

といふのである。亦樂觀說といふのは、悲觀說を全々否定し、日本人と雖も決して支那人に負けないで農業勞働に從事することが出來るといふのである。卽ち

農業移民樂觀說

支那人の勞働者に日本人は到底叶はないといふのは、日本人の一般の常識となつてゐるくらゐであるが、事實、これは無批判に肯定されてゐることである。

滿洲の日本農民が支那農民と競爭して敗北したといふことは今までにその例がない。寧ろ日本人

の商人中には支那人の商人に敗北したものがあるかも知れないが農業者には事實それがない。なるほど支那人は粗食に甘んじ、勤勉であるかも知れないが、日本の農民と雖もまた粗食である。勿論衣食住を通じて日支の農民生活を比較する時は、日本人の方が、生活程度が高いが、然し、それも著しく相違するのではない。假令相違してゐても、日本農民には、支那農民に優る技術と資本と、組織力とがあるので決して支那農民と競爭して敗けるやうなことはない。

集團移民とせよ

これが樂觀論の主張する處である。

唯、茲には農業移民は集團移民がよいか、個人移民でも差支へないかといふ事を述べることゝする。大農主義にしろ、小農主義にしろ、農業移民は必らず集團移民たることが必要である。これは各方面の意見が一致してゐる處である。少くとも三百名位の農業移民が一團となる必要があらう。

大規模の農業が必要

以上の樂觀說は、農學博士橋本傳左衞門氏の說を借り來つたものであるが、現在の滿蒙は大資本を投じて支那人を使ふ農業よりは、寧ろ日本人自身が農夫となつて活動することを必要とするのである。支那人を使ふ農業は單なる資本の投資であつて、決して移民を增加せしめる手段にはならない。然し乍ら滿洲に於ては相當大規模の農業が必要であることは明らかであるから、日本人自身が幾十人か幾百人か一團となつて一つの大農園を經營するのが農業移民に最も必要なことである。自分で多少の資本金があるからと言つて滿洲に渡り五町か十町の小農で個人で營むことは、現在の處望みはないからである。かうした人は矢張り、他の希望者と共に一團となつて移住し、共同で大仕掛けの農業をせねばならないのである。（尙農業の經濟的の事情は「企業と投資」の項を參照されたい。）

個人自營は望みなし

（一四）牧畜移民

副業としての牧畜

牧畜業はどうかといふに、滿洲に於ては農家の副業として行はれるのみであるが、東部內蒙古に於ては專業として盛大を極めてゐる。這は、滿洲は既に能く開墾されて居り放牧の土地が少ない爲めであり東部蒙古は今尙放牧の廣野が蜒々と展けてゐる爲めである。故に滿蒙に渡つて牧畜を經營せんとするものは勢ひ東部蒙古に行かねばならないのである。

東蒙古の牧畜

東部蒙古の牧畜は極めて有望である。嘗て日本の事業家がこれを經營し成功を收めんとしたが、支那官憲の壓迫に依つて坐折するのやむなきに至つたけれども、今日に於てはこの壓迫妨害がないから牧畜業も極めて有望でこの方面に發展せんとする移民も相當に多いであらう。（詳細は企業と投資篇の牧畜業の處を參照して頂きたい。）

滿洲の主要礦產

（一五）鑛業移民

滿洲には、石炭、鐵、マグネサイド、ドロマイド、耐火粘土、金、銀、銅、鉛、鐵、水銀等を產

出し、現に南滿洲に於ては日本人の手に依つて石炭、鐵等が採掘されてゐることは周知の事である。この他將來日本人の手に依つて經營される鑛業は相當に增加するであらうが、然し、この事業は是非大資本に依つて經營せねばならぬので個人事業としては困難である。まして、赤手空拳を以つて滿洲に活躍せんとするもの、小資本を以つて何かせんとする者にとつては不向きの事業である。故に大資本を以つてこれを經營せんには有望ならんも、小資本を以つてしてはこれを經營することが出來ないことを識らねばならない。（詳細は「企業と投資」篇の鑛業に就ての項を參照して頂きたい。）

大資本が必要

(一六)　森林移民

滿洲の森林地帶

滿洲の森林地帶は鴨綠江流域、松花江流域、豆滿江流域、牡丹江流域、拉林河流域、東支鐵道沿線、奉地方、大興安嶺、小興安嶺等であるが、その面積は三千六百萬町步、立木蓄積は約百五十萬億石と推算されてゐる。

樹種は、朝鮮松、赤松、朝鮮唐檜、蝦夷松、カラマツ、モミ類、ナラ類、トネリコ類、ニレ類、キハタ類、胡桃屬、白揚類、樺類等であるが、この事業も鑛業と同樣、小資本を以つて行ふことは困難であるから是非とも大資本を以つてかゝらねばならない。

森林開發と日本人

今後、恐らくこの森林事業も日本人の手に依つて著しく開發されるであらうが、移民諸君は自ら經營するのではなく差當つてこの森林事業希望者はその會社に働らくことになるであらう。この事業の有望なことは、今更玆に言ふまでもないことは日本の森林が次第に減少してゆくことに依つても明らかである。（詳細は「企業投資篇」の森林業の處を參照して頂きたい。）

(一七)　水產移民

河川と漁業

滿洲には海岸の少ないことは地圖に依つて明らかである。故に水產業は極めて振はない。尤も鴨綠江その他の河川に於ても漁業が行はれるが、これも未だ發達はしてゐない。日本人は漁業に於ては、著しい技能を有してゐるから、滿洲に於てこれを起しても起せぬことはあるまいが、然し漁業よりも他の事業がより有望であり、日本としては國內漁業が世界的に發展してゐるから、態々滿洲に於てこれに力を須ひる必要はないと思ふ。從つてこの方面に志す移民は殆んどないものと思はれる。

(一八)　各種製造工業移民

滿洲の主要工業

滿洲に於て主要な各種の製造工業は、油脂工業、製粉業、釀造業、纖維工業、食料品工業、製鐵、

電氣瓦斯業、煙草製造業、製材業、藥製造業、煉瓦製造業、セメント石灰製造業、陶磁器及硝子製造業、染料及塗料製造業、皮革業、製絲業、毛織物業、肥料製造業等である。

工業品の需要增加せん

これ等は、多くは相當の大資本を投じて經營しなければならないが、亦小資本でも必らず經營出來ないといふことはない。故に、移民せんとするものは、よくそれを研究して、これに從事すれば必らず相當の成績をあげ得ること、信ずるのである。殊に今後益々文化に輝やかんとする滿洲國は多分に工業品の需要があるのであるから、これに從事するのも面白いことである。

(一九)　集團移民がよい

移民の形式

從來は個人的移民

次には移民の形式に就て述べてみようと思ふ。形式とは卽ち、個人的に移民するのがよいか、或は集團的の移民がよいか、それを研究しなければならないのである。從來の滿蒙に於ける移民は南米のそれと異なり、全く個人的の移民であつた。滿蒙に於て一旗揚げんとした者が資金を懷中に、或は空拳で出掛けたものである。然し今後の滿蒙は、さうした個人的の移民よりも商業その他の事業はともかく農業としては集團移民を欲してゐる。そしてそれが成功への近道でもあると思ふ。集團移民にも、一村をあげ、一部落をあげて、渡航するものと、個人個人が移民會社等の手に依つて、集團的に移民するものと二種類ある。嘗つて茨城縣の某村の者が一部落全部をあげて北海道に移住

集團移民の二種類

したことがあつたが、かうした移民は移民として最も根強く且つ成功するもので、出來ることなら、からした移民を多數に滿蒙へ送りたいものである。然し事實に於て一村、一部落を擧げて渡航するなどといふことは、極めて稀有のことであるから、餘り望めないことである。故に一郡なり一縣なりから渡滿希望者を募集し、それ等のものが集團的に移住することが最も良い方法ではなからうか。集團移民ならばお互に助け合ふ精神とお互に發展成功しなければならないといふ精神が熾烈であるから移民としての成功率が多い譯である。唯々、赤子空拳「滿洲へ行けばどうにかなる」などといふ漠然とした考へをもつて行くのは危險である。拓務省等に於ても今後の滿蒙移民は集團的であることを希望してゐるから出來るだけ集團移民を行ふのが良いと思ふ。

漠然とした考へは危險

集團移民の特長

(二〇)　多數の移民を送るのが成功

人を植ゑつけることが必要

既に幾度か述べたやうに、今後の滿蒙には人を植ゑつけるといふことが必要である。資本を使ふといふことも、勿論必要であるが、それよりも更らに人を一人でも多く植民せしむることが必要なのである、何んとなれば、日本人が多いといふことは、取りも直さず、日本の勢力を增すことになるからである。

よく、日本人は植民地に於ては到底、支那人には叶はない。シンガポールに於ても、ボルネオに

於ても、スマトラに於ても、至る處の植民地に於て、支那人に劣つてゐるといふことを耳にする。滿洲に於ても、日本人は多く支那人の家を借りて住み、支那人から金を借りて商賣をしてゐるものがあり、全く支那人の努力に支配され、その經濟力に於ては支那人に頭が上らないと言はれてゐるが、これは或程度までは事實である。

日支人の比較

然し乍ら、日本人と支那人と一人宛比較してみれば、決して日本人が總ての點に於て劣つてゐるとは思へない。成程植民人としての日本人の缺點は既に述べた通りであるが、一面に於て日本人は支那人に優る幾多の長所を有つてゐる。故に吾々移民は、その質も大切であるがその量も亦大切であると思ふ。滿洲に於て日本人が支那人に經濟力に於て劣つてゐると言ふものゝ、それは支那人が非常に多いからで、その多い中から幾人かの成功者が出てゐるから、支那人が優勢に見えるのである。南洋各地に於ても亦然りである。例へば、シンガポールに於ける日本人數は、漸く三千餘人にすぎないが、支那人は、十萬人からの支那人のうちには苦力その他殆んど乞食に等しい生活をしてゐる者が、相當多數を占めてゐる。支那人と雖も必らずしも植民地に於て全部が成功してゐるとは言へない。この點に於て日本人は、比較的、慘めな生活をしてゐる者は少ない。故に若しシンガポールに日本人が支那人と同じだけの人口を有つならば、それこそ日本人の勢力は著しいもので、優に支那人を凌駕するものがあるのである。例へば、布哇に於ける日本人をみるに、その數は十三萬人に近く支那人は勿論、米國人をも凌駕する勢力を有してゐる。

日本人勢力支那人を凌駕

この點から考察するに、日本人が植民地に於て比較的發展せぬと云ふのは質の問題でなく量の問題であるといふことが出來る。勿論質と量と兩つながら相俟つて居れば結構であるが、遺憾ながらそれは望めないことである。

移民の質と量の問題

故に吾々は滿蒙に日本移民を送るに於ても、成るべく多數の者を送りたいと思ふ。日本内地の人口は過剰を來してゐるから百萬、二百萬は愚か、五百萬一千萬人の日本人を滿洲國に送つても良いと思ふ。移民の數の多いといふことは、その土地に於ける勢力を得る點に於て最も必要なことである。例へばシンガポールは英帝國の植民地ではあるが、その移民の大部分が支那人である故に、その習慣、風俗等は全く支那で、謂はば事實上第二の支那を築いてゐると同樣なのである。

日本人の經濟的勢力

拓務省に於ても出來得る限り多數の移民を滿洲に送らんとしてゐるが、これは極めて策を得たもので、多數の日本人が行けば行くほど、滿洲は日本人に住みよくなり、且つその生活も樂になり、日本人の經濟的勢力も增大してくるのである。行け一人でも多く滿蒙の天地に行かんことを吾々は切に希望するものである。

第二　滿洲移民の生活と收入

(一)　滿洲の生活

冬寒くて夏暑い

滿洲の生活、それは一體どんなものであらうか。先づ第一に滿洲は冬寒くて夏暑いと言はれてゐる。これは言ふまでもなく大陸の爲めである。この氣候の激變は、溫帶地に生れた日本人にとつては相當辛いものに違ひない。然し、多くの人が住んでゐる以上、決して住めないことはない。赤道直下にも零下何十度の地にも人が澤山住んでゐる以上、日本人が住めないことはない、殊に馴れると案外、寒暑も凌ぎよくなるから、それほど心配することはない。

滿洲の氣候も馴れると平氣

物價は内地より安い

物價は日本内地よりも比較的安く、反對に收入は多いのであるから、内地の生活に比して餘程樂な譯である。

死亡率も減少してゐる

死亡率はどうかといふと、現在では約十五パーセントで、日露戰爭當時から思ふと非常に減少してゐる。その當時は獨身者が多く且つ衞生思想も設備も發達してゐなかつた爲めに死亡者が多かつたが、今ではこれが次第に減少し、前記の如く僅かに十五パーセントになつた。

出產率は最近三十三パーセント乃至三十四パーセントで死亡率に比し差引十九パーセントの增加を示してゐる。これは在滿日本人が比較的多く病氣に罹ると言はれてゐるが、然し治療機關が完備

治療機關の完成

東洋第一と稱する大連病院

してゐる爲め死亡率はその割に少ない。事實、滿洲に於ける病院は極めて完全なもので大連病院の如きは、正に東洋第一と言はれてゐるくらゐである。故に滿洲に行つて病氣に罹つたらどうするなどと心配する必要はない。大いに安心してもよい。

比較的日本化した生活

しても、寺院にしても、殆んど内地と變りないまでに發達してゐるから、滿洲の生活と言つても決して日本から非常に懸け放れた生活ではない。南米や、南洋に居る日本人の生活に比べて餘程日本化してゐるから、初めて外國へゆく人でも決して滿洲に行くことに就ては心配することはない。

(二)　生活と收入

移民の目的

生活と收入、これほど吾々にとつて切實な問題はない。故郷の山河に別れ、日本の天地に別れ、遠い南米にゆくのも、暑い南洋へゆくのも、寒い滿洲へゆくのも、皆、より良い生活と、より多い收入を得ん爲に他ならない。勿論、中には、日本國民として、日本の勢力を扶植せん爲めに雄志を抱いて植民地へゆくものもあらうが、それにしても矢張り、經濟的發展を欲しないものはないのである。

移民第一に考ふること

そこで、移民が第一に考ふることは、自分の移住せんとする土地に於ては、どれくらゐの收入があり、どんな生活が出來るかといふことである。勿論、移民の生活と收入と言つても、それ〳〵職

業に依つて異つてゐる。勞働者もあれば官吏もある、商人もあれば會社員もある。

亦生活と言つても都會の生活もあれば農村の生活もある。それ〳〵地方に依り職業に依りその生活程度や樣式が違つてゐる。殊に滿洲に於ては支那人や朝鮮人と共に一團となつて生活せねばならぬこともあるから、その生活樣式は內地に比較して極めて複雜である。そこで本講座に於ては、出來得る限り詳細に、この滿蒙に於ける日本人及支那人の生活と收入といふことに就て述べてみようと思ふ。

複雜な生活樣式

(三)　日本人の勞働者の生活と收入

技術のある勞働者

日本人の勞働者と言つても、滿洲には、あまり日本人勞働者は居ないのである。居るのは技術を有する勞働者、卽ち大工とか左官とか、印刷職工とか、さうした勞働者のみで體力のみで働らく土工とか人夫といふやうなものは極めて稀である。農業を經營してゐる日本人はあるが、事實自ら勞働して耕作に從事する者は極めて少なく、皆、支那人又は朝鮮人の勞働者が農業勞働に當つてゐる。

然し、今後は農業移民が多くなるであらうし、多數の日本人が行くだらうから、純然たる肉體勞働者も出てくるであらう、殊に、農業勞働者は增加してくる見込みであるから、日本人だからと言つて、何時でも支那人朝鮮人のみに勞働させ、自分はこれの經營者として、懷中手をしてゐる譯にはゆかないことになる。亦、今後の滿蒙移民は、自ら勞働をするくらゐの覺悟がなければならないと思ふ。

今後の勞働移民

然らば、從來、滿蒙に居つた技術勞働者はどれくらゐの收入を得てゐたかといふに、滿鐵調査課の調査に依る昭和五年一月現在の大連に於ける日支人賃金比較は次の通りである。

大連に於ける日本人技術勞働者と支那人との比較

大連に於ける日支技術勞働者賃金比較

職別		最高	最低
		円	円
大工	日人	三・二五	二・一〇
	支人	一・二〇	〇・六〇
左官	日人	三・〇〇	一・九〇
	支人	一・三〇	〇・三〇
畳屋	日人	三・二〇	二・八〇
	支人	二・八〇	〇・九〇
硝子職	日人	三・二〇	一・八〇
	支人	一・二〇	〇・五四
洋服師	日人	二・八〇	一・四〇
	支人	二・二〇	〇・三六
靴工	日人	二・一〇	一・二〇
	支人	一・八〇	〇・四五
煉瓦工	日人	三・〇〇	二・〇〇
	支人	一・三〇	〇・七〇
印刷工	日人	三・〇〇	〇・五五
	支人	一・九〇	〇・三七
雜役夫	日人	一・三〇	〇・四一
	支人	〇・三三	〇・一三

日本人は支那人の約倍の賃金

この統計に依ると、日本人は支那人の約倍額の賃銀を得てゐることになる。これは技術的に優秀

であるばかりでなく生活程度が高い爲めである。

然らば、日本内地に於ける勞働賃金と滿洲に於けるそれとは、一體どれくらゐの相違があるか、これを調査してみると次の通りである。（昭和五年末滿鐵調査課調査）

東京大連勞働賃銀比較表

職業別	大連賃銀	東京賃銀	職業別	大連賃銀	東京賃銀
	円	円		円	円
大工職	三・五〇	一・八七	指物職	二・八〇	二・二五
石工	三・五〇	三・八〇	畳職	三・二〇	三・三〇
硝子工	三・六六	二・七〇	洋服工	二・八〇	二・四六
靴工	二・五〇	二・〇七	ペンキ工	二・五〇	二・八二
鍛冶職	二・七〇	三・八二	煉瓦職	三・五〇	三・四三
瓦工	三・八〇	三・六〇	活版工	三・〇〇	三・五五

以上の數字に依ると、東京の賃銀よりも遙かに大連の方が高給で、大工、指物、ペンキ工の如きは遙かに高い、石工、畳職、瓦工の如きは殆んど同額で、東京の方が高いのは印刷職工のみで他の全部が大連の方が割高であることは、注目すべきことで、これに依つて滿洲の方が内地より、收入の多いことが窺はれる。勿論、この統計は、昭和五年のものであるから、今日より幾分高給である。然し今後、滿洲國の建設の爲めに各方面の業界が活況を呈してくるから、賃銀も幾分高くなつてくるであらうと思はれる。尙工場熟練工もそれと殆んど同額である。右の職工賃銀から計算すると大工さんが一ヶ月二十五日働くものとみて、百三圓七十五錢、石工が百圓、畳工が八十圓になる。その他の職工もそれ〳〵七十圓以上百圓内外になる。勿論、これは絶えず仕事があつての事であるが不景氣の時は杜絶えることがあるものと考へねばならない。然し、兎に角、一ヶ月七十圓以上百圓位の收入があるとみて差支へない。

賃銀は東京より大連の方が高い

滿洲に於ける生活費

然らばこれだけの收入があつて、生活費はどれくらゐ費るであらうか、これをも調査する必要がある。先づ滿洲に於ける日用品小賣物價を調べてみるに、昭和五年に於ては次の通りである。

大連、東京、物價比較表

品名	大連相場	東京相場	品名	大連相場	東京相場
白米	三斗（上等米）四・五〇	八・八〇	砂糖	一斤（三盆白）〇・〇六	一斤（太白）〇・一八
醤油	一升（上）〇・五〇	一升（山サ）〇・六〇	味噌	百目 〇・〇六	一斤 〇・〇六五
牛乳	一合 〇・〇五	〇・〇八	豚肉	上 〇・二八	上 〇・八〇
鶏肉	〇・五五	上	鶏卵	十個 〇・一六	百匁 〇・一六
ビール	一本 〇・二五	一本 〇・三五			

これに依つてみるに大體に於て大連の日用品物價は安い。殊に、米、鳥肉、獸肉、味噌、鶏卵等は非常に安い。以前は滿洲の食料品は不味いと言つて、態々日本内地から取り寄せたものであるが、

滿洲で日本食料品を使ふ不經濟

然しそれは贅澤であり且つ、今日に於ては料理法が上手になつてゐるので、滿洲の食料品であるからと言つて決して不味い譯はない。殊に米の如きは、陸穗は質は良くないが、水穗は最近内地米に劣らぬものが生産されるやうになつたので、内地米を使ふ者は次第に減少してゐる。良い傾向である。

滿洲の家賃

滿洲に移住して、徒らに日本品を取寄せて日常生活に用ふる如きは愚の至りで能く滿洲に同化しなければ成功はしないし、生活費が高くなつて不可ない。然らば、凡そ幾何の生活費を要するか、それは各個人の生活に依つてそれ〳〵違ふけれども凡そ家賃食料品等からみて内地より安くあがる事は事實である。卽ち百圓の收入のある職工が家族を數人として家賃二十圓、その他の生活費五十圓もかければ普通の生活が出來るのである。唯生活費といふものは贅澤をすれば限りないから、幾何で出來ると言つて限定することは出來ない。一ケ月五十圓でも四十圓でも生活出來ないことはない。要するにその人の心掛け次第である。兎に角、滿洲の職工賃銀は東京より遙かに高く、且つ食料品が安いから生活に相當の餘裕のあることは事實である。故に徒らに植民地氣分に囚はれず、酒色に恥るやうなことがなければ相當の貯蓄の出來ることは明らかである。故に能くこの點を考慮して生活をすれば將來大を爲すことが出來ると想ふ。

(四)　日本人月給生活者の收入

滿洲の食費

滿洲の食料品を用ひよ

月給生活者と言つても、月給五十圓くらゐの下級社員から年俸何萬圓と云ふ重役もあり、加ふるに、その勤務する會社に依つても種々の條件が異ふので、一概にこれを論斷することが出來ないが、内地の會社員の月俸に二割乃至五割の加俸が附くのである、官吏は内地の月給の他に高等官は四割五分、判任官は七割五分の加俸がある。恩給制度は關東廳官吏に對しても植民地加算規定があり三ケ年以上勤務したものには一ケ月につき半ケ月の加算をするので、事實上内地より早く恩給がつくことになつてゐる。

然して生活費はどうかと言ふに、一人當りの食費が一ケ月十圓乃至十五圓あれば充分である。節約すれば最小限八、九圓でも足りる。要するに滿洲に行つてからは、出來得る限り滿洲の食料品を用ひると生活費が安くつくからその點も考慮する必要がある。

家賃は東京よりも多少安いと思はれる。卽ち大連、奉天、新京では二十坪乃至二十五坪の煉瓦造り平家が一ケ月三十圓乃至五十圓内外である。勿論同じ市内に於ても場所に依り相違のあるのは當然である。官吏の收入も、生活も、會社員と殆んど大同小異であるから茲に省略することゝする。

(五)　日本人農業商業勞働者の收入

農業に從事する者のうちには、自作農小作農等があるが、これ等は何れも、自分の計算に於て、

農業勞働者の收入

一年なり半年なり經つて、その剩餘を得るのであるから、月給生活者のやうに一ヶ月幾何の收入があるといふことは出來ない。これ等自作農小作農の他に純然たる農業勞働者があるが、これは所謂日傭農業勞働者である。茲に述べんとするのはこの農業勞働者の事である。今後、農業移民が增加するであらうから、自作、小作農以外にこれ等農業勞働者も相當に增加するであらうと想ふ。然らば、この農業勞働者の賃銀はどれくらゐであるかといふに、從來、この種の日本人勞働者は、殆んどなかつたので、その賃銀の如きも、これを明記することは出來ないが、然し朝鮮人、支那人の農業勞働者賃銀からこれを推算することが出來る。卽ち、昭和四年に於ける朝鮮人農業勞働者の賃銀は平均八十錢、支那人は四十九錢である。他の日本人職工勞働者は支那人のそれに比較して約倍額の日給を得てゐるから、日本人農業勞働者もそれと同樣、倍額にしても日給平均九十錢位である。今後滿洲國の經濟狀態がどう展開してゆくか豫斷することは出來ないが、恐らく日本人農業勞働者は日給一圓內外であらうと觀測される。

商業勞働者の收入

商業勞働者といふのは多くは店舖に雇はれてゐる店員又は店の荷造りその他を手傳ふもので所謂雜役夫を言ふのである。商店の番頭小僧等の收入は內地のそれに二割位を加へたもので、先づ中等學校出の店員が住込みで二十圓、小學校出が五圓から十圓位である。勿論、この給料は雇主に依り相違してゐるが、大體は以上のものが標準になるものである。

支那人の收入

以上に於て、大體、日本人の勞働者、會社員、官吏等の收入と生活費は大體想像がついたと思ふが、更らに茲に一言せんとするは、概して滿洲の月收が內地に比して多い事實である。

(六)　支那人の收入と生活

滿蒙移住民の生活と收入に就ては旣に述べた處であるが、次には、支那人の勞働者、官吏、會社員等の生活と收入に就て述べることとする。こは支那人の生活が移住民の生活に非常な參考になると思ふからである。先づ昭和四年に於ける新京、大連、奉天、安東に於ける支那人勞働者の賃銀を記してみよう。

支那人勞働者賃銀

	新京	大連	奉天	安東		新京	大連	奉天	安東
大工	〇・六〇	一・四〇(大洋)	一・〇五		木挽	〇・六〇	一・二〇(大洋)	—	
指物	〇・四四	〇・八〇(洋)	一・〇〇		左官	〇・六三	〇・八五	一・五〇(大洋)	一・二〇
石工	—	一・四〇(洋)	一・九〇		屋根職	一・五〇	一・二〇	〇・九〇	—
ペンキ職	〇・八〇	〇・七〇	一・〇〇		鋲力職	—	〇・八〇(洋)	一・〇五	〇・五〇(洋)
鍛冶職	—	〇・七〇	一・四五		活版職	一・〇〇	一・四〇	一・〇〇	〇・九〇
洋服工	一・〇〇	一・四五	〇・九五		靴工	〇・六八	一・五〇	一・四〇	一・五〇
苦力	〇・二六	〇・四〇	〇・三〇						

北滿と南滿の賃銀

この統計に依ると概して大連、安東の賃銀が高く、新京、奉天が安い。從來北滿が南滿に比して賃銀その他が安いことは事實であつた。これは。南滿の文化が發達し、經濟力が發達してゐる爲めで、この現象は獨り、支那人に對してのみならず、日本人に對してもさうであつた。

支那人の各種工場賃銀

然るに今回、新滿洲國の建設に依り、首都は新京に移り、移民は北滿地方へ多く送られんとして居るので、今後の北滿地方は非常な發達を來さんとしてゐる。從つて同地方に於ける賃銀も幾分高くなることは事實である。

尙、參考の爲めに各種製造工場に於ける支那人の賃銀を記してみれば、紡績工が最高一圓八十五錢、最低三十一錢、機械工場が最高二圓八十五錢、最低二十五錢、油房工場が最高一圓六十七錢、最低三十二錢、燐寸工場が最高六十七錢、最低十二錢、製紙工場が最高一圓九十錢、最低二十五錢、煙草工場最高六十九錢、最低三十五錢、印刷工場最高二圓五十八錢、最低三十二錢等である。

支那人商店員の給料

以上は昭和四年度の統計に依るもので現在に於ては幾分下落してゐる。

月給生活者は、大體に於て日本人の半分乃至それ以下である。また、商店の番頭や小僧の給料は極めて安く、大商店の支配人でも五十圓內外であるから小僧の如きは殆んど小使錢ぐらゐで働らいてゐる有樣である。

尙、支那人の生活程度は非常に低く從つてその生活費も極めて安く苦力の如きは一ヶ月五圓ぐらゐで生活してゐるから、他の生活費も推して知るべしである。要するに支那人の生活費は普通でも日本人生活費の半分又はそれ以下である。

第三　滿洲に於ける移民の就職に就て

(一)　就職の方法

失業者多し

歐洲大戰後の世界的不況の爲め、世界各國に失業者が簇出し、これが救濟問題と就職問題は、社會問題の一つとして極めて重要視さるゝに至つた。

その結果世界各國とも失業救濟と就職紹介の爲めに種々の機關を設けたり、種々の制度を設けたりしてゐる。吾が日本に於ても亦內務省社會局を初め各府縣都市の自治體に於て失業救濟と職業紹介事業に相當の力を用ひるやうになつてゐる。

事實現在に於ける日本の失業者は幾十萬かに達してゐるが、各種事業不振の折から新たに人を雇傭する所も極めて少ない。從つて、滿蒙へ移住せんとする者は、この失業者が相當數に上るであらうと思はれる。

滿蒙へ移民せんとする者は、

一、既に働く所が決定してゐる者。
一、未だ働く所の決定せぬ者。
の二種に別れてゐる。

就職運動の別

素より理想としては、働らく所を決定してから行くのが良いが、多い移民のうちにはさういふ人ばかりはない。これから滿洲に行つて働らく所を見つけようとする者が相當にあらうと思ふ。茲に於て、滿洲に於ては如何なる方法に依つて就職したらよいか、それを研究する必要がある。先づ就職するには、

一、自ら運動して就職するもの。
二、人の紹介に依つて就職するもの。
三、新聞を利用して就職するもの。
四、職業紹介所を介して就職するもの。
五、募集に應じ試驗を得て就職するもの。

等がある。

紹介なしの就職運動

第一の自ら運動して就職する者といふのは、人の紹介にも據らず、自ら直接入社せんとする會社なり商店なりを訪問し、事情を話して就職せんとするものである。然し、全然何等の緣故もない處を訪問するのも妙なものであるから、自分と同鄉の者とか、或は、學校の先輩とか、或は知人とか、さうした人を訪ねて、就職を賴むのが良い方法である。殊に滿洲の如きは、各地各縣の人々が雜居する所であるから何等かの關係がないと信用しない憂ひがある。

人の紹介に依る就職運動

第二の、人の紹介に依つて就職をすることは、就職運動としては、最も普通の方法であり、且つ亦、相當の效果があるものである。故に內地の知人から滿洲に居る人への紹介狀を持つて行くか、然らざれば滿洲に行つてから知人を訪ね、その人から自分の就職せんとする處へ紹介狀を貰ふのがよい。紹介者は成るべく社會的地位の高いものが效果があるのは言ふまでもない。例へば、滿洲の或る會社へ入社せんとするに、その會社の社長宛か又は他の重役宛の紹介狀を持つて居れば、それは極めて有效である。同じ紹介狀でも信用のない人の紹介狀などは、却つて自分自身の信用をも害し就職を一層困難又は不可能ならしめるものがあるから、この點充分考慮しなければならない。

新聞廣告利用の就職

第三の新聞廣告を利用して就職することは、外國に於ては旺んに實現されてゐる。近年、日本に於ても、これを利用する者が激增して來たことは、誠に喜ぶべきことである。何となれば、從來、日本人は新聞廣告を利用して就職することを一種の恥と心得てゐた者が多かつたが、今日に於ては、それが次第に減少してきた。故に滿洲に於ても、これを利用する者が多いであらうから、紹介狀もなく緣故もない者は、新聞を利用するのも一つの方法である。

新聞廣告利用には、自ら「被雇度」といふ廣告を出して雇主を探す者と、「雇入」といふ廣告をみてその廣告主の處へ行くものと、二つの方法がある。多くは後者を利用するが、中には前者を利用する者もある。雇入廣告をみて就職せんとするには、競爭者が多いから、それに打ち克つ學歷なり體力なり、經驗なりを有つてゐなければならない。

滿洲には、滿洲日報等の有力新聞があり、何れも職業紹介欄を設けてゐるからこれを利用するのが良い。

第四の職業紹介所を利用して就職することは、內地に於ても益々旺んになつてゐる。滿洲には比較的職業紹介機關が未だ發達してゐないが、然し幼稚ながらも二三設けられてあるから、次に紹介することゝする。

(二)　就職の機關

大連市設職業紹介所

この職業紹介所は大連市設で、常盤町の社會館內に設けられてゐる。

昭和五年中に於ける紹介成績をみるに、男の求職者が、一千六百七十五人で求人數は四百七十八人である。そして紹介の結果就職したのは三百九十七人であるから、就職申込者の約四分の一が就職してゐる。

大連市設職業紹介所

紹介所の成績

男女別の就職率

女の方はどうかといふと男よりは求職者は遙かに少く二百五十八人で、就職者は約半分の百二十三人である。男の二割五分の就職率に比して女は五割の就職率を示してゐる。これは滿洲は比較的女が少なく、女を欲しがつてゐる所が多いことを物語るものである。

卽ち男女合計の求職と就職の比率を見ると、求職は一千九百三十三人で、求人は七百三十七人、そして就職した者が五百二十人で二割七分になつてゐる。

昭和四年度に於ては、求職數が千六百〇二人、求人數が千〇五十六人、就職決定が五百〇一人で三割一分の就職率を示してゐる。五年度よりは成績がよいが、これは年一年と不況になつてゆくことを示すものと考へられる。

日本內地の就職と滿洲との比較

日本內地に於ける就職紹介はどんな成績をあげてゐるかといふに、中央職業紹介事務局の調査によると、昭和六年度に於て全國の求職者は男九十二萬八千三百六十四人で就職決定が二十七萬七千九百四十人であるから三割五分に當つてゐる。女の求職者は、四十三萬七千七百九十七人、就職決定者數は二十萬三千九百五十三人で、四割七分に當つてゐる。男女合計の求職者數に對する就職者數の比率は約二割九分弱である。大連の方は二割七分であるから東京より大連の方が幾分就職率が低い譯である。この點からみると、昭和五年に於ても六年に於ても決して滿洲は東京よりも就職に

就ては容易ではない所であつた。然し、右は滿洲國建設前の統計であるから、これを以て今日の狀況を斷ずることは出來ない。今後は恐らく滿洲の職業紹介事業も發達し、その成績も見るべきものがあるだらうと想ふ。

尙この大連職業紹介所には臨時勞務紹介機關が設けられてある、昭和五年中に五百五十九名の就職を實現してゐるが、此處で取扱ふ求職者は、移轉の手傳ひとか、掃除とか、看視とか、筆耕とか、廣告配布とか臨時の勞務者のみである。

大連勞務紹介機關

長春(新京)聖德會の職業紹介

長春聖德會の職業紹介

この聖德會は長春(新京)祝町に在り、大正二年五月設立されたもので會員は新京に於ける土木建築業者である。本會は長春に於ける勞働賃銀の標準率を決定したり、聖德太子の祭禮等を行つてゐるがこの他職業の無料紹介を行つてゐる。

新京勞働保護會

新京勞働保護會

本會は、新京住吉町に在り、元關東州勞働保護會の新京支部であつたが、昭和三年九月に右のやうに改稱して獨立經營するに至つた。事業內容は、免囚者、失業者、貧困者の救濟保護の他、職業紹介等を行つてゐる。本會は永井守一氏の個人經營である。

以上が滿洲に於ける職業紹介所で、大體大連の職業紹介所が大部分の紹介事業を行つてゐるの

であるが、今後、奉天、新京等にもかうした設備が發達するものと思ふ。

次には第五の募集に應じ試驗又は詮衡を經て就職するものであるが、これは主として大きな會社などで行ふ方法である。卽ち、幾人かの應募者の中からその社の重役等が試驗又は詮衡に依り、人物、學力、體格その他を觀て選拔するものである。滿鐵などは現にかうした方法で新社員を入社せしめてゐる。

以上、滿洲に於ける就職の事を摘記したが、若し滿洲に行つて失業した場合、又は滿洲に行つてから職を得ようとするには、如上のやうな方法に依つて就職するのが良いのである。

第四　滿洲の社會施設

滿洲に於ける社會施設の一般を知ることも亦新しく滿洲に行かんとするものにとつては極めて必要である。滿洲の社會施設は大體、(一)社會機關、(二)社會教育機關、(三)救濟機關、(四)經濟機關に分類することが出來るが、これを摘記すれば次の如きものである。

(一)　社會機關

滿洲社會事業協會　本會は大連民政署の中に設けられ、

一、社會事業團體及び社會事業關係者相互並に一般社會との連絡協調。
二、社會事業に關する調査及び研究。
三、社會事業に關する統計、圖書その他參考資料の蒐集。
四、社會事業功勞者の表彰及び社會事業從事者の奬勵。
五、地方改善並に福祉事業の助成。
六、會報、研究資料、月刊會報「滿洲社會事業」の發行。

等を行つてゐる。昭和六年二月の設立で滿洲に於ける最も重要なる事業協會の一つである。

大連海務協會　大連市寺內通りにあり、專ら船舶に關する試驗檢査等を行ひ講演、「海友」の發刊等をしてゐる。

滿洲建築協會　大連紀伊町に在り滿洲建築の發達に關することを事業の目的にしてゐる。

滿洲電氣協會　大連遞信局內に在り、滿洲に於ける電氣事業及び電氣利用の進歩發達をその目的としてゐる。

滿洲體育協會　大連市滿鐵本社內にあり、現在三百名の會員を有してゐる。

滿洲遞信協會　大連遞信局內にあり遞信事業關係者の團體である。

滿洲土木建築業協會　大連市山縣通りにあり、前記の滿洲建築協會と異り、土木業者をも含んでゐる。

中日文化協會　大連市紀伊町に在り、滿鐵及び關東廳　後援の下に日支兩國人の協同の機關として大正九年創立、雜誌、書籍の發行、展覽會、視察旅行その他日支人の向上融和の爲めの事業を行つてゐる。

滿洲青年聯盟　大連山城町に在り、滿蒙諸問題の研究、民族の發展を期するを以てその目的としてゐる。

金州會天足會　金州東街に在り、中國婦女子の纏足を矯正するを目的として生れたるもの。

亮甲店會天足會　前項と同一の目的を以て生れたるもの。

露天市場　大連市橋立町に在り、下層支那人の生活、保安、衞生の萬全を期する爲め且つ肅親王府の家計を助ける爲めに生れたものである。

碧山莊　大連市東山町に在り、大連埠頭に於ける海陸荷役業に從事する苦力を收容するを目的として生れたるもの。

華工歡樂園　撫順炭礦の從事華工五萬の爲めの娛樂機關で、劇場、店舖、クラブ、遊廓、浴場等がある。

社會教育機關
大連キリスト教青年會
中華青年會
田崎育英會
振東學社
教化事業奬勵會
大連青年團
大連天業青年團
其他の團體

(二)　社會教育機關

大連基督教青年會　大連市敷島町に在り、青少年の修養機關で、體育、修養等を行ふ設備を設けてゐる。

中華青年會　大連市浪花町に在り、支那青年の教化機關で、教育、運動、救濟、慰安等をその目的としてゐる。

田崎育英會　大連市浪花町に在り、青年學生に給費して人材養成を目的としてゐるものである。

振東學社　大連市光明臺に在り、青年の精神修養、人材養成を目的とし、現にこの學社から多數の學生が他校に通學してゐる。

教化事業奬勵會　關東廳及び滿鐵附屬地に於ける教化事業の助成を目的とするもので、一萬七千圓の恩賜金を基礎とせるもの。

大連青年團　精神修養、體育その他を目的とする自治的修養團である。

大連天業青年團　大連市天神町在り、日蓮宗に關係する者の修養を目的とするもの。

以上の外金州青年團、瓦房店青年團、奉天青年團、撫順青年團、鐵嶺青年團、大連少年團、旅順少年團、長春健兒團、撫順少年團、奉天少年團、安東健兒團、金州少年赤十字團、貔子窩少年赤十字團、周水店少年赤十字團、柳樹屯少年赤十字團等があり、その目的は何れも日本內地のそれと同樣である。

救濟機關

(三)　救濟機關

慈惠資金　大正元年慈惠資金七千圓を關東州へ御下賜になつたが、これを基礎としたもので、現在では毎年一萬圓內外の資本金を支出し救濟事業に充ててゐる。

撫順鴻慈院　撫順の千金寨支那町に在り、一般下層支那人の無料施療を目的として生れたもので毎月約千人の患者を取扱つてゐる。

日本赤十字社滿洲委員部　關東廳內に在り、會員八萬七千人を有してゐる。

長春聖德會　長春祝町にあり、職業の無料紹介、長春に於ける各種勞働賃銀の標準率設定、講演會の開催等を目的としてゐる。

關東方面委員　大連民政署內に在り、その目的は、社會並びに生活狀態の調査、困窮者の救助保護、兒童の保護指導、戶籍の整理、諸屆の勵行、相談指導、周旋紹介、社會教化、福利增進等である。

救世軍育兒婦人ホーム　大連市播磨町にあり、滿洲婦人救濟、孤兒貧兒等の收容。具體的に言へば、

不遇の婦女、孤兒、貧兒、棄兒、不良兒を收容救濟するのを目的としてゐる。

勞働保護會　大連市松林町に在り、免囚者の保護善導、窮民の救濟等がその事業である。

長春勞働保護會　新京（長春）住吉町にあり、本會は其の名の示す通り免囚者、失業者、貧困者等の救濟保護及び職業紹介等をなして居る。

財團法人爲仁會　大連泰山街にあり、免囚保護事業を目的として居るものである。

鎌倉保育園旅順支部　旅順旭川町にあり、不遇兒童の救濟、不良兒の感化がその仕事である。

大連宏濟善堂　大連恵比須町にあり、中國人唯一の慈善救濟機關であつて、支那人の無料救濟を目的とし、施療、恤寡、撫孤、育嬰、養老、施棺、義葬、濟困の事業を行つて居る。

同善堂　奉天城外大關西高臺廟にあり、所謂社會救濟の施設である。

大慈園　大連市攝津町にあり、老若を問はず自力に依り生活し得ない者又は扶養者なき者等の收容を仕事としてゐる。

智光院無料宿泊所　大連恵比須町にあり、貧困者の無料宿泊をさせるのがその目的である。

教養工廠　撫順炭礦區内にあり、中國從業員の業務上の傷病に起因し、退職後救濟を要する者を收容し、授産の途を講じてゐる。

鞍山濟生會　鞍山地方事務所内にあり、鞍山市に於ける防貧、救貧を目的として生れたもの。

滿洲結核豫防會　關東廳内にあり、關東州及び南滿洲に於ける結核の豫防、撲滅を圖るのが目的である。

滿洲託兒所　大連市春日町にあり、目的は託兒の仕事である。無料、有料に別れ、有料はまた、收容、臨時、通ひの三つに別れてゐる。

小谷育兒ホーム　奉天稻葉町にあり、一家の生計をなし得ざる者、勤務その他の事情に依り育兒上支障ある者に對し、之が保護をなしてゐる。

世界紅卍會大連分會　大連市武藏町にあり、全國の各都市及び各省城に其支分會を設け、天災地變の爲めに苦しむ同胞、同じ境地にある世界各地の人類のために救濟保護の任に當るといふのが本會の目的である。

大連山東同鄉會　大連市寺内通りにあり、目的は山東省出身者の相互扶助であり、同鄉人の利益を維持すること。同鄉人にして大連地方に流浪し來り、貧困でその身邊りなき者を補助すること。大連在住の同鄉人の死亡の後、その遺族に生活の資なき者には、之を補助して歸鄉せしむること。同鄉の婦女子にして、誘拐せられ來るものに對し、適宜の方法に依り之を救濟し、歸還せしむること。同鄉地方に天災地變の生ぜし際は、直ちに救濟方法を講ずること。大連在住の同鄉人の子弟、兒童に對し、務めて普通教育を授くること。貧民工場を設立し、同鄉人の失業者を收容すること等

が本會の仕事である。

大連同善社　大連市長安街にあり、儒教、佛教、道教を講ずることに依り、修心養性、勸善改過に導き、各地の天災地變、兵亂匪禍に對しては救濟金を募集して、災民を救ひ、貧民教育に當り、難民救濟事業に對しては之を贊助するといふのが目的である。

(四)　經濟機關

關東廳職員大連購買組合　大連市民政署内にあり、關東廳職員の生活費の安値を計り、且つ生活の向上を計る目的の爲めの機關である。

遞信局職員購買組合　大連市にあり。その目的は前者と同じ。

滿鐵社員消費組合　大連に本部を置き沿線主要驛に支部を置く。組合員の爲めに、必要な物品を購買し、又は生産し、之に加工し若くは加工せずして、組合員に分配するを目的とする。

(五)　大連市の社會施設

社會館　濟貧救恤を目的とする。

職業紹介所　常盤町社會館内にあり、求職、求人、就職等の世話をしてゐる。

臨時勞働紹介　移轉手傳、掃除、看視、筆耕、廣告配布等の紹介をするものである。

簡易宿泊所　浴場、娛樂、修養等の設備がある。

簡易食堂　獨身者、若しくは家庭生活の安定なきものに、簡易低廉を旨として、食券を發賣し食事を供してゐる。

教化施設　市主催又は公共團體に、教化材料を實費を以て供給して居る。

技藝講習　家庭婦人に必要なる技藝を授くるを目的とす。例へば、和洋服の裁縫、編物、料理等を教へる。

婦人授産　婦人の閑事を利用し、家庭に於ける經濟的援助をなさしむる爲め、前記の料理を除く以外の職を授けてゐる。

相談及び代書　家庭並びに個人の生活、結婚、教育、貸借、其他の人事一般の無料相談に應じ、代書は、出生、結婚、死亡等の簡單な諸屆、諸許可願等を取扱ふ。

市營住宅　大藏省から低利資金百萬圓の融通を受け、官有地貸下を得て、小住宅を建築してゐる。

小賣市場　新鮮にして優良なる、日用品を低廉且つ簡易に供給する。

卸賣市場　蔬菜、果實等の供給を調節し、且つ價格の公正を計るを目的とする。

中央公園　模範公園である。

屠　場　大連市にあり。

火葬場　大連市に二ヶ所あり。

(六)　滿鐵會社福利施設

共　濟　社員及び其の家族の不時の災害、其他のため救濟をする。勿論、加入員の醵金と本社からの同額の補助に依るものである。

第五　滿蒙移民の旅費

(一)　滿洲へのコース

滿洲へ移民を希望する者にとつて重要なものの一つは、滿洲まで幾何の旅費が必要であらうか、といふことである。亦滿洲へゆくには何處を經由して行くのが便利であり且つ經濟的であらうか、或は、滿洲に於ける旅館はどういふ所がよいか、さうしたことを良く調べておかねばならない。勿論、集團移民の際には、その團體の引率者が一切をやつてくれるから、さうした心配はないが、それにしても旅費やコースを調べて置くことは必要である。そこで本講座に於てもこの事に就ては出來るだけ詳細に調査研究し茲に記載することゝした。

集團移民と旅費

滿洲國へのコース

先づ第一に滿洲へ行くのには、どういふコースがあるかといふに、

一、下關から關釜連絡線に乘り釜山に上陸し、朝鮮を經由して滿洲へゆくもの。

二、神戸又は下關から船に乘り、海路大連に行き、それより滿鐵に依り滿洲へゆくもの。

三、東京、大阪、福岡等から、日本航空輸送會社の定期飛行機に乘じ、蔚山、京城、平壤を經て、大連に行くもの。

四、その他上海天津又は、青島を經由して行くもの。

以上の四つのコースがあるが、先づ一般に利用されるのは、第一と第二のコースである。第三の飛行機に依るコースは、餘程急ぐ人が利用するのみである。又、第四のコースの上海又は青島經由のものは、觀察旅行をする人が經由するコースで、餘程の廻り道であり、移住民の採るコースではない。勿論、單獨で移住しようといふ人が滿洲へゆく序でに最初上海や青島に行き、それから北上して天津北平等を見物しようといふのなら、この第四のコースも面白いものである。

(二)　旅　費

然らば、これ等のコースをとつて滿洲へ行くのには一體どれくらゐの費用がかゝるであらうか、

旅費

これも次に詳しく調べてみよう。

第一コースの旅費　第一のコースたる下關から釜山に行き、それより朝鮮を經て滿洲に行くには、東京を起點とすれば長春まで三十七圓六錢である。これに急行券が二圓七十五錢を要するから、合計三十九圓八十一錢を要する。勿論これには、途中の辨當代などを含まないのである。

第二コースの旅費　第二のコースは、東京から門司まで汽車、それから汽船で大連に行き更らに滿鐵に依り長春へ行くものであるが、この旅費は東京から、三十七圓七十八錢である。この外に大連長春間の急行券が七十錢又は一圓を要するから合計三十八圓七十八錢を要することになる。下關大連間の船の中では食事を提供してくれるので比較的第二のコースの方が安いことになる。以上は東京長春間の旅費であるが、同じ長春へ行くにも關西や九州の人にはこれよりは安くなるし、東北地方の人には高くなることは勿論である。

第三コースの旅費　神戸下關大連間の汽船は大阪商船會社の「うらる丸」「香港丸」「ばいかる丸」「はるびん丸」の四隻が三日目毎に發着してゐる。何れも五千噸乃至六千噸級の汽船である。尚、神戸大連間の船賃は三等十九圓、二等四十五圓、一等六十五圓、門司大連間は三等十七圓、二等三十七圓、一等五十五圓である。

第三のコースの飛行機は、東京大連間が百四十五圓である。大連から長春までは汽車三等で十圓九十錢であるから百五十五圓九十錢を要することになる。

第四コースの旅費　第四のコースは遊覽又は視察旅行でなければ必要でないコースであるから、茲には略することゝする。

滿洲までの旅行日數　而して第一コースは、東京長春間で所要時間七十五時間半、第二コースの汽船利用は、神戸から乘船して八十一時間半である。第三コースの飛行機は二十九時間である。

團體と割引　以上述べた旅費は普通の料金であるが、移住民は、市町村役場を經由し拓務省發行の約半額割引券を受けると半分になるから、可なり安い費用で行けることになる。又二十人以上の團體になると普通の旅行でも二割乃至五割の割引がある。以上は單なる旅費だけであるから、滿蒙に於て何か仕事をしようといふ者は、これ以外にそれ相當の資金を要することは勿論である。

(三)　旅館と宿泊料

旅館と宿泊料　旅行に際しては、それが視察旅行であらうと、移民せんための旅行であらうと、旅館及び宿泊費を知つておかねばならない。本協會の確實なる調査に依ると、滿洲に於ける日本旅館の宿泊料は朝晩二食付きで一等六圓、二等四圓五十錢、三等三圓五十錢、四等三圓位である。晝食をすれば右の他に晝食料を必要とするが、ハルビンに於ては、幾分高く、一等七圓、二等五圓五十錢、三等四圓五

十錢ぐらゐである。尙使用人への心附けは約一割で、それ以上を與ふる必要はない。

團體ならば相當に割引をするから、もつと安くなるが、それは團體の人員數に依つて異なるから一概に玆に記することは出來ない。

各地の主なる旅館

尙、滿洲各地に於ける主なる旅館は次の通りである。

安東　安東ホテル、元寶館、喜久旅館、日ノ出旅館、大和館。

五龍背　五龍閣、保養館、聚樂館。

奉天　ヤマトホテル、都ホテル、瀋陽館、大星ホテル、大丸旅館、常盤旅館、日進館、一力旅館、滿洲館、武藏館。

撫順　炭礦ホテル、築紫館、壽館、長崎館、撫順旅館、

遼陽　遼塔ホテル、油屋旅館。

鞍山　近江屋ホテル、紅葉館、扇屋旅館。

湯岡子　對翠閣、玉泉館、清林館、龍泉別墅。

營口　清林館、滿月旅館。

旅順　ヤマトホテル、旅順ホテル、防長館、寶來館、福壽館。

大連　ヤマトホテル、遼東ホテル、花屋ホテル、鎭西旅館、東旅館、盤城ホテル、大連ホテル、春田旅館、東鄉旅館、日本橋ホテル、辰巳旅館、三杉旅館、東洋ホテル、大和館、名古屋旅館、富士屋旅館、浪速ホテル。

四平街　植半旅館、小松屋旅館。

長春　ヤマトホテル、滿洲旅館、北滿旅館、西村旅館、富士見旅館、南洋旅館、大丸旅館、吉田旅館。

ハルピン　モダンホテル、グランドホテル、ペラスホテル、オリエントホテル、北滿ホテル、名古屋館、紅葉館、東洋ホテル、朝日館、大和館、昌々溪　昌榮館。

齊々哈爾　朝日旅館、龍沙旅館。

鄭家屯　鄭家屯ホテル。

吉林　名古屋館、日淸旅館、吉敷旅館。

龍井村　間島旅館、名古屋旅館、龍井旅館。

第六　移民とその目的に就て

(一)　堅固なる目的を持て

植民地は呑氣か

植民地の生活は一體に呑氣であると言はれてゐる。事實さういふ點もあるが然しそれを豫想して移住するやうでは不可ない。殊に滿洲に於ける移民は呑氣なことなどを考へてはいけない。これから大いに開發して、成功しようとするには內地に於けるより以上に努力しなければならない。

從來滿洲に居つた日本人のうちには、官吏、公吏その他の月給生活者が多いので不況であると言つても大なる打擊を受くる者は割合に少なかつた。唯、獨立自營の商人等が大なる打擊を受けてゐたことは事實である。南洋や南米に於ける移民は不況と物價下落の爲めに非常に苦しめられ、內地に歸還する者が相當にあつたほどである。

然し今後の滿洲は、これから發展するのであるから、不況と雖も內地に歸還するやうな者もあるまいが、あまり歡樂境を夢みて行くと失望することがある。

確實な目的を持て

讀者諸君が滿洲へ移住せんとするには、極めて確實な目的を持たねばならない。滿洲にゆきさへすればどうにかなるであらうといふやうな漠然とした考へを持つて出かけては不可ない。そこで一體、どういふ目的を持つて行つたらよいかといふに、それは、各自の學力なり、體力なり、技術なりに應じた事を目的としなければならない。身體の弱い者が勞働を目的として滿洲へ行つたとて、決して勤まるものでない。又學問のないものが徒らに會社員を希望してみても、それは不可能であらう。

健康なる身體が第一

何れにしても滿洲へ行くものゝ第一の條件は身體が丈夫なことである。何處へ行つても身體の丈夫なことは大切であるが、殊に滿洲に於てはそれが大切である。現に滿鐵會社などで今年新社員を採用するに當つては、その學校の成績よりも何よりも身體の頑健なのを第一條件としてゐる。これをみても如何に滿洲に於ては身體の健康なものが希望されてゐるかゞ解る。

成功者と失敗者

身體の健康なことに次いでは、心の健康であることが必要である。本講座の「滿洲に於ける日本人の現狀」といふ處にも少しく述べて置いたが、植民地に行くには、確實な目的、卽ち自分はかういふことをして必ず成功しようといふ決心を有たなければいけない。日本內地から態々遠い滿洲へ行くのに、唯慢然とした心を持つて出かけるなどは、愚の至りである。かうした心で行く者は旣に失敗してゐると同樣である。勿論、現在各國の植民地に於ける八十萬人の日本移民の中には、流れて行つて成功した者もあるし、大なる目的、確實なる目的をもつて行つても、失敗したものもあるが、然し出かける時の覺悟決心が、その成功不成功に大なる影響を及ぼすことは勿論であるから、

斷然、移民せんとする諸君は、例へ死を賭しても成功を得んとする決心と目的を持つて出かけねばならない。

(二)　移民の目的の種類

滿洲のみに限らず、何處の植民地へなりと移民せんとする者は、次のやうな諸項のうち何れかその一つをとつて自己の目的としなければならない。

目的に依る移民の種類

一、金を儲けんとするもの　金を儲けんとする者
二、金を殘さんとするもの　金を殘さんとする者
三、學問をせんとするもの　學問をせんとするもの
四、地位を得んとするもの　地位を得んとする者
五、營利を離れた事業を爲さんとするもの　滿洲の特殊病、特産物等の研究
六、宗教關係に依るもの
七、平和境を實現せんとするもの

第一の金を儲けんとする者は、事業會社を興したり、商賣をしたりして、營業的に金を儲けんとするものである。恐らく今後滿洲に移住せんとするもの、大部分は、この目的に依るものであると思ふ。

第二の金を殘さんとする者は、第一の金を儲けんとする者と相似てゐるやうであるが、前者の營業的なるに反して、後者は月給生活者、その他の職工、勞働者等が持つ目的である。卽ち、滿洲に移住した以上、極めて生活費を減じ、一ヶ月幾何かの金を殘し、これを貯蓄し、十年二十年の後、何千圓又は何萬圓かの資金を作らうといふのである。商人としてもかうした心掛けは必要であるが、殊に月給生活者はかうした心掛けが必要である。毎月、一收入の全部を生活費に充てゝ生活してゐるやうでは、何時まで經つても成功しないし金を殘すといふ目的が實現しないことになる。而も金を殘さんとする事は容易でない。殊に植民地ではともすれば金錢を濫費する弊がある。この點を深く愼み所期の目的を實現しなければいけない。

第三の學問をせんとするもの。これは滿洲へゆく人としては極めて稀である。然し、滿洲には滿洲として特別に研究すべきことは澤山ある故、これが研究を目的として滿洲に行くのも結構なことである。滿洲に於ける特殊の病氣を研究して、移民の罹病者を救濟するとか、或は滿洲に於ける特殊農作物を研究して滿洲の農業に貢獻するといふことは、重大なことである。故に研究に趣味を持つてゐる者や、生活に困らない者は、宜しく滿洲に行つてこれ等の研究に從事すべきである。

第四は地位を得んとして滿洲に行くものである。日本內地に於ては、思はしく待遇されない。然

るに滿洲に行けば相當の地位が得られる。勿論かうした人々としても、より多い報酬を希望するであらうが、それよりも地位や名譽を得ん爲めに行く者もある。より良い地位は、より多い報酬を伴ふのが普通であるが、金はどうでもよい、地位が得られて、名譽が得られて呑氣な生活が出來ればそれでよいと言ふ人もある。かうした人々は、矢張り研究するなり、熱心に努力するなりして、次第次第に自分の地位を高めてゆくことを心掛ければよい。

社會事業をなさんとする者

第五は營利を離れて社會事業を爲さんとするものである。これは、新興滿洲國の爲めに慈善病院を開くとか、寺院を建設するとか、職業紹介所を設けるとか、無料宿泊所を設けるとか、さうした社會施設を行はん爲めに滿洲に渡らんとするものである。勿論かうした人々は極めて少ないが、然し、これ等の社會機關に働らく人々のうちにも、さうした社會事業を理解し、金錢や、名譽を忘れてこれに盡力するものもあらう。これ等の人々は飽迄もその目的を意識し、滿洲へ行かねばならない。

宗教關係による者及び平和境を實現せんとする者

第六の宗教關係に依るもの、及び第七の平和境を創らんとするもの、これはよく昔の移民がさうした目的をもつて行はれたものであるが、現在に於てはさうしたことは殆んど絶無になつてゐる。殊に滿洲移民にはさうしたことはない。

植民史上の事實

よく植民史などには、自分の國に居つては自分の欲してゐる宗教を信ずることが出來ない。その爲めに政府の壓迫を逃れ自分の好きな宗教を信じようと、遙々外國の植民地に移住した者が多いのであつた。滿洲移民のうちに、滿洲に行つて、儒教を信じようとか、道教を信じようかといふやうな者は絶對にないであらうが、とにかく移民のうちには、さうした目的をもつてゐる者が昔はあつたのである。それから第七の平和境建設の爲めにといふのは、自分の住む部落が年々洪水に襲はれたり、饑饉に襲はれたり、或は亦種々の原因で隣村と常に衝突したりして、常に平和を脅かされてゐる村の者が移民せんとするもので、これも殆んど絶無と言つてもよいくらゐである。古代から今日に至るまでの移民の原因目的は以上の如くであるが、今日に於ては、第一の金を儲けん爲め、第二の金を殘さん爲めに行くものが殆んど全部であると言つてもよい。中には埋もれてゐる豐富な資源を開發せん爲めにといふ者もあるが、これ等も結局は、富利を得ん爲めに他ならない。埋もれてゐる富源を開發し、或は努力に依つて富を得るといふことは、今日の國家として、將又、個人の生活において最も必要なことであるから、かうした目的を持つ移民は、飽迄もその目的を實現せんことに努力しなければならない。目的のない移民は、自分自身を滅すのみならず、移民地自體をも亂すものであることを忘れてはならない。

第七　成功した人の實話及び失敗の原因

(一)　成功をする決心が必要

紅い夕陽の滿洲、廣漠たる大平野の滿洲といふと、如何にもロマンチックに聞えるが、然し、懷中手をしてゐては、決して樂しい生活も出來なければ、成功もするものでない。一攫千金を夢みて行くならば、それは、多くの場合は失敗に歸するであらう。

尤も、永年住みなれた故郷を去り、山河千里を越えて、滿洲へゆくからには、大なる決心を有つて行くであらう。が、その決心が少し年月を經ると鈍つてきたりして結局、成功しないことになる。

海外へ出る時の決心

然し、遙々、滿洲まで出掛けて行つて、少しでも成功しなければ、故郷の人に對して顏向けも出來なければ、自分自身に對しても申譯がないことである。

そこで、どうしても、海外へゆくからには、成功しなければならない、その心掛けに就ては、既に述べてをいたから、よく玩味して讀んで頂きたい。

それで茲には、滿洲に於て成功した者の實話を紹介し、諸君の將來に一沫の光明と希望とを與へんとするものである。

(二)　農業經營に成功した三平軍曹

農業經營の成功者

滿洲の大屯地方で「三平軍曹」と云へば、誰一人知らぬ者はない。財產は十萬以上もあり、相當の社會的地位を占めてゐる。氏は實に滿蒙に於ける成功者の一人なのだ。

「三平軍曹」が今日の地位と財產とを築き上げる迄には、隨分人知れぬ苦勞を重ねて來たのである。

姓ははつきり判らないが、氏は群馬縣の出身で、今から十七年前、長春守備隊付で滿洲に渡つたのである。滿洲各地に點在する邦人の生命、財產の保護といふ重任を双肩に擔つてゐる守備隊のことであるから、氏も當時未だ若人の身、愛國の血潮に燃え、勇躍して部署に就いたのであつた。

大正十五年目出度く除隊し、同期の戰友の多くは氏を獨り大屯に殘して歸國した。

氏は單身農業をやらうと決心し、滿鐵より資金として百五十圓を借り受け、土地も同じく滿鐵より商租にて五萬坪を借り受けたのである。地代は當時坪五厘であつたと云はれてゐる。

地代は坪五厘

この時から氏の陰忍と努力と苦難との生活が始まつた。耕作をやる傍ら豚と雞を飼つた。豚は作物の廢物を利用して飼ふので、特に飼料を買はずに濟む、その上肥料がとれるし一擧兩得の方法である。雞も何百羽といふ數を放飼にするので、餌をやる必要もなく、相當の利益を得たのである。かうして苦しい中にも幾分かづゝ自分の努力が報はれてゆくのを知つたとき、勇氣は又百倍してゆく

のであつた。

耕作を一人前以上にやつてから又この豚や雞の世話をする氏の苦勞は一通りではなかつた。雨の日、風の日、さうして赤い夕陽が涯しない平原の向ふに沈んでゆくのを眺めるとき、いつも思ひ出されるのは懐しい故郷のことであつた。けれども氏の鐵の如き意志はあらゆる苦難に打ち克つた。營々として一日の休みもなく、身を粉にして働いた結果は、やうやくに報はれる日が來た。

勤勉の人、努力の人、實行の人である氏が今日の地位と財産とを築き上げたことは蓋し偶然ではないのである。

(三)　滿洲の牧場王、八巻氏の成功談

尙「三平軍曹」の耕作法を聞くと、五萬坪の農地に施す肥料代は二十五圓で他は馬糞で充分である。耕馬、牧馬は借りて間に合はし、馬一匹の飼料代は一日十五錢位である。勞力は自分を主とし、足らない時は、支那人を使用するが、一日一人十錢で雇ふことが出來たさうである。勿論これは今から十五年も前のことであるから、今日の計算とは大分違つてゐる。

穀物は關東廳が、時價で買入れるから心配ないとの事である。

滿蒙には廣大な平原が涯しなくつゞいてゐる、と聞けば、牧場には最適地と誰しも氣がつくであらう。實際その通りで、現に牧場も澤山あるのである。

牧場で成功した邦人も多數あるが、次にその代表的な一人である八巻氏を御紹介しよう。

滿洲牧場王八巻氏(假名)は、大連市に於て、斯業では一流の人である。氏は始め青雲の志を抱いてアメリカに渡り、陰忍の生活をつゞけてゐたが、日露戰爭終結と共に活動の天地を滿洲に求め、北滿の奥深く單身乘りこんで行つた。

「こゝは御國を何百里」離れた北滿洲の茫漠たる荒野である。苦力と一緒に起居しての生活は、どんなに苦しかつたかは想像に餘りある、或る時は豪雨に見舞はれ、危く身を以て遁れたが、折角苦心慘澹して耕作した作物は一朝にして消え去つてしまつたこともある。又或る時は馬賊に襲はれんとしたこともある。かうした生活をつゞけてゐる間に、氏は牧畜の有利なことに着眼し、零碎な貯へで、やうやく一頭の牛を手に入れた。一頭の牛はやがて二頭となり、三頭となり、五頭となつて行つた。さうして今では數百頭の牧牛を有つ大牧場の經營主である。

氏は又キリスト教信者で、彼地の教會の幹事であり、氏の世話になつた人は數知れずある。强い信念の人であるから、氏から我々は學ぶべき點が澤山あるのである。

(四)　果樹園經營で成功した人達

邦人で滿洲に渡り、果樹園經營をやつて成功した人は澤山ある。一度南滿洲鐵道に乘つて、車中から沿線を眺めるならば、大連地方一帶に果樹園が連綿としてつゞいてゐるのに氣が着くであらう。林檎、水蜜桃、櫻桃等が主で、在來の支那人と競爭しても決して劣らない。否、寧ろ勝れてゐる。特にその集約的經營知識と、果樹栽培の技術に至つては、到底支那人の及ぶ所ではない。これは邦人の果樹園經營の優れた所で、又大きな强味でもある。

邦人は果樹栽培に勝れてゐる

又これで成功した人達の話に依れば、肥料は大連埠頭の倉庫中から、掃き集めた大豆粕の屑、その他の積荷から落ちた掃き集め等を安價に手に入れることや、其の他人の氣付かぬ零細な點に着目することも必要であるとのことである。

かうして成功した果樹園業者は例を擧げる迄もなく非常に數多いのである。

雜貨商の成功者

(五)　吳服行商から身を起して成功した佐野氏

商業方面で成功した人に佐野氏がある。氏は始め滿洲の各地を轉々として雜貨の行商を營んでゐたのである。けれども素より將來成功するやうな人であるから、その時から一行商人として一生を終ることに甘んじてゐたわけではなかつた。その時から一行商人として一生を身體も健康だつた爲に、いろ〳〵の無理も耐へて、しばらくする間に多少の貯へが出來たのである。

農服費が高い

る。元來滿蒙の生活は、食、住に比較して、衣服費が割合に高い。この點に着眼した氏は僅かな資本で先づ試みに內地から吳服類を取り寄せ日本人に販賣した結果、相當の利益を得たのである。これに勢を得て更に支那の吳服類を買つて內地に輸出し始めた。

硝子商及び毛皮商としての成功者

機をみるに敏である氏は、又一面決斷に富んでゐたので、大膽にも內地との取引をつゞけ、最後に絨氈の輸入販賣に手を伸した。之が時宜を得てトン〳〵拍子に發展し現在では彼の地で押しも押されもせぬ立派な紳商として社會的にも名聲を得てゐる。

(六)　硝子商から毛皮商に轉換して成功した曾我氏

北京一流の毛皮商として外人間にも有名な曾我氏は、奉天、東京に支店もあり硝子商から毛皮商へと商賣換へして成功した、在滿邦人中でも異色ある人である。

氏も渡滿邦人の大部分の例に洩れず、我が活動の天地は彼の廣大な原野のつゞく滿蒙の地こそ最適なり、男子一度此世に生を受けた以上、無爲にして一生を終るべきにあらず、と大望を五尺の身に藏して、單身大連の伯父を訪ねたのであつた。

けれども千里の道も先づ一歩からの譬の通り、氏も始めは硝子商に一店員として住み込んだのである。其の後緣あつて某雜貨商に關係する樣になつた。此時突發したのが支那の第一革命である。

この革命の結果歐米の生活様式が盛んに移入されるやうになつて來たので、かねて機會をねらつてゐた氏は、此の機逸すべからずとなし資本を調達して大膽にも洋服屋を始めたのである。洋服屋としては素人だつたけれども、其の熱心さは人一倍で懸命に努力した甲斐があつて、邦人の同業者を追ひ拔き、遂に押しも押されもせぬ洋服商として認められるやうになつた。

其の後毛皮の賣買に目を着け、現在では毛皮專門で商賣をやつてゐる。取引先は遠く外蒙古奥地から、シベリヤ國境近くまでに伸び、内地、支那一帶にも相當手廣く商賣をやつてゐる。

携を見るに敏なれ

(七)　貸家で成功した井藤氏

貸家をして成功

世の中が戰爭氣分で、物騒しい日露戰爭當時、丁度今から二十七八年位前に、支那行きの大きな船のつないである棧橋を、何か深い考へ事でも、あるかの様に、首うなだれてあちこちとあるいてゐる一青年があつた。みれば、粗末な着物、貧へとてもありさうにない、旅立ちとしては餘りにみすぼらしい姿であつた。然し、彼の眉宇には、何かをなさねばやまない所の固い意志のひらめきが、輝やいてゐた。この貧しい一青年こそ、現在、大連に於て、巨萬の財を積みながら、猶昔時の刻苦勉勵、努力した、苦しかつた時代の心掛を忘れないで、質素な生活をなし、その私財を幾多の公共事業に投じて、内外人共にその人格をしたはれてゐる井藤榮氏其の人である。左に如何にして、今日の地位を築き上げるに至つたか、その經路についてお話して見よう。井藤氏は最初の四年間は滿洲の奥地を旅行し、放浪の旅をつゞけながら苦勞をかさね、僅かの資金を得て、次に、豆腐屋を開業した。又味噌をつくり行商をなした。朝は未明におき出でゝ豆腐をつくり、日中はうりあるき、夜はおそく迄夜業をつゞけたのである。ほんとうに今日、彼をして今日あらしめたのは血と汗と努力との貴いたまものであつた。時には懐郷のおもひに、かたいふとんのえりに涙する時もあつた、而しかうした勤勉努力の結果、零細なるお金を貯へて、多少まとまつた資金をつくり、安い廣大な宅地を買入れ、貸家を數軒たてた、そして又その家を抵當にして、東拓より資金を借りつけ、更に貸家を建てた、この頃より彼は、漸次好運に惠まれ始めた。機を見るに敏にして一度、計劃をたてたならば、あく迄目的を貫徹する、不屈の精神にとんでゐた。かくして一歩〳〵地歩をきづき、遂には百三十軒にも餘る大家主となつた。現在に於ては、一月に四千三百餘圓に上る家賃が入るさうである。斯様な立派な境遇にあつても、偉大な人格者である井藤氏は、その地位に甘んじ、おごる事なく、支那の苦力と、ほゞ同様な衣食で間に合せ、猶將來に向つて、より發展するために、努力を續けて居られるのである。そして時間と、餘財の許す限り、貧しき秀才のために、學資の補助をなし、其の他幾多社會に貢獻して、居られる事は枚擧にいとまのない程である。その性、至誠、溫和、一度その慈顏に接する時には、失意にある人も、限りなきなぐさめをあたへられ、希望に燃え

困苦の時を忘れず

一ケ月四千三百圓の家賃入る

一攫千金を夢見る勿れ

させられるのである。

讀者諸君よ、一攫千金を夢見てはいけない、砂上樓閣を築けば、一陣の嵐に、倒されてしまふてはないか、今日、立派な地位を得てゐられる成功者の方々も、決して濡手で粟をつかんだのではない。その人の經歷を調べて見ると、粒々辛苦、不屈の意志と、大なる努力の結果に外ならない。諸君、いたづらに、他人を美ものではない。しつかりした目的をたて、常に內省し、いかなる荊の道にも耐えて勤勉努力して行けば、いつかは輝やかしい、高嶺の月も眺められると思ふのである。

(八)　失敗する原因

失敗する原因

意志薄弱

途中挫折

滿蒙へ行つて失敗の憂目にあふ人達を調べてみると大體次の樣な共通した點が原因となつてゐる。

第一、確固たる意志と目的とを持つてゐないこと。

滿蒙へ行けば、遊んでゐても金儲けが出來て、財產を作れると思ふのはそも〳〵誤つてゐる。滿蒙の平原へ行つても、金や、穀物の山がころがつてゐるわけではない。血と汗を流さなければ絕對に不可能であるといふことをよく知つておかねばならない。

第二、途中で挫折すること。

少し困難な目にあふと、直ぐ故郷が戀しくなり、折角やりかけた仕事を放擲して歸る者がある。

不健康

第三、健康に注意しないこと。

滿蒙へ行つて一番賴みになるのは、なんと云つても結局は自身の身體である。如何に意志は燃えるやうに强くても不健康には勝てない。殊に滿蒙は空氣が乾燥するので、呼吸器、心臟の弱いものは行くべき地でない。「先づ健康」の標語は滿蒙に於ては殊に痛感される言葉である。

獨身

第四、獨身者であること。

働くのには獨身者の方がいろ〳〵の點で便宜であると思はれ勝だけれども、實際は之に反した結果になつてゐる。だから內地で結婚してゆくか、あちらへ行つて直ぐ結婚するのが良策であらう。彼地で生れた日本の女と結婚する場合には、「滿妻」と云はれて蔑視される。試に今日の社會觀念から考へると矛盾したことだが、慣習上現在までさうゆう風に扱はれて來てゐる。尤もこの風習は漸次なくなるだらうとは思はれるが一言注意しておくのである。妻帶せずにゐると失敗し易い原因は、もう一つある。卽ち滿蒙の地は內地で想像する以上に寂寥たるもので、日本語を語る者も少く、故郷を離れてゐる身は何かにつけ非常の淋しさを感ずることは事實である。如何に意志堅固でも、人間である以上、隙の出ることもある。一寸した誘惑から惜しくも身を誤つた者の如何に數多いことであるか、妻帶して共に慰め、共に勵まし、一致協力して目的に邁進するにしくはないのである。

第四章　滿蒙への企業と投資

第一　概論

概論

上來、記述する處に依つて、讀者諸君は、先づ、滿蒙に關する一般的知識——自然、人文、諸制度等——を修得せられ、次で、滿蒙に對する日本の特殊權益の何たるかを知つて、日本の滿蒙に對する主張の、如何に合法且つ妥當であるかを充分に認識せられたと思ふ。卽ち、諸君が、國土狹小、資源貧弱、人口過剩の日本を逃れ、滿蒙の天地に活躍の新境地を開拓さるゝは、決して、他國の領土に肩をすぼめて寄生するのでなく、却つて、滿蒙自身の利益の爲め、同時に日本の利益の爲め、國際協同の精神に則り、極めて合理的に吾々に與へられた、滿蒙資源の開發に從事するのであるといふ事が充分にお分りになつたと思ふ。

日本の合法的な主張

而して、此日滿共榮の自覺を持たれる諸君が、愈〻渡滿の志を立てゝ、彼地に押し渡られるとする。そこで當面せらるゝ問題は、渡滿したら、どうして生きて行くか、單に生きるのみでなく、どうして意義ある生活を建立し、向上を企てるか、といふ問題であるが、之れこそ、本講座の主題であり、此難問解決上の好伴侶たらんことこそ、實に本講座の使命である。

滿蒙開發は滿蒙自身の爲めにもなる

本講座の使命

現時、世上、滿蒙の聲普ねく、滿蒙卽富貴、滿蒙　卽極樂天地の印象を與ふる弊無しとしない。從つて、只滿洲へ行きさへすれば、生活の道が、手を擴げて待つて居るかの如く、或は幸運が路傍の石ころの樣に、轉がつて居るかの如くに考へて、漫然、不用意の渡航を敢てする者無しとしない。其結果、僅かな所持金は幾日もなくて、消費ひ果し、果ては路頭に迷うて、或は滿鐵に、或は關東廳に、或ひは其他最寄りの官公私人に救ひを求むるの止むなきに至る者尠しとしない。近時官廳や滿鐵などでも之れには少なからず惱まされて、漠然と滿蒙想を煽る事は止して貰ひ度いと公言してをる位である。

不用意な渡航は失敗の基

渡航者失敗の原因

之れ等、渡航者の失敗は、他にも種々な原因があらうが、主として、行つた後の用意、研究が不充分であつた事と、一貫した意志に缺けて居るといふ事が、一番大きな原因である場合が最も多いと思ふ。

生活の道しるべを提供したい

讀者の凡てが、其長所に於て、技能に於て志に於て一樣でない、其素養を異にし、志望を異にする讀者の凡てに、行き屆いた、生活の道しるべを提供する事は、決して容易の業でない事は分り切つてゐるが、兎に角、以下、出來得る限りの努力を拂つて目的に副はうと試みたのである。

第二　滿蒙資源要覽

どんな資源があるか？

滿蒙資源一覽表

滿蒙へ行つて何をしよう、之れを考へる前には、どうしても、滿洲には、どんな資源があつて、今迄の處どんな風に開發されてゐるか、更に今後如何に開發さるべきであるかといふ事につき、はつきりした知識を持つて居らねばならぬ。

滿蒙資源を一覽表に表示すれば左の如くである。尙參考の爲めに、日本內地のそれとの比較を示した。

項目	滿洲（東三省）	日本內地	摘要
面積	七七、三一〇方里	二四、七一九方里	內地の約三倍以上
耕地面積	一三、五〇八、三四〇陌	五、八九〇、〇〇〇陌	內地の約二倍
未耕地	一六、五九二、五二〇陌	僅少	
森林面積	三六、二三五、二六八町	一九、六七六、〇〇〇町	內地の約二倍
人口	二九、五七四、九八〇人	六四、四四七、七二四人	內地の二分の一以下
人口密度	一平方粁當り　二九人	一六九人	內地の約六分の一
將來人口收容力	九二、三五〇、〇〇〇人		
大豆生產量	四〇、一四九、三五〇石	三、三〇八、八一六石	內地の約十二倍 世界總產額の六割以上
高粱	三五、二七一、二九〇石	僅少	滿洲住民の常食
粟	二五、二八〇、六四〇石	一、三四九、六一二石	內地の約二十倍未滿
小麥	一二、〇三〇、五五〇石	六、一二五、〇一三石	內地の約二倍未滿
豆類（大豆を除く）（昭和四年度）	二、九六〇、〇〇〇石	八九〇、〇〇〇石	內地の約三倍半
米（水稻、陸稻合計）	三、四七三、八四〇石	五八、七一五、八七〇石	將來滿洲に水田開墾見込地百萬町歩位あり
食鹽（昭和四年度）	一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇斤	一、〇三〇、〇〇〇、〇〇〇斤	
玉蜀黍	一三、〇四九、一〇〇石	六三九、一三四石	內地の二倍
鐵鑛（三六％以上）	埋藏量　八三二、二二八、四〇〇瓲	本邦鐵鑛需要額年　三五〇萬瓲	日本の約二百年分の消費量
石炭	一〇、〇四〇、六五二瓲	內地年消費額　三、三〇〇萬瓲	日本の約百年分の消費量
石油（頁岩六％）	原油換算　九八一、〇〇四瓲 四七、八一四、六斤	內地年產額　三〇萬瓲	
金	埋藏量　三九、四〇〇瓲豫想	內地年生產額　一〇、四二五瓲	
牛	＊二、七二七、〇〇〇頭	一、四八八、〇〇〇頭	內地の約二倍
馬驢騾	＊四、六〇〇、〇〇〇頭	一、四九四、二六九頭	內地の約三倍
豚	＊八、三五一、〇〇〇頭	七〇六、一五一頭	內地の約十二倍
羊及山羊	＊五、八〇〇、〇〇〇頭	二三六、〇〇〇頭	內地の約二十倍
羊毛（昭和四年度）	＊五、五〇〇、〇〇〇斤	僅少	
棉花（昭和四年度）	二六、〇〇〇、〇〇〇斤	僅少	
木材	立木蓄積量一、五一三、四八一萬石	三五〇萬石	內地の四三〇倍

人口の密度が非常に少い

備考　一、滿蒙の產業統計中熱河省の分は信用程度低きを以て畜產物を除く以外の項目は之を含まず。
（＊印は熱河省を含む）
二、滿洲の分は滿鐵調査資料に依り、內地の分は官廳統計に依る。

滿蒙に於ける天然資源の如何に豐富なるか、其豐富なる資源に比較して如何に僅少の人が住んで居り、如何に未開發の分が多いかといふことは右表を見れば一讀判然である。

人口稀薄なる滿蒙に未開發な資源多し

我々は自覺せねばならぬ

滿蒙資源の紹介

滿蒙の基本産業は農業である大豆の收穫高は世界總産額の六割を占む

之れを數字に就いて言へば、內地の約二倍半の土地の上に、僅に內地の六分の一の人間が住んで居り、之れを密度に換算すれば、滿蒙一、內地一六の割合となる。

氣候風土、政治組織、生活施設其他種々の點に於て、我れに劣りたる處多かりしは事實乍ら、僅かに一葦帶水の兩地間に於て、一は貧しき島嶼上に人口稠密蝟集するに反し、一は廣茫たる沃野に無盡の富源を擁し乍ら、人口稀薄にして資源概ね未開發の狀態に委されて居ること、如何にも不自然不合理の觀無きを得ないのである。

玆に於てか、幾多の難點は潛むべきも究極に於て、滿蒙が諸君の開發に俟つべき多くのものを殘して居る事を肯定せぬ譯に行かぬではないか。

然らば、諸君は、果して何れの產業部門に向つて開發者の鋤を投ずべきか。以下、各部門につき出來る限り詳細に亙り、滿蒙資源の紹介をしたいと思ふ。

(一)　農產と農業

滿蒙の地が農を以て基本產業となし、大豆、高粱、粟の生產に於て世界に冠絕し、殊に大豆に於ては、世界總產額の六割を占むることは周知の如くである。

作付歩合と生產高

昭和四年度に於ける總耕地面積に對する各作付歩合並に生產高の表示

今、昭和四年度に於ける、總耕地面積に對する各作物の作付歩合、並に生產高を表示すれば左の如くである。

省別	大豆	其他豆類	高粱	粟	玉蜀黍	小麥	水稻	陸稻	其他雜穀	棉花	其他特作	計
遼寧省	二〇·五%	三·五%	三四·六%	一三·七%	一〇·八%	二·三%	一·〇%	一·一%	七·七%	〇·五%	〇·七%	一〇〇%
吉林省	五一·六	二·四	一八·二	一七·三	五·一	一〇·九	九·九	一·二	七·〇	〇·四	—	一〇〇
黑龍江省	五一·三	一·九	一三·八	一七·八	三·七	一七·五	〇·一	〇·一	九·三	〇·一	—	一〇〇
平均	三〇·三	二·六	三一·六	一六·二	六·七	九·九	〇·七	〇·九	七·九	〇·三	〇·二	一〇〇

備考　熱河省の分は統計の確實なるものなき爲め省略した。

主要の農產物の生產量

	昭和元年	同二年	同三年	同四年
	一九二六年	一九二七年	一九二八年	一九二九年
大豆 生產高	三、六六八萬石	三、七二三萬石	三、六〇三萬石	三、七四萬石
大豆 作付面積	三、三六五萬反	三、七四四萬反	二、九二〇萬石	四、〇三六萬反
粟 生產高	二、四四三	二、八〇六	一、三八	二、八七三
粟 作付面積	一、九二六	二、八七	一、三元	二、一五一
小麥	八八六	一、一三	一、三元	九八六
水稻	九〇二	一、三八	九九六	一、二〇九
陸稻	一五三	一六五	一五六	一九
	一二九	一〇二	八三	一三

滿洲の穀物總計

之れを總括して見る時は滿洲の穀物總計は次の如くになる。

一九二六年（昭和元年）　一三、一一六萬石（一、八〇九米萬噸）
一九二八（同　三年）　一四、五一三　（二、〇〇五　）
一九二九（同　四年）　一四、七〇九　（二、〇一六　）

昭和四年に於ける各省別の生産量

而して昭和四年度のみの生産量を各省別に細分して見るならば、遼寧省が五千五百三十萬石、吉林省が五千三百七十萬石、黑龍江省が三千八百九萬石といふ內譯になつて居る。

農產の現狀並に將來

大豆の輸出總額は邦貨約二億二千萬圓なり

即、農產品の主なるものは大豆で約三千七百萬石、之れを地域的に見ると、北滿六割、南滿四割の割合で生產され、輸出高の總額は邦貨の約二億二千萬圓、滿洲の總輸出高の約四割に當つて居る、歐米への販路は三井物產の故兒玉一造氏に依つて開拓されたもので、現在でも日本人の手に依つて歐米に送られ、油脂工業の原料となつて居るが、最近、獨逸では大豆よりバタを製出することに成功し、マンダリンバタとして盛んに賣出して居る。筆者がかつて、歐米に遊んだ時、實際或獨人より聞かされた事であるが、

歐米への販路開拓は日本人の手によつてなされた

「日本人は滿洲大豆といふ立派な重寶な、何にでも活用出來る物を、すぐ手近に豐富に持つて居乍ら、どうしてもつと有利に活用しないのだらう、現にバタとしてもこんな立派なものになる。」

或獨逸人の滿洲大豆についての意見

と聞かされて、成程と感心せざるを得なかつた。其大豆は我國內地へも年々約四、五千萬圓輸入され、多くは大豆油原料となつて居る。

大豆から豆油豆糟を製造す

斯く海外に輸出される外、大連、奉天等にも製油業發達し油房が多數ある。其絞り糟が豆糟で肥料として重用されて居ることは今更呶呶する要あるまい。

大豆に次いでは南滿方面に高粱が約三千六百萬石、玉蜀黍が約千二百萬石あり、最近では、粟の生產が增加して二千九百萬石に上り、之れを朝鮮に輸出し、朝鮮では之れを食糧として、朝鮮米を內地へ供給するのである。

此他、北滿には小麥があり、年產約一千萬石に上り、我國へも若干輸入される。北滿の黑土地帶が開發されるに從つて生產は增大されるであらう。其他雜物としては蓖麻子が遼陽、通遼、洮南、彰武等に於て主要農產物となつて居り、これから精製されたヒマシ油は航空機の潤滑油として需要增加の傾向にある。尙ほ滿鐵調査部の試驗成績によると、新しい農作物として、製糖原料である甜菜栽培の有望な事も明らかであり、亞麻の栽培も有望と目せられ、紡績事業の發達に伴つて滿洲の南半分には棉の栽培も有利とせられ、林檎や梨や葡萄の果樹栽培も關東州から奉天附近にかけて將來ある好事業とされて居る。就中、南滿に於ける棉花栽培の將來については、各方面共、非常な關心を以て、調査研究せられつゝある處にして、若し、之れが成功の曉には、我國棉花問題の解決上

小麥よりヒマシ油を作る事が出來る

將來甜菜栽培、亞麻の栽培、棉の栽培、果樹栽培は大いに發展すべき好事業なり

南滿に於ける棉花栽培の成功は我國棉花問題の解決の鍵である

滿蒙は一大寶庫なり前途猶洋々たり

寄與する處甚大であり、棉花自給の大方策確立に向つて邁進すること〻なるであらうと思惟される。滿蒙の前途、豈に洋々たらざらんやである。

蠶糸業

家蠶

次に蠶業方面を見るに家蠶は從來見るべきものなく、日本の滿蒙進出後、關東州に於て、明治四十一年關東都督府農事試驗所が日本蠶種を輸入し、飼育試驗をなし、有利なりと認めたのがもとで、今日では次の如き狀勢を示して居り、將來發展の可能性はある。

家蠶收穫高概況

		關東州內	州外附屬地
桑園		四四二町步	一五三町步
家蠶收穫高	春	五九二石	七五石
	秋	六五五石	九六石

柞蠶

柞蠶の原料たる野蠶は滿洲至る所の山野にあり

柞蠶の年產額平均七十五億萬粒なり

抑壓なければ柞蠶糸業は將來有望なり

之れに對し、柞蠶は約百年前に起り、近年に於ては柞蠶は滿洲物產中最も主要なるもの〻一になつて居る。何しろ原料たる野蠶は滿洲到る處の山野にあるが、飼育範圍は遼寧省の遼河以東各地で、遼東半島を最大とする。年產額は未詳であるが平均七十五億萬粒とせられる。製絲工場は安東を初めとして、蓋平、海城、西豐縣其他に散在し、其數有力なるもののみで百四十、機械は、二萬七千臺(四年末)に及んで居る、柞蠶糸の輸出亦平均二萬六千擔(九百萬海關兩)以上に達し、主として、安東經由日本に輸出せられ、輸出絹紬の原料となる。近年內地製絲業への壓迫をおそれて、抑壓を加へられたが、もし順調に獎勵をつゞけられるならば、將來有望なる產業の一たるを失はない。

集團移民と政府の對策

彪大なる滿蒙の處女地開墾の責務は吾人の双肩にあり

滿蒙に於ける一大寶庫開拓には組織的集團移民の方法が最もよし

農民の集團移民の方法

以上記述したる處により、現在に於ける滿蒙農產の實情を、大體窺ひ得ると思ふが、斯の如き豐富なる農產を出し乍ら、而も滿蒙全可耕地面積約二千九百萬町步の大半約一千六百萬町步以上は、太古以來の處女地として、茅草の繁るに任せて居る狀態である。不撓の意志と不屈の努力に加ふるに近代科學の粹を携へ、我國人が、此處に組織的集團移民の方途を講じ、政府亦た、指導應援の宜しきを得るならば、農產額面のみに於ても、自後滿蒙の發展餘力の如何に豐富、甚大なるべきやは推して知るべきではないか。

政府は集團移民を國策として盡力しつゝあり

邦人農民の集團移殖については、拓務、農林、滿鐵、各々連絡を取りつ〻、國策としての一定方針確立に邁進しつ〻あること事實であつて、殊に拓務省內には、專門の係を設け、長春に出張所を開設し、向ふ十ヶ年間に全國各府縣より、十萬戶、五十萬人の農民移殖を厲行する計畫ありと傳へられて居り、當協會の如きも、其國策遂行の爲めには、全力を擧げて、補助機關たるの職能を全うする意氣込みであり、出版に教育に宣傳に、將又、實際上の移民手續其他に於て、協會本務の遂行に遺憾無きを期する積りである。

集團移民についての一案

集團移民の單位を、何人位とするやにつきては、種々議論の分れる處であり、今尙研究中に屬す

集團移民するに付政府は一戸當り大凡五百圓乃至千圓迄の援助をなす豫算計畫あり　拓務省管理課長小川正義氏の移民に關する私見

ることなるも、一案にては、三百六十五戸を一單位とし、之れが移住より、土地商租、農具購入、灌漑施肥播種一般に亘り、金融上並に技術上、政府にて援助の計畫あることも事實にて、其の金額も、大凡一戸當り五百圓より千圓迄位の豫算でないかと窺はれる。之れに關し、本協會が、特に、拓務當局の內意を訊したる處、同省、管理局第二課長、小川正義氏より、私見として、次の如き談話を承つたのである。（以下文責在本協會編纂部）

イ　集團移民の單位。滿蒙に對する移民は、個人的移民は、殆ど成功が望まれない。如何となれば、一望千里の大原野であり、住民少なく、住民ありと雖も、言語不通の他國人なれば、總ての點に於て不便である。

更に不意の土匪賊の襲來あれば、單獨にては危險である。從つて拓務省としては集團移民を奬勵してゐる。

集團移民の一團は三百名以上を標準とする。但し、地理的關係に依つて增減あるものである。

ロ　農具其他の買入れ費用。此點については、滿鐵の調査せしところと、殆ど同樣と見て差支なし。農具資金は、一戸當り百圓以上。家畜資本は、一戸當り二百圓である。

ハ　土地の問題については、商租權の設定等の貸借關係にあらずして、直接に買收をなし、個人所有地となすを方針となしてゐる。買入れ價格は、南方と北方とは大差あり。南方、卽ち關東州地方は、耕作地一反步當り、百圓內外である。然るに北方、卽ち關東州以外の滿洲の地は、一反步當り、二十圓乃至四、五圓見當である。

滿蒙の新天地に雄飛せんとする者平素準備研究に心せよ

ニ　農業に對する政府の補助。此點については、灌漑、施肥、播種等の補助をなす方針なるも、目下具體案は未決定である。

以上の集團移民全體に對する、政府貸付補助についての方針は未定である。然し諸施設、卽ち、學校設立、試驗場設立、其他の公共施設に對しては、相當額の補助あることは明かである。」云云。

集團移民に關する、政府の方策が愈々具體化し、本協會の職能も實際化の域に入り、移住希望者が、渡滿、就農上、種々の便宜を得らるべき日の、一日も速ならんことは希望に堪へぬ處であるが、徒らに、政府依賴の心のみを起すべきでなく、移住に關する、準備並に研究につきて平素の心掛がなくてはならぬ。以下、土地商租、耕作、並に經營法、現下の農業施設につき略述して、參考に資し度い。

土地商租の手續

土地商租に關する、日支條約、並に滿鐵規定を摘錄すれば左の通りである。

滿鐵附屬地土地建物貸付規則

滿鐵附屬地に於ける土地建物貸付規則

第一章　通　則

第二條　土地貸付を受くるものは、特殊のものを除く外は地方事務長之を行ひ、借受人又はその代

表者、地方事務長なるときは、地方部長之を行ふ。地方事務所長管轄以外に在る土地建物の貸付は土地建物管理者之を行ふ。

第三條　貸地の種別は左の如し。

一、宅地（建物及びその附隨の用に供する土地を云ふ）。

二、耕地（農耕及び樹木栽植の用に供する土地を云ふ）。

三、雜地（前二項記載以外のもの。）

第四條　借地、建物借用希望者は次の申込書を提出すること。

一、宅地借受申込書（様式第一號）。

二、耕地（雜地）借受申込書（様式第二號）。

三、建物借用申込書（様式第三號）。

第五條　契約書は次の種別に依る。但し耕地又は雜地にして、貸付期間一ケ年以内のものは請書を徴して契約書を作製す。

一、宅地（又は準ずべき雜地）貸付契約書（様式第四號）。

二、耕地（又は準ずべき土地）貸付契約書（様式第五號）。

三、建物貸付契約書（様式第五號）。

第六條　土地の貸付契約書には貸付地の圖面を添付し、契約書と圖面との間に當事者雙方割印を爲す。但し地區割及地番號の設定あるものは、圖面の添付を省略することを得。

第七條　土地及建物の貸付期間。貸付料協定期間は契約を以つて之を定む。

第九條　借受人二人以上なるときは連帶にて契約上の義務を負ふものとす。

其他第二十二條迄あれども省略す。此點の參考については後記することゝす。

第二章　宅地

第二十三條　宅地を借受けんとする者、其借受希望面積三千五百平方米を超ゆるときは、第四條の借受申込書の外、利用計畫書（様式十號）及び建物配置圖を添付すべし。

第二十四條　宅地貸付料は、四月、七月、十月、一月各二十日限り三月分を前納せしむ。

第二十五條は宅地借受人、借受地に對する建物登記の規定であれば參考すべし。

第二十六條　宅地借受人は、次の場合に於いて、會社の承諾を受くることを要す。

一、使用目的の變更。

二、土地狀態に大なる變更を加ふること。

三、借受上に在る建物を擔保に供し、又は現存の儘他に讓渡すること。

第三十二條　會社は左の如き場合に於いては貸付期間内と雖も宅地貸付契約の全部又は一部を解除

することあり。

一、公共上又は會社の業務上必要あるとき。

二、借受人が本規則及契約の條項を遵守せざるとき。

三、貸付料更改の協議調はざるとき。

四、主たる建物破壞又は燒失後二年以內に再築せざるとき。

五、借受人が附屬地より、退都を命ぜられたるとき。但し關東州內の土地にありては、州內より退都を命ぜられざるなり。

第三十三條　耕地を借受けんとするものは、借用希望地面積二十萬平方米を超ゆるとき、又は特殊耕作を目的とするときは、第四號の書式以外に企業目論見書（様式第十七號）を添付すべし。但し貸付期間一ケ年以內のものにありては之を省く。

第三十四條　耕地、貸付料は、十二月十日限り、其年分を納入せしむ。

第三十七條　耕地借受人は、左の場合には會社に承諾を得る事を要す。

一、使用目的を變更するとき。

二、土地狀態に大なる變更を加ふるとき。

三、借受地上に農舍、畜舍其他耕作上必要なる事項をなしたるとき。

第三十九條　會社は、左の場合には貸付期間中と雖も契約の全部又は一部を解除する。

二項、宅地として、借受希望者あるとき。

其他の事項は、第三十二條中第四項以外を適用してゐる。

第四章　雜地

第四十條　雜地に對しては貸付地に依り宅地又は耕地に關する規定を準用す。

第五章　建物

第四十一條　建物貸付料は毎月二十日限り、月分を納入せしむ。但し事情に依り前納せしむることあるべし。

第四十二條　建物借受人は、三ケ月分に相當する金額を會社に寄託すべし。但し事情に依り免除することあり。

第四十三條　建物の小修繕費は借受人の自辨とす。

第四十四條　左の場合には會社に屆出づべし。

一、使用目的を變更したるとき。

二、建物模樣を變更したるとき。

右事項完了したるとき又會社に屆出づべし。

第四十五條は第三十二條の第四項以外を全部適用す。

以上の規定中につき又は除外せし條項について詳細なることは、南滿洲鐵道株式會社第八編、第三類、土地建物中の第二章、管理處分中第一項貸付の項目中の土地建物貸付規則を參考のこと。

尙ほ樣式についても同上參考のこと。

○南滿洲及東部蒙古に關する條約並重要附屬公文書　（一九一五年五月二十五日）

日本國皇帝陛下及支那共和國大統領閣下は南滿洲及東部內蒙古に於ける兩國間の經濟關係を發展せしめんことを欲し右の目的を以て條約を締結することに決し之れが爲に日本國皇帝陛下は特命全權公使從四位勳二等日置益を支那共和國大統領閣下は中鄕一等嘉勳章外交總長陸徵祥を各其の全權委員に任命せり、因て各全權委員は互に其の全權委任狀を示し之れが良好妥當なるを認め以て左の條項を協議決定せり。

第一條　兩締約國は旅順大連の租借期限並南滿洲鐵道及安奉鐵道に關する期限を何れも九十九箇年に延長すべきことを約す。

第二條　日本臣民は南滿洲に於て各種商工業上の建物を建設する爲又は農業を經營する爲必要なる土地を商租することを得。

第三條　日本國臣民は南滿洲に於て自由に居住往來し各種の商工業其の他の業務に從事することを得。

第四條　日本國臣民が東部內蒙古に於て支那國國民と合併に依り農業及附隨工業の經營を爲さんとするときは支那政府之れを承認すべし。

第五條　前三條の場合に於て日本國臣民は例規に依り下附せられたる旅券を地方官に提出し登錄を受け支那國警察法令及課稅に服すべし、民刑訴訟は日本國臣民被告たる場合には日本國領事官に於て支那國々民被告たる場合には支那國官吏に於て之れを審判し互に員を派し臨席傍聽せしむることを得、但し土地に關する日本國臣民及支那國の民事訴訟は支那國の法律及地方慣習に依り兩國より員を派し共同審判すべし將來同地方の司法制度完全に改良せらるゝときは日本國臣民に關する一切の民刑訴訟は完全に支那國法廷の審判に歸すべし。

第六條　支那國政府は成るべく速に外國人の居住貿易の爲自ら進みて東部內蒙古に於ける適當なる諸都市を開放すべきことを約す。

第七條　支那國政府は從來支那國と各外國資本家との間に締結したる鐵道借款契約規定事項を標準となし速に吉長鐵道に關する諸契約並契約の根本的改訂を行ふべきことを約す。

將來支那國政府に於て鐵道借款契約に比し有利なる條件を附與したるときは日本國の希望により更に前記吉長鐵道借款契約の改定を行ふべし。

第八條　滿洲に關する日本現行各條約は本條約に別に規定するものを除くの外一切從前の通り實行すべし。

第九條　本條約は調印の日より効力を生ず。

本契約は日本國皇帝陛下及支那共和國大統領閣下に於て批准せらるべく其の批准書は成るべく速に東京に於て交換すべし。

右證據として兩國全權委員は日本文及支那文を以て作成せられたる各二通の本條約に署名捺印す。

大正四年五月二十五日

中華民國四年五月二十五日

日置益

陸徵祥

附屬公文書

租借期限

右附屬公文書

（イ）租借期限

以書翰啓上致候陳者本日附貴翰を以て本日調印の南滿洲及東部內蒙古に關する條約第一條に規定せる旅順大連租借期限の延長は民國八十六年卽ち西曆千九百九十七年に至り滿期となり南滿洲鐵道還付期限は民國九十一年西曆二千二年に至り滿期と可相成尙其の原條約第十二條に記載せる運轉開始の日より三十六年の後支那政府に於て買戻すことを得る一部は之れを無効とすべく又安奉鐵道の期限は民國九十六年卽ち西曆二千七年に至り滿期と可相成旨御照會の趣領承致候右回答得貴意候　敬具

（ロ）滿蒙商租

以書翰啓上致候陳者本日調印の南滿洲及東部內蒙古に關する條約第二條に記載せる商租の文字には三十箇年迄の長き期限附にて且無條件にて更新し得べき租借し得べき租借を含むものと了解致候

右照會得貴意候　敬具

（ハ）警察課稅

以書翰啓上致候陳者本日附貴翰を以て本日調印の南滿洲及東部內蒙古に關する條約第二條第三條第四條及第五條は支那國政府に於て諸般の準備を整ふる必要上同條約調印後三箇月間其の實施を延期したき旨御照會相成諒承帝國政府に於て事情已むを得ざるものと認め右に同意致候

右回答得貴意候　敬具

大正四年五月二十五日

滿蒙商租

書記課稅

土地商租契約書

二、土地商租契約書

中華民國人某は自己所有の熟地たる幾何の土地地券面積浮多地の合計實積若干を以てなす。

日本國人某に出租するものとし互に商租契約を締結すること左の如し。

第一條　出租人某より承租人某に租與する商租地の位置境界面積は左の如し。

一、境界

一、面積

第二條　商租期限は民國年月日より同年月日に至る何箇年とす。

第三條　第一條記載の商租地の租價は一畝に付幾何とし本契約成立の際承租人より出租人に交付すべく同時に日本總領事館及中國官憲に認證を請願するものとす。

第四條　本契約締結後商租地の地租及附加稅は承租人より納付すべく其の證據書類は仍ほ出租人に於て保管するものとす。

第五條　本商租地は承租人に於て任意に經營すべく若し他人に轉租するときは本商租契約を標準とすべきものとす。本商租地に關し期限滿了の際承租人が續租を希望するときは出租人は異議を唱ふることを得ず。

第六條　承租人が本商租地に在りて收益を目的とし物品の製造を爲すが如き場合に於ても出租人は何等干涉妨害を爲さゞるものとす。

第七條　本契約成立以前に滯納せる地租及附加稅は出租人の負擔とす。

第八條　承租人が本商租地に於て事業を經營する場合は境内に標本を立て墻壁を設け又は土盛りを爲し他人の田地を妨害することなきを要す。

第九條　商租地四隣地上の作物を侵占し又は損害を加へたるときは承租人に於て處理し又は代價を賠償すべく出租人は其の責を負はざるものとす。

第十條　出租人は本商租地を他人に典押賣買することを得ざるものとす。

第十一條　承租人は本商租地に關し收益なきときと雖も租價の低減を要求することを得ざるものとす。

第十二條　本契約書は日本文及支那文にて各何通かを作成し疑義あるときは支那文を以て正本と爲すものとす。

以上各條は雙方の合意に依るものにして返悔なし後日の證とする爲め本契約書を作製し互に當事者間に署名捺印の上各一通を保管す。

大正　年　月　日

出租人

中華民國　年　月　日

承租人

土地商租暫行規定

滿洲國土地商租に關する詳解

永代小作權
永代地上權
の形式にて
土地を自由
に移轉賣買
す

三、土地商租暫行規定　（大正十年九月十日）

保證人
紹介人

第一條　土地の商租は本規則に據り之を處理す。

滿鐵附屬地內、土地建物借入れの手續其他につき、尙、不明のことは同社に問合はさるれば、詳細お答へするから、特に茲に詳述するの煩を避けるが、滿洲國土地商租に關しては、前記條約だけでは分り兼ねる點が多いから、左に詳解を試みた。

滿蒙で土地を手に入れることは、表面至難のやうであるが、實際は至極容易なことで、之れには次の樣な事情を知らねばならぬ。

滿蒙人は昔から、土地の賣買といふことを認めぬ思想を持つて居り、從つて、新政府下でも、公然と土地を外國人に賣渡すといふことは認めぬと思ふ。然し乍ら、實際上からは、所有權は移さぬが、永代小作權、又は永代地上權ともいふべき三十ケ年間を單位とする商租權（業主權ともいふ）は自由に移轉賣買して居る。而も此の私的個人間の土地賃貸借契約に就ては、我が領事官憲に依つて、契約確認、卽ち登記が與へられる。從來の例によつても、契約期間中、所有者から返還請求に及んだ例は一回もなく、期限が來れば更改して、無限に繼續し、萬一、無理に返還請求すれば、所有者

形式上土地所有權なきも實際上は返還要求不可能なり心配無用

滿蒙農家の耕作法並びに經營滿蒙の農法

は土地商租者に對し、開拓費、治水費、土地改良費等莫大な金額を支拂はねばならぬから、事實上不可能となる。

尙、土地を商租するには、當事者間の直接交涉では至難であつて、買辨又は介辨を通じてなさねばならぬ。卽ち滿蒙人個人たる買辨の名義で先づ土地商租をなし、然る後、其の買辨と日本人との契約によりて、日本人が商租權を獲得するといふ手段に依るのが最も簡單である。

農業經營法

滿蒙農家の耕作法並に經營

滿鐵經營の農事試驗場

滿蒙の農法は、牛馬騾等を使用し、犁鋤を用ひ、輥子や耙耬などで耕地し、歐米風に似て巧妙に家畜を利用して居る。肥料は主として家畜類や人糞を肥土に混積した土糞であつて、普通三年に一回施肥し、化學的肥料は殆んど未だ知られて居らず、又其の必要もない位に、肥沃壤土が花崗岩盤上に五六尺乃至三十尺積つて居る。病虫害は年によつて幾分はある事もあるが、土人は天災だとて何等驅除豫防法を講じない。

自作、小作の外に分益小作法、請負法などがある、大中小農の區別は、南北によつて差はあるが、一戶百町步以上所有せるを大農とし、二三十町步から五六十町步を中農、それ以下を小農とする。

現今、滿蒙新國家で、奉天、吉林、チ賚ハルに農事試驗場が置かれて居るが、未だ完備の域には至つて居ない。滿鐵では公主嶺と熊岳城とに、巨費を投じた農事試驗場を設け、公主嶺では、普通

滿蒙開拓者は各地の試作場に諸種の農法につき照合し研究すれば相當の便益あり

滿蒙米作現況特記の必要

過去に於ける水稻は全く移住鮮人の開拓

水田開墾奬勵の必要

農産物の試驗の外に、甜菜、煙草、亞麻などの新作物を栽培研究し、傍ら大豆の品種改良には特に努力し、同じく畜産科では、羊馬豚などの改良試驗を行つて居る。又熊岳城では繭蠶、果樹、園藝、林業の試驗をして居る。尙、鳳凰城と得利寺には煙草の試作場を設け、鄭家屯その他にも小規模の試作場が置いてある。之等は皆滿蒙開拓者のために其成績を公開してゐるから、耕種施肥取入れなどの點に就て、それ〳〵照合研究されることをお勸めする。

注目すべき滿蒙米作の將來

次に移住後、耕作の目的物としては移住地の特性と移住者の技能とにより、自然一定の種目が決定される譯であるが、邦農の大部分が一番興味を感ずる筈である米作につき、滿蒙の現況を特記するのは徒爾ではあるまい。

現今、滿蒙に於て、水稻の最も多く植ゑ付けられて居る吉林省ですら、僅かに全作付反別の一割に足らぬ有樣であり、黑龍江省の如きに至つては、全然顧みられず、遼寧省に於てすら僅々百分の一に過ぎぬといふ貧弱なる有樣である。然らば氣候、土質等天然の諸事情が米作に不適當なるかといふに、最近滿鐵の農事試驗場に於ける試驗の結果に據れば、滿蒙に於ける水稻は甚だ有望で、今日迄は全く移住鮮人の手のみに依つて開拓せられたる水田約九萬町歩あるに過ぎざるも、向後、新國家の下に我官憲の保護に依り、匪害を殲除して水田の開發を奬勵するならば、近き將來の可耕

水田開墾事業には邦人が最も長じてゐる

小農組織を捨て集團移民組織へ

勢資圓滿協調の理想的樂土の建設を目的とせよ

移住者は不屈なる忍耐心が必要

滿蒙未開耕の大沃野の活用は日滿の共同責務なり

未耕地各省の割合

水稻田面積は五十萬町歩乃至百萬町歩に上ることは難事でなく、產米額も八百五十萬石は確實に收穫せられるだらうと豫想されて居る。而して漢、滿人は稻作の技術に先天的に不適であることは、此の方面に於ける邦、鮮人の發展の餘地を暗示するものであるが、唯だ問題は（鮮農の場合は別とするも）邦人移民の場合にありては、從來の如く個人々々が互ひに連繫なく孤立して、內地の小農組織を其儘移植するといふのでなく、集團移民を組織して、相當の規模資力あり統制ある大農園となし、勞資圓滿協調の理想的新樂土を建設する位の意氣込が無くてはなるまい。單に勞働力のみからいへば、彼地既住の鮮支農民の如く、極めて低廉なる生活費を以て、原始的生活狀態に甘んじ、而も、永年彼地の極寒極暑に耐へ鍛へ來れる者に比し、幾分のハンデイキャップあるを免れない。（尤も此の點は、智能、能率等で充分補ひのつくものではある）。

有望なる棉花その他の栽培

實に米作に次で、煙草棉花等の栽培に於ても、滿鐵の農事試驗場其他官私立試驗場等の調査機關と呼應し、滿蒙今後の新農產品として將來を囑望さるゝものであり、何分、未耕の處女地として放置さるゝ一千六百萬町歩の沃野を如何に活用すべきやは、向後、日滿共同の責任でなくてはならない。

最後に特に申添へ度いことは、一言に未耕地一千六百萬町歩といふも、其の開墾の程度は、南の遼寧省が八割、吉林省が四割五分、黑龍江省が三割であつて、つまり北に行く程、未墾地が多く、

北滿の未墾地は肥沃

北進農女地開墾は邦人移住者の着眼點なり

滿洲駐屯守備隊除隊者の希望者を農業家とすべく援助してゐる。

殆んど既耕地未耕地の割合が逆轉する。之れは從來、北に行く程、行政、警察が行き屆かず匪賊の橫行に委ねられて居たこと、氣候が北進する程大陸的となり、冬季に於て嚴寒の度を增すことに因つたものであるが、耕作の成績といふ點から言へば未墾地の多い北滿に於ては、黑色土多く寧ろ肥沃といはれてゐる。

故に、嚴寒に對する覺悟さへつけば、匪害は今後、新國家の下に日本の保護もあり、北進して處女地開發といふことは、邦人移住の最も興味ある着眼點といはねばなるまい。

なほ內地人の純然たる農業者の數は今迄の處、甚だ僅少である。

かつて、大正三年から六年迄の間に、滿鐵會社は滿洲駐屯守備隊除隊者の希望者中から、農業家として將來よく困苦に耐へ、發展の見込ありと認められる者卅四名を考査選出して、附屬地內に耕地を貸與し、家屋、農具、役畜の購入等にも多大の便宜を與へ、將來、自作農として獨立させようとして見たが、其の半數は成績を擧げ得ず、創始後三四年內に就れも業を放棄して農地を去つた。而して殘留者の現狀も亦、決して當初の期待に副はない許りでなく、多くは其の前途を悲觀してゐる有樣である。此の外に、關東廳に於ても、州內金州管內愛川村の地を卜し、純然たる日本農村を創始し、移住農家廿四戶につき、農地、建物、畜類、器具等の取得、購入に多大の便宜を與へ、水田作を行はしめ、土着發達を期待されたるにも拘はらず、移住者の多くは前途を悲觀し、現地を離れ去つて現在僅かに七戶を殘して居るに過ぎない。

過去の植民事業は失敗に歸す

斯くして、過去に於ける日本農業者植民事業は、遺憾乍ら失敗といふの他無いが、此の失敗に鑑みて、現在に於ては作物の種類、耕作面積、副業等につき更に研究考慮を排ひ、灌漑用水を豐富にして、技術方面の改善を圖ると同時に、人的方面に於ても、農業者としての要素につきより嚴重な選定をなし、一層の向上を圖つて居るから、今後の成績には、大いに望みを囑すべきものがあると思ふ。

日滿共榮の實をあぐるため邦人の農事に關する研究努力を待つ

兎に角、今後は土地取得にも從來より利便多く、日本人の農事に關する傳統的な研究心、努力、克己力等は、究極に於てよく滿洲農業の進步、發達を促し、滿洲人に優る有利な農法が創始され、歐米各國の進步した農業國にも劣らない、特有の農業地帶を實現させ、日滿共榮の實を擧ぐる日の決して遠からざるべき事を期待するものである。

(二)　林　産　と　林　業

林産と林業

地方別森林面積と材積量

林産

林産は最も重要な、最も未來ある資源の一と言ふべく、森林地帶の主なるものは鴨綠江流域、間島地方、吉林省東部、三姓地方、大興安嶺地方等で、面積三千萬町步、蓄積量百億石と言はれる。

鴨綠江流域の森林及び材

吉林材

地方別による森林面積及び採伐量の表

今それを稍詳細に表示すれば左の如くである。

鴨綠江流域の森林―鴨綠江材

鴨綠江流域の森林は東岸は朝鮮に、西岸は滿洲に屬し、安東に出廻つて鴨綠江材と稱せらるゝものである。滿洲側の年平均伐採量は百萬石以上と推定されて居る。

區域別	森林面積(町歩)	材積(千石)	區域別	森林面積(町歩)	材積(千石)
滿洲側	九八〇、九三一	三六二、三三三	朝鮮側	一、八〇二、九六八	一、一七八、九二九

松、豆、牡流域の森林―吉林材

松花江の上流々域、豆滿江及び牡丹江の流域地方の森林は、從來筏に依り吉林材として吉林に出廻つたが、吉敦鐵道の開通に依つて、此の地方の森林の開發は一層促進せられる傾向となつた。更に吉會鐵道全線が開通されるならば、將來の吉林材は日本海に搬出せられ、我々に供給せられる時期も遠いことではあるまい。

地方別	森林面積(町歩)				計	材積(千石)
	針葉樹	濶葉樹				
松花江系統	四〇一、五八四	五一〇、五二八			九二一、一一二	
豆滿江系統	一六二、三五五	二七一、一二七			四三三、六〇〇	
牡丹江系統	二一一、九三三	二〇九、〇一七			四二〇、九五〇	
合計	七七五、八九〇	九九〇、七八二			一、七六六、六七二	

東支鐵道沿線の森林

地方別による森林面積及び材積量の表

三姓地方

林産額

各種材の採伐總量

東支鐵道沿線の森林

東支鐵道東部沿線、寧、同寧、寧安、穆稜、東寧の五縣に跨る區域で、所謂樹海と稱せられた地方である。前記二地區がいづれも水運に依つて搬出せられてゐるに反し、此の地域は多く鐵道に依り、採伐權は大部分露人の手に在つて、多くの引込線を有して居る。

地方別	森林面積(町歩)	材積	地方別	森林面積(町歩)	材積
東部沿線	二、六五一、〇六二	九四、六五二	西部沿線	二、〇六七、三〇〇	五〇〇、〇〇〇
合計	四、四〇六、一八	一、四四四、五五二			

三姓地方

吉林省の東北部を占め、松花江、黑龍江、烏蘇里江の間に挾まれた地域で、區域廣大、材積も亦多いのであるが、交通の便惡しく、水流の關係上ハルピン其他南滿に關係を有するものは少い。

森林面積	五、二九〇、九九二町歩
材積	二、六一八、六〇一石

林産額

前記の諸地域より現在出廻りつゝある數量は、年額大約

百三十萬―二百二十萬石

吉　林　材　五十萬—百萬石
間島及び琿春材　二十萬—五十萬石
北　滿　材　百三十萬—百七十萬石
合　計　六百三十萬—五百四十萬石

である。然し、之れは近年の財界不振と、北洋材の壓迫等の爲め激減した數字であつて、昭和三年迄の五ヶ年間の平均出廻數量は約六百五十萬石に達してゐたのである。

森林行政の必要

採伐の現狀と將來の對策

森林も他の部門と同樣に極めて原始的な盜伐に一任してあつて、いはゆる森林行政なるものが全く行はれて居ない。山火事等も頻りに資源を浪費してゐるが一向顧みられやうとしてゐない。だから折角の大林地で不毛の地域に化したものが少くないのだ。將來適當な施設をなし、造植林を奬勵したなら、恐らく面目を一新するであらう。

我國は不足材補充に滿洲材の活用に着眼するとよい

我國は有數の森林國であり乍ら、木材需要高は、樹木の平均成長よりも約六千萬石多いと推定され、年々五千萬乃至一億圓の木材の輸入を見て米國カナダへ支拂つて居り、而も輸入漸增の傾向さへ認められるのであるから、其の點から言つても、上記のやうな豐富な滿洲材の開發に努力し、吉會線の完成を急ぎ、間島吉林方面の木材を日本海に搬出せしめなければならぬ。ただ北滿の材木は日本內地の用材に供することは殆ど不可能であるが、之れに對しては、其の地元にパルプ工業の如き利用工業を興せば最も有望となるであらう。

滿蒙木材集散市場と主要木材會社

滿蒙の木材集散市場と主要木材會社

現今、滿蒙の木材市場は、產出市場としては吉林と安東とを第一とし、消費市場としては、ハルピン、奉天、長春、大連が重きをなす。吉林及び安東では、從來日支人が各種の組織の下に伐木事業を營んで來たが、最近、各個分立するの弊を悟つて事業合同の機運が促進さるゝに至つた。現存する木材業者の主なるものは、

主なる木材業者

安　東　鴨綠江採木公司
吉　林　共榮企業株式會社
ハルピン　札免採木公司　中東實業公司

等であるが、其他、木材關係會社に至つては、王子製紙、三井物產等無慮數十を算する。

伐木賣事業は充分な考慮を要す

伐木、並に之れが販賣の事業は、充分の專門的知識と相當の資力を有する他、彼地の事情に精通して居る事を必要とする。又、滿洲人と合辦とする場合は、餘程愼重に相手方の人選をしないと、飛んだ馬鹿を見る事もある。速急に、計畫するを要する移民事業としては、興味の多い事業ではない。

畜産と牧畜業

(三)　畜産と牧畜業

滿蒙に於る家畜飼養數は、概算牛二百七十萬頭、馬三百二十萬頭、羊五百八十萬頭、豚八百四十萬頭と推計せられ、其他相當數の騾及び驢が飼養されて居る。畜産については熱河省が最重要な地位を占め、牛は全體の五分の二、羊は二分の一を擁して居り、牧畜上最も注目すべき地である。

省別家畜一覽表

省別家畜數と畜産の現狀

尙參考迄に省別家畜數一覽表(昭和五年末)を掲ぐれば左の如し。

省別	牛	馬	騾	驢	羊及び山羊	豚	計
遼寧省	五一七、〇〇〇頭	六六〇、〇〇〇頭	三二〇、〇〇〇頭	三四〇、〇〇〇頭	四八〇、〇〇〇頭	三、二九〇、〇〇〇頭	五、六〇七、〇〇〇頭
吉林省	四三〇、〇〇〇	七三〇、〇〇〇	二七〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	一八〇、〇〇〇	二、二七〇、〇〇〇	四、六八〇、〇〇〇
黑龍江省(熱河省)	六六〇、〇〇〇	一、〇二〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	一、九四〇、〇〇〇	一、七九〇、〇〇〇	五、六一〇、〇〇〇
東部內蒙古	一、一二〇、〇〇〇	八一〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	三、二〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	六、三〇〇、〇〇〇
合計	二、七二七、〇〇〇	三、二二〇、〇〇〇	八一〇、〇〇〇	五七〇、〇〇〇	五、八〇〇、〇〇〇	八、三五〇、〇〇〇	八、七四二、〇〇〇

滿蒙は家畜の天地なり

家畜改良の餘地多し、

由來滿蒙は家畜の天地と稱される程であり、且つ滿蒙の農業組織に缺くべからざるものとして一般農家によく普及してゐるが、其の飼養、播殖は勿論極めて原始的であつて、滿洲では將來は小屋或は露天に繫ぎ、飼料は粟や包米、麥等のからを主として、之れに野草、豆がらなどを配し、濃厚飼料としては、高粱、豆粕、皺等を混合するが、蒙古では全然放牧である。今後防疫の發達、品種の改良、飼育法の改善等が適宜に行はれたならば、大いに面目を改めるだらうと期待される。

將來牧畜業に於て邦人の活躍を期待す

邦人牧畜經營の先驅三島氏の實驗談

かつて、日露役の直後、蒙古に於ける牧畜の有望に着眼した三島海雲氏が、張家口の奥に牧場を構へ、日本より羊の優良種を携へて繁殖を圖り、成績大いに擧らんとしたる時、支那政府の暴戾なる壓迫により、內蒙古に日人の土地租借權無しとて追拂はれ、遂に中途に於て、雄圖の挫折を餘儀なくさるゝに至つたが、之れが今日であつたならば、最早や政治的壓迫の危險は取除かれ、却つて積極的に邦人の活躍に對しては、諸種の利便應援が與へられんとしつゝあるのであるから、三島氏の着眼は非常な成功を以て酬いられたに違ひなかるべし。今後邦人發展の餘地は此の方面にも多分に殘されてゐると思ふ。

畜産品の概要

畜産品概覽

ともかく、前述の如く各種の家畜に富む滿蒙は、從つて又多くの畜産品並に其の加工品を出すべきであるが、之れも未だ其の技術たるや幼稚であつて、凡て原始的な家內工業の程度を出でない。故に此の方面の製造工業も亦、將來充分な改良發達の餘地がある。現下畜産品の概要を記せば左の如し。

乳及び乳製品

乳及び乳製品　蒙古人は日常、牛乳、羊乳を以て牛酪(黃油)、乾酪(如豆腐)を作り、食用に供して居り、純粹の牛乳は在留邦人並に露人に需要せられてゐる。

肉及肉製品

肉及び肉製品　一般に支那人は豚肉を重用視し、牛肉は餘り用ひない。之れに反し、回々教徒は羊肉、牛肉のみを用ひ、蒙古では羊肉を主とし牛肉それに次ぎ、豚肉は殆んど顧みられない。尙、肉類の加工業は現在、奉天、大連に日本人經營の小規模なハム製造場と、東支鐵沿線に露人の經營する小工場があるのみである。

獸骨

獸骨　主に牛骨を材料とし、大連に出廻り、骨粉として內地に仕向けられる。

獸皮及び毛皮

獸皮及び毛皮　滿蒙の北部及び東蒙一帶は獸皮頗る豐富であるに拘はらず、未だ加工事業の見るべきものなく、今尙生皮の儘、歐洲及び天津方面へ輸出されてゐる。

毛皮の種類

毛皮類は、狗皮、猫皮、兎皮、貂皮、狐皮、狸皮、水獺皮、灰鼠皮、鼬皮等で、黑龍江、吉林兩省の北方產を最良とする。

羊毛の生産量は約五百萬斤の豫想

我國羊毛問題解決策

羊　毛　我國の主要輸入原料の一たる羊毛の生産量についても確かな數字はなく、年產約五百萬斤といはれてゐるが、事實はもつと多額に上るであらう。其の輸出總量についても種々の說があるが、外國に輸出するものは大部分米國に向けられ、主として敷物用絨毯の材料に使用される。我國に於ても、羊毛問題解決策の一端として滿蒙羊毛の利用については大いに研究を要する次第で、滿鐵公主嶺試驗所でも、濠洲種羊の交配を試み成功を傳へられて居り、今後羊の品種改良に依る毛質の改善と相俟ち優良羊毛の大量生產を促し我國羊毛工業の安定に稗益する處が無ければならぬ。

粗惡なりと世界一の定評ある滿蒙羊毛に大改良の餘地あり

現狀に於ては、滿蒙羊毛殊に蒙古毛は世界一の粗惡毛であり、日本のやうに優良羊毛を原料とする國では、用途がない。之れは種羊の劣等であることの外に、(一)品種別に區分が行はれて居らぬこと、(二)荷造りに際して、土砂を混入すること、(三)俵裝する繩の中へ土や小石を絢ひ込んで目方を誤魔化す等のことが一層實際上の取引を困難に陷らしめてゐるのである。

邦人牧羊家の滿蒙進出を望む

牧畜業の將來

日本の羊毛工業は近年著しい發達を遂げはしたが、原料羊毛を全部輸入に仰がねばならぬ弱點があり、內地牧羊も永年奬勵を續けられたが、牧羊には廣大な土地を必要とする關係上、發達を阻止されて今尙年額十五萬封度內外といふ取るに足らぬ衰れな狀態である。其の點に至ると、滿蒙には廣大な牧野と無限の農產飼料があり、而も土地高燥で、最も牧羊に適した所が多い。邦人牧羊家の滿蒙進出を望んで止まぬ所以である。

水產と水產業

(四)　水產と水產業

滿蒙の水產資源

滿蒙に於ける水產資源中、魚介類は海岸線が短く、且つ冬季凍結して漁業困難となる爲めと、漁場面積の小なるとの爲め、多大の生產を望むことは不可能であり、海產としては關東州の約一千萬

水產資源に於て特に注目すべき鹽業

關東州に於ける鹽田面積の最大なるものは貔子窩地方並に普蘭店地方で五千七百三十餘町歩に上る

鹽の年産平均四億萬斤

製鹽の生産力は現今の約三倍に增加する見込がある故販路擴大の必要あり

關東州以外に於ける滿蒙の鹽業は約年に五億斤を產す

鑛產と鑛業

滿蒙地下に其大なる石炭と鐵の埋藏量あり

貫、四百三十萬圓を筆頭に、黃海岸渤海岸合せて約六十萬貫、百三十萬圓を產するに過ぎず、之れに鴨綠江、遼河、渾河等の南滿洲諸川よりする約三十三萬貫と、松花江、牡丹江等の北滿諸川よりする約百二、三十萬貫を加ふるも、全體として約一千五百萬貫を出でず、年々供給不足して、五、六百萬圓の輸入をしてゐる有樣である。

盛大なる鹽業

然しながら、水產資源に於いて特に注目すべきものは關東州の鹽業である。元來黃海及び渤海は雨少く蒸發盛なる爲め海水の鹽分濃厚であつて、鹽業に最も適してゐる。鹽田は天日製鹽である。

關東州に於る鹽田面積の最も大なるものは貔子窩地方並に普蘭店地方であつて五千七百三十餘町歩に上り、州鹽田總面積の大部分を占めて居る。其の大部分は日本人の經營するものである。

生產高は天候に依つて一樣でないが、平均年產約四億萬斤內外である。而して州內の需要は約二千萬斤に過ぎないから、殘餘の三億八千萬斤は輸移出に向けられる。卽ち日本內地へ約二億萬斤、朝鮮へ一億萬斤、樺太、沿海州へ約五千萬斤等である。

而も州鹽の輸移出量は、年々增加の傾向にあるが、一方、逐年の生產力の增加が、甚しく巨額の持越鹽を擁して、販路の擴張に腐心してゐる實情であるし、まだ〳〵生產力は需要次第では約三倍にまで增加する事が出來るのであるから、內地市場を開放して其の發展を圖らしむべきであり、內地化學工業に取つては實に大なる價値を持つものであるといつてよい。

關東州以外の滿蒙に於ける鹽業は海水製鹽と鹽池製鹽とに分けられるが、大體四、五億斤を產し、自給自足であつて、輸出能力はない。但、內蒙古は無盡藏といはれて居るが、之れは確證がある譯ではない。

(五)　鑛產と鑛業

滿蒙の鑛產資源

最後に滿蒙の最も重要な資源として、地下に埋藏される鑛物を擧げなければならぬ。其の中、日本に取つて最大の利害關係を有するものは、その莫大なる鐵と石炭とである。

現代の文明は鐵と石炭と石油の文明と言つても過言ではない。然るに我國に於ては、鐵は朝鮮及び內地の數鑛山に僅か產出する丈けであつて到底需要を充すに足らず、年々支那揚子江沿岸、南洋等より莫大な鑛石を輸入して居る。然るに滿洲には豐富な鑛山多く、鞍山、弓張嶺地方、安奉線沿線、鴨綠江東北沿岸、吉林附近等に於て其の鑛石埋藏量大約七、八億噸と含有量（三六%以上のもの）稱せられる。尤も品質は概して優良ではないが、此の貧鑛を完全に而も低廉に利用するやうな適切な技術が發見せられゝば、世界的な大規模の鐵鑛資源を獲得することが出來る譯である。現にその

製鐵鑛業は基礎工業中の基礎工業なり

技術も大半は完成されつゝあるから心強い。

製鐵所は現在鞍山及び本溪湖に在つて、銑鐵年産約三十萬噸、内二十萬噸は内地に輸入されてゐる、我國は其他印度よりも多量の銑鐵を輸入し、現在總額百數十萬噸の鐵を外國に仰いでゐる狀態であるが、製鐵鑛業は所謂基礎工業ともいふべきものであつて、中の基礎工業各種の機械工業、建築及び數多の最も主要なる化學工業の基礎をなすものであり、殊に一朝國家有事の際に製鐵原料の大部分を遠く海洋を隔てゝ他國に仰ぐの不利は言ふ迄もない。

石炭は滿蒙の重要資源の一つ

推定埋藏量は南滿二十五億噸北滿五億噸各地の出炭量

次に石炭はどうであるかといふに、滿蒙鑛産資源中、石炭こそは最重要の地位を占むるものである。石炭礦區數は其炭質の良否を論じないとすれば、五十個所以上に及び、推定總埋藏量は南滿が二十五億噸、北滿が五億噸合計三十億噸にも達する。主要なる礦區は新邱、撫順、本溪湖、煙臺等で、昭和六年度に於ける地方別主要炭坑礦藏量及び出炭量を表示すれば次の如くである。

滿鐵本線	煙臺	四〇 百萬噸	一五四 千噸	京奉線	新邱	一、一二〇 百萬噸 五〇 千噸
	大疙疸	三三	一一〇		北票	二〇 三六〇
	其他	三〇	一九八		其他	六〇、三 六六
	計	一〇二	四六二		計	一、一九〇、三 四七六
安奉線	本溪湖	一〇〇	四九〇	吉長吉敦線	火石嶺其他	九 一六二
	其他	九〇	九四			
	計	一九〇	五八四	北滿東支線	札來諸兒	二〇〇 二四五
撫順線	撫順	九一五、七	七、一九七		鶴立崗	四〇 一〇〇
	其他	九一	八三		其他	一二五 三四六
	計	一、〇〇六、七	七、一八〇	總計	計	三六五 七〇〇
						二、九六八、九 九、六六六

毎年の出炭量は合計一千萬噸世界無比の野天掘

即ち推定總埋藏量約三十億噸、毎年の出炭高壹千萬噸に垂んとし（我國の約三分一に當る）其中、七割五分を占むる撫順炭礦は、有名なる世界無比の野天掘であつて、採炭費の廉價なること、從つて原價の安くつくことは非常なる武器であり、中、南支、南洋方面まで驥足を伸すは勿論、内地へも年々二百萬噸近くの輸入を見て居るのである。爲めに、時に内地炭界壓迫を叫ばせる位であつて、滿鐵の金庫たることは周知の事實である。但し、次第に坑道が深まり行き、將來新炭田の發見なき限り、漸次生産原價の上昇を見るは避け難き處であらう。

頁岩から石油を採る

近年、鐵、石炭に次で、飛行機自動車の發達、内燃機關の進歩に伴ひ、汽船軍艦等に石油の重要性が益々加へられ、世界列强は石油資源の獲得に日も之れ足らざる狀態であるが、我國では遺憾乍ら、石油に惠まれず、全國産額に北樺太の産油迄加へても、所要數量の三分の一にも達しない有樣である。而も需要は急速に增加して行くので、毎年莫大な輸入をなし、一億圓近くの支拂を餘儀なくされてゐる。然るに近年、撫順炭層の上皮の頁岩を乾溜して、經濟的に石油を産出し得る方法が

發見されて、現在三萬噸に近い産出を見て居る。面白いことには此の頁岩は撫順炭礦の露天掘に於て、先づ取り除かなくてはならない上皮を爲して居つて、從來は邪魔物扱ひをされてゐたものである。現在では未だこれ位しか産しないが、頁岩の埋藏は莫大に上るやうであるから、將來より經濟的な乾溜方法が發見されるならば、石油問題解決上頗る有望と思はれる。

石油問題解決上有望

滿洲には又アルミニウム粘土の他に大石橋附近を中心として、各地に世界無比と言はれるマグネサイトの鑛床が發見され、その鑛量も地表だけでも、數億噸あると云はれる。現在は耐火材料としてのみ採掘されてゐるが、技術の進歩に依り、マグネシウムの製造が行はれ、之れを原料とする輕合金の研究が完成した曉には、アルミニウムと共に輕合金材料としての價値は蓋し莫大なるものがあらう。

マグネサイトの鑛量數億噸

滿州に於けるアルミニウム原料の産地

アルミニウムは石油と共に近代文明の先驅をなすものとして、識者は今や、鐵・石炭時代は既に過ぎ、アルミニウム・石油時代が到來したと叫んでゐる。之れを事實に照して見ても、アルミニウムが家庭の日常器具に、或は電氣工業用に、又は近代的工業材料として、極めて重要なものとなり、國防上にも必須缺くべからざるものとなつて來たが、我國に於ては之れ亦生産に乏しく、年約一萬噸の使用額の全部を海外に仰ぐ狀態である。然るに滿洲には遼陽、煙臺等を中心に、各地にアルミニウム原料粘土が豐富で、南滿洲だけでも十數億噸と言はれてゐる。これも現在は耐火材料として

アルミニウムの重要性

のみ供給されてゐるに過ぎないが、技術的研究の完成を待つて、優良なアルミニウムが製造される日の速かならん事を希望してやまないものである。

滿洲に於ける金の産地

以上の外、滿洲には金の産出も相當にあり、殊に北滿、黑龍江に近い地方には有望な砂金鑛が豐富に埋藏されてゐると言はれ、又滿俺、鉛等の有用鑛物も各地に發見される。

鑛業の現狀

鑛業

製鐵

製鐵事業

土法による製鐵業は古くから行はれてゐたが、今日、大規模に作業して居るものは、滿鐵經營の鞍山製鐵所と、大倉系の日滿合併本溪湖煤鐵有限公司とがあるのみである。

鞍山製鐵所

鞍山製鐵所は、滿鐵本線鞍山驛の西北二十二町の地點にあつて、大正八年四月に創立されたものである。現在年産銑鐵二十萬噸、大連及び營口から輸出して居る。從業員は約三千人の他に鑛夫、勞働者が一日平均三千九百人づゝである。歐洲大戰當時、出銑量百萬噸を目標として、之れに伴ふ十五萬人を包擁すべき鞍山市街は、純粹の鑛業都市として建設せられ、滿鐵の鞍山附屬地六百九萬五千坪の內で百廿萬坪の市街地區を定めて文化的建築施設を施したものが、大戰終熄の結果、製鐵事業は大緊縮を餘儀なくされ、居住者は激減し、邦人家屋の大方は空家となり、今日では昔日の大計畫を夢物語の如く、官衙病院等がマバラに佇立してゐる有樣である。

本溪湖製鐵所

本溪湖製鐵所は、奉天、安東の中間に在り、明治三十八年十一月大倉組が著手し、爾來幾多の曲折を經て、明治四十四年中日合併組織の本溪湖煤鐵有限公司となり、今日に至つたものである。現在、年產銑鐵量十二萬噸、特筆すべきは、低燐銑の製造であつて、兵器用として、瑞典銑鐵に優つたものを產出してゐることである。

炭礦業

偉大なる撫順炭坑

撫順炭の出炭量

炭　礦　業

滿鐵經營の撫順炭礦は、奉天の東方十里奉天省撫順縣撫順街にあり、滿鐵撫順支線の終點で下車すると、右側一帶の小官屯、山嘴子方面は所謂新市街の露天掘地區で、面積千八百廿萬坪、石炭埋藏量約十億噸、炭層の厚さ平均百三十尺、最厚四百二十尺で、世界無比と稱される。

就業人員は日本人二千六百人と滿蒙中國人四千四百人、出炭量は年產七百四十萬噸、日本全國の四分の一に當る。現在では、滿鐵社用に百萬噸、滿洲地賣百四十萬噸、朝鮮向五十萬噸、內地向百五十萬噸、大連港バンカー用百萬噸、中、南支、南洋向二百萬噸といふ割合にて消費されてゐる。

本溪湖炭礦は、製鐵事業と合せて大倉組の經營にかゝり、本溪湖河の溪谷に開かれた狹長な地である。附屬地に日本人千三、四百人と、滿蒙中國人が五百五六十人、其の隣接地に滿蒙中國人が一萬二千人許り住み、我が守備隊兵舍もある。

從業員は日本人二百五十人と、滿蒙中國人六千五百人、推定埋藏量二億五千萬噸、採掘年額六十萬噸、火力强き半無煙炭なる爲め製鐵用に適し、主として本溪湖製鐵所で使用されてゐる。

工業

滿洲の工業品

(六)工　業

滿蒙工業總觀

現在滿洲に於ては、支那在來の油脂、製粉、釀造等の工業は勿論、纖維、各種化學、製鐵、鐵工、電氣、瓦斯、各種食料品、煙草、毛織物、皮革、製材、諸藥品、製氷、煉瓦、セメント、陶磁器、硝子、染料、塗料等の各種工業が興されて居るが、今滿鐵會社其他の調査資料に基いて、各種工業の業態を略述して見よう。

油脂工業

油　脂　工　業

支那人間には古くから手工業によつて大豆を搾油して食料に用ひ、其の上塗料や燈火用にも供してゐたが、現代の油房業は多く機械工業化した。

油房は南滿洲に在つては、大連、安東、開原、長春、公主嶺及び營口等に大規模の工場があり、殊に大連に最も多い。

製粉業

製　粉　業

これは支那在來の方式に依る磨房と、機械力に依る新式工場とに別れる。露人經營に係る北滿の

工場が全滿洲産出の大部分を占め、南滿には日本人經營のものも勿論あるが、北滿のそれには現在のところ遠く及ばない。

醸造業

醸　造　業

高粱酒の醸造を主とし、日本酒の醸造は未だ盛況を見ない。向後日本人の移住が增加し、米作が改善されて上等精白米が滿蒙の地より産出するに至れば、水質良好の地を選定し、日本酒醸造を計畫することは面白いと思ふ。

醤油

醤油は、大豆、小麥、鹽等、豐富な土産材料に惠まれて居るが、殊に近年支那人間に、在來の鹽を捨てゝ醤油を調味料とする傾向が增加し、醤油工場は前途多望と見られてゐる。

繊維工業

繊　維　工　業

繊維工業は柞蠶糸、綿糸布、製麻及び製紙業等に別れてゐる。

柞蠶糸は絹紬の原料となるもので、歐洲大戰當時に刺戟を受けて急速な發達を見たもので、蠶を各原産地に求め、機械製糸工場にて製糸する。大連、安東を中心として多數の工場がある。

綿糸布業は最近に於て發達したもので、原料を上海、印度、北米に仰いでゐるが、將來滿洲にて棉花の栽培が盛んとなれば、一段と發展の可能性ある譯にて、現に目下、金州、遼陽地方を初め、各地に米棉の試植が行はれて其の將來を囑望されてゐる。

製紙業

製　紙　業

豐富な木材パルプ及び高粱稈を原料とする爲めに前途有望であるが、現在にあつては原料パルプを內地製紙界に供給するのと塵紙の製造に止めて居るので、この事業の發達は未知數と見られる。

製麻業

製　麻　業

南滿に於ては奉天、大連に工場あるも、未だ全滿洲の需要を充すに足らず、多量の輸入を見てゐる。麻は鴨綠江、松花江、渾河、遼河、太子河流域に産し、麻製品は帆布、網、絲等である。

各種化學工業

各種化學工業

化學工業は、滿洲文化の發達に伴ひ、歐米式最新型の各種工場が雨後の筍のやうに興つて來て、石鹸、燐寸、油母頁岩、製紛、製氷、肥料、染料、藥品、食料品工業等が數へられる。

石鹸

石鹸は滿洲産牛油脂及び豆油を原料とし、主として土着人向のものを現在では製出してゐる。

燐寸

燐寸は安全燐寸及び黃燐燐寸を製するが、原料木材が豐富な爲め急速に發展し、一時供給過多に陷つた。日、滿、瑞、三國系の競爭が行はれて居る。今後は人口の增加に依つて緩和されるであらうが、支那人は主として低廉な黃燐燐寸を愛用する。

油母頁岩

油母頁岩は撫順に發見された頁岩を原料として、石油同樣の油を製出する計畫で、工場は撫順炭礦の經營である。將來有望視され、副産物としてアンモニアが得られる。

食料品工業

食料品工業

製糖業

製糖、精米の二工業は共に有望であるが、製糖業は甜菜を原料とするもので、氣候其他の關係により、年々の豐凶に標準なく、製糖能力の判定は困難である。北滿洲に於ける露人、波蘭人、支那人等の經營のものは凡て獨逸其他歐洲式機械を用ひ、規模も大きい。南滿に於ては、邦人經營の一會社があつて、臺灣粗糖を精製するものと、土產甜菜より製出するものとに分つてゐたが、近時休業して居る。

精米業

精米業は近年滿洲米の增收と、輸入品の減少に伴ひ、逐年發達し、滿洲の全需要を充たす丈けの精米機關が完備してゐる。

電氣瓦斯業

電氣、瓦斯業

電氣工業の全般に亘り電力及び電燈の供給を行つてゐたのは滿鐵であるが、南滿の新都市及び附近の城內には逐年電燈事業が興り、今では晝夜の別のない程、明るい世界となつた。電車は大連、奉天、撫順等に敷設されてゐる。

瓦斯事業は撫順炭利用の一策として、明治四十三月三月、大連に瓦斯會社の創設を見たのを濫觴とし、逐年增設され、鞍山、奉天、安東、長春等に及んでゐる。

煙草製造業

煙草製造業

煙草は古くから、滿洲各地に、普遍的に栽培されるが、支那人は幼少時から、煙草を愛喫して居る。主なる產地は、遼寧省東部及吉林省一圓で、最近、兩省の年產額は五千萬斤以上と概算され、所謂「東山烟」は遼寧省、「南山烟」は吉林省產の謂である。主なる烟草製造業者は、東亞煙草會社、英米煙草公司、中俄煙公司、ロバート商會、チユーリン商會、南洋烟草公司等である。

毛織物業

毛織物業

滿蒙には約二百五十萬頭の綿羊が牧畜されて居て、年約六百萬斤の羊毛を出して居る。從來之等の羊毛は原毛のまゝ他へ輸移出したものであつたが、大正七年奉天に滿蒙毛織會社が成立し、選毛して、製織に從事することゝなつた。一方、公主嶺の農事試驗所に於ては、在來種から採れる羊毛の缺點を補ふ試驗に成功し、着々として其改良種の普及に進みつゝある。

皮革業

皮革業

滿蒙からは年々百七、八十萬枚の獸皮を出して居るが、之れが精製工業は微々たるもので、多くは生皮のまゝ移輸出され、鞣は年々外國から輸入されて居る。

製藥業

製藥業

豐富なる土產の原料を利用して、パリウム加里、曹達、甘草エキス、硫酸クレオソート、ナフタリン、及火藥の製造工場が興り、滿洲に於て、自給自足を目指されて居るに拘らず、多くは業績不振

である。

曹達工業

此中、曹達工業は、關東州に於ては州産の鹽を利用し、電氣分解法によつて製産して居る傍ら、東蒙古に於て多量に採取される天然曹達からも精製して居る。バリウムは州内の原料によつて製出され、クレオソート及びナフタリンは撫順炭坑モンド瓦斯工場の副産物である。

甘草エキスは蒙古産の甘草を精製するもので、大連、鄭家屯及び赤峯に工場がある。又原草のまゝ輸出されても居るが、多くは、日本を得意先として居る。

製氷清涼飲料水

製氷、清涼飲料水業

滿洲の大河川からは天然氷の純良な物を多量に産するが、關東州地方には製氷會社が、又各地には清涼飲料水製造工場が設立され。酷暑の飲用に應じて居る。

瓦、煉瓦製造業

瓦、煉瓦製造業

支那人は土法によつて黒煉瓦、黒瓦を製造使用して居るが、滿洲の洋式建築の發達に伴れ各種の瓦、煉瓦の需要起り、其原料たる石灰石や粘土も亦豐富なために、滿洲に瓦、煉瓦製造工場が起つた。近年支那人家屋にも日本人工場製出の瓦、煉瓦を使用する者が增加して來たので、需要は漸增の傾向にある。

セメント及石灰

セメント及石灰製造業

滿洲の新設都市は凡て洋式の土木工事を起したが、當初セメント石灰等の製造所はなく、悉く輸入に仰いだ。然るに關東州内には、豐富なセメント材料石の産する事が確められ、工業として創始された。次に苦灰土も關東州に豐富に産するために、滿洲に瓦、煉瓦製造工場が起つた。近年支那人家屋にも日本人工場製出の瓦、煉瓦を使用する者が增加して來たので、需要は漸增の傾向にある。

陶磁器及硝子

陶磁器及硝子製造業

日本及び天津地方より輸入される陶磁器の量は少くないが、大連には大連窯業會社があつて、支那白硬灰陶器を製出して居る。

硝子製造は前記窯業會社に於て、曹達硝子、クリスタル硝子、硬質硝子及び電器具、燈器用の特殊硝子の製造に當つて居る。

染料及塗料工業

染料及塗料工業

塗料はマグネシア粉末、スタッコマンチュリア、硅石粉及びトラストペイント等が製産されて居る。又獸皮を原料とする膠の製造にも相當見るべきものがある。

染料

染料は支那人間には藍、槐樹又は楓樹を原料として製造して居たが、獨逸品の侵入に逢ひ、一時壓迫されたが其後邦人工場進出して、獨逸品を逐ひ今日に及んで居る。

肥料工業

日本商人と支那商人

日支兩國人の商業競爭

支那商人の組合組織

肥料工業

豆粕は肥料としての輸出品中の大宗に當るが、このほか硫安及び獸骨粉製肥料等が移輸出されて居る。硫酸アムモニアは鞍山製鐵所工場の副製品で、獸骨及骨粉は日本内地にも桑園、田地等に使用され、好評である。獸骨は肥料用の他に、脚骨は刷子及小刀、扇の柄に又は櫛、簪、ゼラチン用材料等に使はれて居る。

(七)　商　業

日本商人と支那商人

南滿洲の商業中心地は大連であるが、對外市場としては、大連の他に營口、安東があり、對内市場としては、奉天、開原、四平街、新京(長春)等がある。而して、現在、滿洲の商業界は、日支兩國人の競爭を演出して居るが、鐵道附屬地や、關東州内に於ける日本及び支那内地製品の卸賣商業を初め、凡百の小賣商業に至るまで、支那商人は遙に日本商人を凌駕して居る。之等支那商人は組合を組織し、專賣特權制を定めて、互ひに利益を保護して行くのみでなく、營業經費の輕少な點に於て、到底日本人の及ぶ處でなく、特に雜貨類に於ては、日本側の小賣商は、其顧客を支那商店に奪はれつゝある。然し乍ら、在來の滿洲に於ける日本人の商業は寧ろ準備時代であつて、今後は環境の著しい變化も期待されることであり、やり樣如何では、充分な發展の可能性が認められるのである。

滿蒙貿易の現狀と將來

滿蒙貿易は大連、安東、營口の諸港を中心とする南滿貿易と、ハルピン、愛琿を中心とする北滿貿易と、龍井村、琿春を中心とする東滿貿易の三種に區分する事が出來る。

南滿貿易　南滿洲の貿易品を出入の二科目に分類すると移出品の主なるものは豆、其他穀物、雜穀、麩、鹽、肥料、豆油、繭、各種糸類、獸毛、薪炭、鑛產品であつて、輸移入品としては各種織物、糸類、種子、酒、飲料水、煙草、藥、機械、蠟燭、石鹸、燐寸、化粧品、建築材料、電氣材料、紙、硝子器等である。貿易總額は昭和五年に於て六億二千三百餘萬海關兩に上り、全滿貿易額の八割を占めて居る。

大連港　累年の躍進的過程を裏切つて、銀の低落、世界恐慌の餘波をうけ、昭和五年度に於ては其貿易額は轉落した。然し全滿貿易の六〇%はこゝを通してなされる。その主要貿易品目、數量、價格の比較を表記すれば次の如くである。

大連港輸移入品數量及價額二年比較　價額單位(海關兩)

品名	單位	昭和四年 數量	昭和四年 價額	昭和五年 數量	昭和五年 價額
綿織物		—	二四、七一五、〇四六	—	一八、二八六、六三二
麥粉	擔	二、八〇三、四四九	一五、〇八八、一二五	一、四四〇、三七七	八、五四二、七七五
紙卷及葉卷煙草		—	一二、二四七、三九八	—	一二、二三四、二五八
鐵及鋼	擔	二、八〇〇、九三〇	一三、二九二、六八二	一、八〇三、〇七九	一〇、九二九、二一五
機械器具		—	一〇、〇三五、三〇五	—	一四、三三二、九七六
車輛類		—	八、七九一、五七七	—	五、三三三、〇七八
麻袋	枚	四二、五一三、三〇〇	一一、八三六、六七三	二三、五八九、八八五	七、二八一、〇八一

大連港輸移出品數量及價額二年比較　價額單位(海關兩)

品名	單位	昭和四年 數量	昭和四年 價額	昭和五年 數量	昭和五年 價額
大豆	擔	三五、五〇一、四一〇	一三四、五四三、三二七	一八、七〇五、五八四	七一、〇三九、七七八
豆粕	擔	一三、〇七六、一八七	三六、六四六、〇四六	一二、九三八、二七九	三五、〇九八、五九八
豆油	擔	一、七六八、六一六	一九、四五四、七七六	一、九五三、九二三	二三、四四七、〇七六
皮革		—	四、六二七、三六七	—	三、七〇一、七四六
石炭及コークス	英噸	三、七八八、九二六	三〇、一九四、九一四	三、一九八、四七〇	二五、五五二、〇五二
鐵及同製品	擔	二、七七二、九〇一	五、〇四二、三八〇	二、七三〇、六一一	六、〇五一、九七一
其他金屬及金物		—	一、一三〇、六六三	—	二、一一九、二七八

牛莊港　牛莊(營口)港——最も早くから商港として開港されたものであるが小規模で大港灣として對外貿易に雄飛するには適さない。然し對支那沿岸各地との貿易に於ては滿鐵石炭近海移出、東北省に於ける支那側鐵道の發展に伴ふ呑吐貨物の增加等、今後猶ほ同港將來の發展に光明をあたへるものがある。

昭和五年度の牛莊港の貿易概況は諸種の障害ありしも却つて伸展し、總貿易額は一〇三、九一四、五〇九海關兩と云ふ未曾有の多額に達した。前年に比すると約二十%の增加を示してゐる。その原因を考究すると第一、支那鐵道の延長に依り背後地範圍が擴大され輸出入貨物の集散が增加した事、第二石炭及び銑鐵輸移出增加に依りたる事、第三例年に比して時局の影響を蒙る事が少かつた事等によるのである。

左に牛莊港の主要なる輸移出入品數量價格の昭和五年六年の二年間の比較を表記すれば次の如くである。

牛莊港輸移出品數量及價額二年比較　價額單位(海關兩)

品名	單位	昭和四年 數量	昭和四年 價額	昭和五年 數量	昭和五年 價額
大豆	擔	一、一六六、四〇〇	四、八一五、四〇一	二、六三九、四五七	一三、四三三、二〇九
高粱	〃	六二四、七〇〇	一、七〇五、〇八六	七八二、四二四	二、三八八、八四八

豆粕	噸	三、一六五、〇四九	九、八二五、七七	二、〇二六、四九九	六、五三二、八三五		
豆油	〃	一三五、五〇〇	一、四二五、七〇三	一〇五、六七八	一、三一〇、一六一		
石炭及コークス	英噸	五四九、四六八	四、九四八、九二七	八三、一〇八七	九、三五七、四四七		
鐵及同製品	噸	九八一、〇六四	一、九七七、四八〇	三九九、四〇〇	二、一九六、三九四		

牛莊港輸移入品數量及價額二年比較　價額單位(海關兩)

品名	單位	昭和四年		昭和五年	
		數量	價額	數量	價額
綿織物	—		一一、三一〇、三九	—	一〇、〇三四、四五四
綿織糸	噸	五五、八三七	四一、〇九四、五八六	一二三、三九七	五、三六一、四〇三
蔘粉	〃	一、一九五、八五六	五、四三五、九四三	一、四六六、〇三二	七、三六六、三一〇
茶	〃	大八、六四四	三、一八四、三七二	四七、七四六	二、一六八、〇四六
石油	米噸	三、七三五、〇一七	二、五四三、八〇五	八、〇三七、八七六	二、八八七、〇一〇

安東港　鴨綠江上流地方木材大集散地にして柞蠶の多額を輸出し主に綿糸布類を輸入する。主なる輸移出入品、數量價格の二年間(昭和五年、六年)の比較を表記すれば次の如くである。

安東港輸移入品數量及價額二年比較

品名	單位	昭和四年		昭和五年	
		數量	價額	數量	價額
綿織物	—		二九、三五二、二四七	—	二四、三五二、六六〇
綿織糸	噸	四九、四四九	三、一〇四、三三〇	—	—

參	粉	擔	四二、九二三	二、〇六六、三一〇	四六八、七〇〇
砂	糖	〃	三二九、〇二九	二、四四四六、二八四	三三二、〇八二
木材及竹等			—	一、二〇三、八四七	—
粟		噸	三、二三六、四四八	一四四、三〇五、七〇五	三、六四七、二七一
豆	粕	〃	二、三七〇、八一八	八、〇四五、〇五八	二、二八四、五七七

銀價暴落、鴨綠江減水により貨物運搬困難等の影響により貿易萎微したかの觀ありしが、其貿易總額を調べて見ると昭和四年度九千二百三十萬海關兩であつたが、昭和五年度に於ては九千七百〇七萬餘海關兩に增加して好調を呈してゐる。安東港は陸境1/3減稅特權日支關稅協定(昭和六年五月に成立す)に基き昭和六年九月十五日正午を期して遂に撤廢された。日本から奥地へ輸入品がこゝを經由する事多かりしが、特權の消失により少からぬ打擊をうけた。其後の日滿貿易につき善後策が講ぜられつゝある。

滿洲は日本と趣きを異にし海に臨めるものは僅かに南部だけで、かうした地理的に特惠のある南滿諸港は他地方に比して將來滿蒙の開拓、產業發達によつて益々その物資の呑吐港として大發展をなすに至るであらう。

北滿貿易　北滿に於ける輸出入貿易の徑路は鐵道、水路、陸路の三方面に亙つて主に哈爾賓、滿洲里、綏芬河等の諸港によつて行はる。北滿の輸出入品の主なるものは、輸出品としては大豆、豆粕、豆油、

綿布類、麥粉。輸移入品としては、綿織物、砂糖、石油、石灰及び石炭コークス、麻袋等である。その貿易總額一億三千七百餘萬海關兩である。

哈爾賓　その主要なる輸移出入品の昭和五、六年二年間の比較を表記すれば次の如くである。

哈爾賓稅關管內輸移出品數量及價額二年比較　價格單位（海關兩）

品名	單位	昭和四年 數量	昭和四年 價額	昭和五年 數量	昭和五年 價額
大豆	擔	八、〇二一、九九四	二四、九四九、〇六三	一〇、九五二、七九七	二九、六八二、三八二
豆粕	〃	四、七九一、四六一	一〇、七八〇、七七一	七、八九〇、九〇七	一六、五七〇、九〇四
豆油	〃	四二、七二八	四四三、五七〇	一五四、三四二	一、五五一、三七〇

哈爾賓稅關管內輸移入品數量及價額二年比較　價格單位（海關兩）

品名	單位	昭和四年 數量	昭和四年 價額	昭和五年 數量	昭和五年 價額
綿織物		—	一、七一八、一六二	—	一、六九三、九一〇
砂糖	擔	一五〇、一五九	一、四一一、〇一四	七九、一八二	六四五、七〇二
石油	米哦	一、一四九、四六二	四〇六、一〇一	二、六一七、四一二	九三五、二四四
石炭及コークス	英噸	一〇六、四三五	一、二〇四、四四二	三四四、一六九	四、一三八、九〇二
鐵及鋼	擔	四八九、六三四	二、七六九、一三九	一〇六、二九九	七七八、九六三
麻袋	枚	三、三八一、〇二〇	一、四七九、九五二	三、六〇八、二〇〇	一、五一一、二九四

綏芬河　中露領亞細亞への輸出は殆どこゝを經て浦鹽へ送られるのである。輸出の大部分を占めてゐる大豆と豆粕は主に日本へ供給される。

北滿貿易に於てロシヤシベリヤの物資の東洋進出の港として今後益〻有望に發展の餘地がある。

東滿貿易　間島地方の貿易をさすのであつて、主に龍井村琿春を通して行はれるのである。その總貿易額、龍井村、五、七一〇、五六五、海關兩（輸移入三、一八〇、五六六兩、輸移出二、五二九、九九九兩。琿春一、七五六、一六七海關兩（輸移入九八三、四三五兩、輸移出七七二、七三二兩）總計七、四六六、七三二海關兩である。前年度總計九、一〇七、六二一海關兩（輸移入四、九三一、六三一兩、輸移出四、一七五、九九〇兩）に比較すると減少してゐる。未だ該地方は未開拓の廣大なる耕作地を有するが故に今後年々多數の移民の努力によれる耕地面積の擴大によつては農產物の輸出を增し、又消費方面に於ての綿織物、其他諸雜貨の需要增加を來すであらうし、又該地方は戰亂の慘過をうける事なき故に將來益〻發展するであらう。

日滿貿易

最後に日滿貿易につき概述するに、對日輸出入の明細左表の如し。

品名	對日本輸出 金額	對日本輸出 割合
大豆	二三、六五二、二四〇（海關兩）	一五・四%

品名	對日本輸入 金額	對日本輸入 割合
綿織物	三〇、三六七、二九五（海關兩）	二六・一%

其他豆類	七、三四四、三三〇	四・八	棉花	四、四三七、五一〇	三・八
粟	二三、九三九、七五九	一五・六	砂糖	六、〇三八、六〇七	五・二
豆粕	三一、七〇三、八九九	二一・三	鐵及び鋼	七、一六三、六九六	六・二
柞蠶絲	五、八〇〇、九三三	三・八	機械機具	五、七五四、四二一	四・九
石炭及コークス	一九、三七八、六一九	一二・六	電氣材料	三、四〇四、〇九六	二・九
鐵及び同製品	七、〇二一、〇三二	四・五	紙類	三、四七三、〇九四	三・〇
其他	三三、九一四、四九一	二三・〇	其他	五五、六三二、九六一	四九・九
合計	一五三、七四六、二六三	一〇〇・〇	合計	一一六、二九九、七三一	一〇〇・〇

由來、日滿貿易は、全く南滿に於てのみ、壓倒的勢力を占め、又主として、原料品の供給者として、及び紡織品、雜貨類の購買者としてのみ重要な彼割を演じて來たものである。

だが、今後は、不當課稅の撤廢其他に新政府の施設改善の期待すべきものがあり、從來、日本品の蒙つた排日的壓迫が除去されるであらうから、日滿貿易關係の大々的、北進運動が促進せらるべきであり、現に、昭和七年度は、一月中頃より對滿輸出激增の傾向を示し、神戸、大阪、門司より、大連向の出貨は一月中二萬五千噸に達し、前年十二、十一月に倍加するの勢を示して居るのである。

倉庫業

倉庫、保險、運輸業

倉庫　歐洲戰後の好況時に濫設を見た滿洲の倉庫業は、戰後のバニックと共に大半沒落し、今日にては獨り、滿鐵倉庫のみ榮えて、他は概ね氣息奄々たる有樣である。殊に近年支那鐵道は銀

日本側の倉庫業
支那側の倉庫業
保險
日本側の保險
支那側の保險
運輸業

建制を利用して、貨物の蒐集を計つて居る爲め、一段と日本側倉庫業の不振を來したことは爭はれぬ事實である。

日本側主要倉庫業者につきては、別項邦人會社名一覽にて見られ度く、主要寄託貨物は、大豆を筆頭に、豆粕、高粱、包米、小豆等之れに次ぎ、鐵材、麥粉、セメント、石油等である。

支那側の倉庫は、未だ、我が倉庫業に匹敵すべき程度の發達を見るに至らず、在來の棧房（行棧）より現在の堆棧に至る迄業務の內容には、一定の規範無く、關棧と稱する稅關の施設に係るもの以外には見るべきものがない。

保險　歐洲戰後、內國保險會社の滿蒙進出著しく、從來、滿洲特產物の積出し、其他に根强い地盤を持つて居た外國保險會社の勢力を驅逐してしまつた。尙滿洲保險界の雄、大連火災海上保險は、東京海上、大正海上及び滿鐵の共同出資になるもので、資本金二百萬圓、大正十一年の創立である。

支那側の保險——支那人の保險に對する觀念の幼稚なることは驚くばかりであるが、只、損害保險につきては、近來、頓に進境を見せ、官民一致して、斯業の發展を企圖して居る。

運輸　海運に、河水運に、鐵道に、滿鐵を筆頭とし、大小無數の運輸業者が、滿蒙の地に活躍して居り、今後、邦人移民の增加、滿蒙開發の進展に伴ひ、斯業一段の活躍を期待される。運輸業者名は別項記載の如くである。

商業機關

商工會議所

邦人側――昭和六年八月現在、邦人商工及商業會議所を擧げれば、大連、奉天、安東、營口、新京(長春)、ハルピン、鐵嶺の各商業若くは商工會議所、鞍山實業協會、遼陽實業會、撫順實業協會　開原實業會、四平街市民協會、公主嶺商工會、撫順商工會、本溪湖實業會、吉林商工會等である。各會議所の會員數其他明細別表の如くである。

外人側――大連、營口に英國商業會議所、ハルピンに佛、獨、米、英及び露、五國商業會議所あり、最近米國は奉天に於て、國際商業會議所の設立を計畫し勸說し居る。

組合

滿洲に於ける組合事業、最近の發展は見逃すべからざるものであり、組合數、組合人員、所在地等を表示すれば別表の如くである。

市場

在滿各地の市場は、昭和五年末に於て市場數二十九、出店數六百四、賣上金額一千二百萬圓に達する。關東州內に於ける市場は總計二十、悉く官公設の小賣市場であつて、大連市設市場最も盛大である。其明細別表の如くである。

滿洲日本人商工會議所

日本人の同業組合

滿洲日本人商工會議所一覽表　（昭和六年九月現在）

名稱	設立年月	會頭名	書記長	會員數	昭和六年度豫算
大連商工會議所	大、四、七	村井啓太郎	篠崎嘉郎	二〇五	六四、三八〇円
奉天商工會議所	明、四〇、一	藤田九一郎	野添孝生	二〇〇	四〇、四五〇
安東商工會議所	同、四二、七	荒川六平	新田忠平	一七五	二三、六二四
新京商工會議所(長春)	大、九、六	山中繁雄	大垣鶴藏	八〇	一六、〇〇〇
營口商工會議所	同、九、四	加賀種二	日下清癡	七一	一五、七〇〇
ハルピン日本商工會議所	同、二、一〇	加藤明	山田小一	一三三	三八、三三〇
鐵嶺商工會議所	同、三、四	紀藤義也	松崎義造	一〇〇	八、〇〇〇

商工會議所內容　（昭和五年中）

名稱	常議員	特別議員	役員	會議度數	議事件數	經費
大連商工會議所	四九	三	三	五五	一三四	六七、二八八円
營口商工會議所	八	二	一〇	一六	八二	一三、三四四
奉天商工會議所	三〇	一四	五	五八	一七〇	四四、五七七
安東商工會議所	三〇	七	二	二八	六〇	二三、六二四
鐵嶺商工會議所	一六	四	八	一〇	三〇	八、二〇〇
新京商工會議所(長春)	五	三	三	三	八八	二二、一九二
總計	二八	三二	三二	一八〇	五六四	一六九、三三五

同業組合

地方	組合数	組合人数 日本人	支那人	外國人	合計	經費
關東州	日)					
旅順	二九	三、一四三	—	三、一四二	一四、八九八 円
大連	二七	七、七八二	二〇、五三七	一四	二八、三三三	六〇七、八五八
金州	四	三一	六、〇八一	—	六、一〇三	二一、〇〇七
普蘭店	二	一九六	五〇、四九三	—	五〇、六九三	三七、一七八
貔子窩	一	—	三五)	—	三五〇	三九九
計	一七三	八、二七四	八〇、六〇七	一四	八八、八九五	六七二、二四〇
鐵道附屬地						
瓦房店	二	三六	三	—	五八	一四、三〇〇
大石橋	一	五	—	—	五	三五八
營口	五	三七	一六八	—	二〇五	三三、三一六
鞍山	三	一三六	一五一	—	二八七	四、五二五
遼陽	五	四〇	七	—	四九	一、四四六
奉天	二六	六六〇	三〇〇	—	九六〇	五七、六〇三
本溪湖	五	三七	—	—	三七	—
安東	三	六六五	二、一〇三	—	二、七六八	四八、八七
撫順	一三	三六	三〇〇	—	五六六	七、六七八
鐵嶺	二	二	六〇	—	八〇	七四八

滿洲各地の市場（昭和五年末現在）

地方	市場數	出店數	賣揚金額	一店平均賣揚金額
關東州				
旅順	五	二五	七一、四七六	二、八四五九
大連	七	三八	八、五八二、四六六	二六、九九
金州	一	一六	一七九、五二七	一一、二二〇
普蘭店	一	二七	三九、四三三	一、四六〇
貔子窩	三	三三	三一、六八	一〇、〇五一
計	一七	一四八	九、八三四、五二〇	三三、五八
鐵道附屬地				
營口	一	九	九二、二五〇	一〇、二四八
鞍山	二	—	三六、七四六	—
奉天	一	四)	五三〇、九〇〇	三三、二五三
安東	三	四四七、五〇〇	三三、九八四	
撫順	一	二八	四二〇、三二五	一四、六五四
長春	一	二七	四六、九一九	二六、八二
開原	三	五)	七九、六四九	一、五九三
計	一三	二八六	二、〇三四、二五九	一〇、九三七

取引所

日本側　官營（くわんえい）、民營の二つに分れ、前者は大連、開原、新京（長春）、四平街、公主嶺、奉天の

六個所に、後者は大連及び安東の二個所にある。取引物件は官營にあつては大豆、豆粕、豆油、高粱、其他金票、鈔票であり、民營中、大連株式商品取引所は、有價證券、綿絲布、麻袋、麥粉、砂糖等で、安東取引所は、有價證券及び鎭平銀並に豆粕、大豆、粟等である。

支那側　瀋海交易所（奉天）は遂に去る昭和五年末閉鎖の止むなきに至り、其他、通遼糧食交易所、山城鎭糧石交易所等あるも、微々として振はず。

支那人取引所

第三　滿蒙投資要覽

(一)　滿蒙及び中國に於ける邦人の投資企業

（拓務省調査昭和七年三月現在）

地域別及び事業形式別投資額

地域別	法人		個人		計	
	社數	公稱資本金	店數	資本金	營業者數	資本金
		円		円		円
滿蒙	一五七	一四五、六九五、七〇〇	一、三三三	四〇、八〇三、〇〇〇	一八六、四九九、七〇〇	
北支	六一	四二、三五九、五〇〇	四三六	一四、五五八、七〇〇	五六、〇八八、二〇〇	
南中支	三四	八八、六三五、六〇〇	六〇五	三三、三七六、八〇〇	一二一、〇〇一、四〇〇	
計	二五二	二七五、八五〇、八〇〇	二、三六三	七七、七六八、五〇〇	三五三、五八九、三〇〇	

業態別投資額

業態別	法人		個人		計	
	社數	公稱資本金	店數	資本金	營業者數	資本金
		円		円		円
運輸及倉庫業	三三	四、七六〇、〇〇〇	六一	一、五三四、八〇〇	七四	六、二九四、八〇〇
金融及信託業	三一	三三、二四九、四〇〇	九	四四四、〇〇〇	四〇	三三、六五三、四〇〇
輸出入其他一般商業	一〇六	二九、〇三三、四〇〇	二、〇三一	六一、七〇一、二〇〇	二、一三七	九〇、七五四、六〇〇
纖維工業	一七	八六、六五〇、〇〇〇	七	二〇四、〇〇〇	二四	八六、八五四、〇〇〇
土木及建築業	七	三、八六〇、〇〇〇	九七	四、四七〇、五〇〇	一〇四	八、三三〇、五〇〇
電氣及瓦斯業	七	六、一五二、〇〇〇	六	三五三、〇〇〇	一三	六、五二八、〇〇〇
其他一般業	四八	五一、八五〇、五〇〇	九六	五、〇六六、八〇〇	一四六	五六、九一七、三〇〇
鑛業	一四	一、三九五、七〇〇	一四	一、三九五、七〇〇	一八	二五、九三三、二〇〇
水產業	四	五六五、〇〇〇	四	五六五、〇〇〇	四	五六五、〇〇〇
林業	一五	二四、七二五、〇〇〇	八	七二六、〇〇〇	二三	二五、四五一、〇〇〇
農牧業	四	二一、〇〇〇、〇〇〇	一八	一、三〇七、五〇〇	二三	二二、三〇七、五〇〇
計	二五二	二七五、八五〇、八〇〇	二、三六三	七七、七六八、五〇〇	三五三	三五三、五八九、三〇〇

(二)　滿蒙に於ける本邦の投資狀況

（拓務省調査昭和七年三月現在）

投資形式別投資額

形式別	金額
借款による投資額	一七一、六九一、一九六圓
法人による企業投資に依る投資額	九二、七三七、七八八
日本商法準據會社（滿蒙本據會社）	一八七、三三三、六五五
非日本商法準據會社（滿蒙外本據會社）	三六、三一〇、四七六
小計	一、二三五、三五一、九二九
個人企業に依る投資額	九四、九九一、三六〇
總計	一、四〇二、〇三四、六八五

備考　本表には關東州に於ける投資額を含む。以下同じ

事業別投資額

投下方面別	金額	割合
一、運輸業	七八二、九八四、一七三圓	五六
二、農鑛林業	二一七、三五六、一〇三	一六
三、電氣瓦斯業	三七、二八二、三五一六	三
四、工業	一〇五、六一〇、六〇三	七
五、金融信託業	九七、六三四、二一〇	七
六、商業	二七、三五二、六八七	二
七、銀行業	一〇六、七〇四、六一六	八
八、其他	三七、四八七、四七五	三
總額	一、四〇二、〇三四、六八五	一〇〇

投資者別投資額

投資者別	貸付金	其他	内譯別金額	割合
日本政府借款（元利）	九七、七四三、八二三			七
民間借款（元利）	一八、三三九、一二六			一
法人企業		四三九、四八九、三三三		三一
個人企業		九四、九九一、三六〇		七
總計		一、四〇二、〇三四、六八五		一〇〇

註　滿鐵欄中の括弧内は社外投資中滿蒙外に行きたるものを含む
又其他中には借款延滯利子二、六八一、五〇四圓を含む

投資者別　滿鐵　（政府所有株）　六六、六九四、〇三一圓　割合　五四

内譯別金額　七五二、三五〇、八六二圓　二一七、三五六、〇〇〇

事業費　九九二、九二三、七九九
内譯　鐵道　三三五、〇三九、三六九
港灣　四八、七八三、二三三
鑛山　二九、二七一、一五五
製鐵　四五、九〇三、二八六
畜生　一六、二四七、八四〇
教育　一四、〇二七、七二三
其他　一二三、七六六、二〇四
有價證券　五二、一三八、四〇三
（五二、六九六、八〇八）

(三)　滿蒙に於ける邦人經營及び日滿合辦事業一覽

會社名	所在地	資本金	備考
滿洲製麻株式會社	大連	一、〇〇〇千圓	
大連機械製作所株式會社	同	一、〇〇〇	

大連製油株式會社	同	三、〇〇〇	
滿洲精酒株式會社	同	一、〇〇〇	
滿洲石鹼株式會社	同	一、〇〇〇	
中日粉干公司	同	二、〇〇〇	
大和染料株式會社	同	二、〇〇〇	
大連醬油株式會社	同	一、〇〇〇	
東亞板金工業株式會社	同	一、〇〇〇	
第二滿洲肥料株式會社	同	一、五〇〇	
日華油坊株式會社	同	一、〇〇〇	日滿合辦
滿蒙殖產株式會社	同	一、〇〇〇	同
遼東製氷株式會社	同	一、〇〇〇	同
大連製氷株式會社	同	一、〇〇〇	日滿合辦
大連製糧株式會社	同	一、五〇〇	同
滿蒙冷藏株式會社	同	一、〇〇〇	同
滿洲船渠株式會社	同	三、四〇〇	滿鐵傍系
滿洲福紡株式會社	同	一、〇〇〇	同
南滿洲ガス株式會社	同	三、〇〇〇	同
大連窯業株式會社	同	一〇、〇〇〇	滿鐵傍系
南滿洲電氣株式會社	同	一二五、〇〇〇	同

滿洲棉花株式會社	同	一、〇〇〇	
滿洲ビール株式會社	同	一、〇〇〇	
滿蒙棉花紡績株式會社	遼陽	一、〇〇〇	
滿洲紡績株式會社	同	五、〇〇〇	
滿蒙殖產株式會社	奉天	一、〇〇〇	
奉天窯業株式會社	同	三、〇〇〇	
滿蒙毛織株式會社	同	三、〇〇〇	日滿合辦
奉天製麻株式會社	同	一、五〇〇	同
奉天醬油株式會社	同	一、〇〇〇	同
南滿洲製糖株式會社	同	一〇、〇〇〇	日滿合辦
本溪湖煤鐵有限公司	本溪湖	七、〇〇〇	
撫順窯業株式會社	撫順	一、〇〇〇	
滿洲製粉株式會社	鐵嶺	五、五〇〇	日滿合辦
大矢組株式會社	同	一、〇〇〇	同
亞細亞製粉株式會社	開原	一、〇〇〇	日滿合辦
滿洲製油株式會社	長春	一、〇〇〇	同
裕昌源製粉股份有限公司	同	一、六五〇	同
益發合大磨工場株式會社	安東	五、〇〇〇	同
滿朝製函木材株式會社	同	一、〇〇〇	同

商事及貿易會社

大信洋行株式會社	大連	一、〇〇〇		
渡邊商事株式會社	同	一、〇〇〇		
中央商事株式會社	同	一、〇〇〇		
日華特産株式會社	同	一、〇〇〇	日滿合辦	
滿洲特産株式會社	同	一、〇〇〇		
滿洲貿易株式會社	同	一、〇〇〇		
宏治商會合名會社	同	二、〇〇〇		
大日本興農株式會社	同	二、〇〇〇		
滿洲水産株式會社	同	一、〇〇〇		
進和商會株式會社	同	一、〇〇〇		
日華興業株式會社	同	二、〇〇〇	日滿合辦	
大連火災海上保險株式會社	同	二、〇〇〇	同	
秋田商會木材株式會社	奉天	三、〇〇〇		
梅三商會株式會社	同	一、〇〇〇		
滿洲證券株式會社	同	五、〇〇〇		
鴨綠江採木公司	安東	三、〇〇〇	日滿合辦	
朝鮮杭木株式會社	同	一、五〇〇	滿鐵傍系	

運輸及倉庫會社

安東挽材株式會社	同	一、〇〇〇		
石崎商店株式會社	同	二、〇〇〇		
滿洲商工株式會社	同	一、〇〇〇		
運輸及び倉庫				
南滿洲鐵道株式會社	大連	四〇、〇〇〇		
南滿洲物産株式會社	同	一、〇〇〇	滿鐵傍系	
大連汽船株式會社	同	二五、〇〇〇	日滿合辦	
南滿洲倉庫建物株式會社	同	五、〇〇〇		
滿洲自働車株式會社	同	一、〇〇〇		
金福鐵路公司	同	四、〇〇〇	日滿合辦	
國際運輸株式會社	同	一〇、〇〇〇	滿鐵傍系	
南滿洲倉庫株式會社	奉天	一、〇〇〇		
銀行				
正隆銀行株式會社	大連	三、〇〇〇	日滿合辦	
滿洲銀行株式會社	同	一〇、〇〇〇	同	
大連商業銀行株式會社	同	二、〇〇〇		
振興銀行株式會社	營口	五二、五〇〇	日滿合辦	
日華銀行株式會社	鐵嶺	五、〇〇〇	同	

銀行一覽

開原銀行株式會社
長春銀行株式會社
協成銀行株式會社

取引所及び信託金融

大連取引所信託株式會社	大連	一五、〇〇〇	日滿合辦	
大連取引所錢鈔信託株式會社	同	五、〇〇〇	同	
大連株式商品取引所株式會社	同	一〇、〇〇〇	同	
大連商品信託株式會社	同	一〇、〇〇〇	同	
滿洲貯金信託株式會社	同	二、〇〇〇	同	
大連株式信託株式會社	同	一〇、〇〇〇	同	
滿洲證券信託株式會社	同	一〇、〇〇〇	同	
大連信託株式會社	同	一、〇〇〇	同	
共濟信託株式會社	同	一、〇〇〇	同	
日華證券信託株式會社	同	五、〇〇〇	日滿合辦	
大信商事株式會社	同	一、〇〇〇	同	
滿洲不動產信託株式會社	同	二、〇〇〇	同	
東洋商事株式會社	同	二、〇〇〇	同	
宏濟證券株式會社	同	三、〇〇〇	日滿合辦	
開原	同	一、〇〇〇	同	
長春	同	一、〇〇〇	同	
安東	日滿合辦	一、〇〇〇	同	

滿洲起業株式會社
大正興業株式會社
滿洲不動產貯金株式會社
鞍山財事株式會社
南滿銀行株式會社
東省實業株式會社
滿洲取引所株式會社
東亞拓植株式會社
鐵嶺證券信託株式會社
開原取引所信託株式會社
開原商品證券信託株式會社
商品證券信託株式會社
開原交易信託株式會社
長春取引所信託株式會社
安東株式商品取引所株式會社
安東商事金融株式會社

同	鐵嶺	一、〇〇〇	同	
同	同	一、〇〇〇	同	
同	鞍山	一、〇〇〇	同	
同	同	一五、〇〇〇	同	
同	奉天	三、〇〇〇	日滿合辦	
同	同	二、一〇〇	同	
同	同	一〇、〇〇〇	同	
同	鐵嶺	二、〇〇〇	同	
同	開原	二、〇〇〇	日滿合辦	
同	同	一、五〇〇	同	
同	同	一、五〇〇	同	
同	同	一、五〇〇	同	
同	長春	一、〇〇〇	日滿合辦	
同	安東	二、五〇〇	同	
同	同	一、〇〇〇	同	

土地建物會社

周水子土地建物株式會社	大連	二、〇〇〇	日滿合辦	

雜種會社

星ケ浦土地建物株式會社	同	奉天	一、〇〇〇	
南滿洲建物株式會社	同	同	一、〇〇〇	日滿合辦
大正コンクリート株式會社	同	同	一、〇〇〇	
滿蒙土地建物株式會社	同	同	一、〇〇〇	
東亞土木企業株式會社	同	同	五、〇〇〇	日滿合辦
大連郊外土地株式會社	同	同	七、〇〇〇	
滿洲土地建物株式會社	同	奉天	一、〇〇〇	

雜種會社

滿洲畜產改良株式會社	大連		一、一〇〇	
溜前棉花株式會社	同		一、〇〇〇	
福昌華工株式會社	同		一、八〇〇	滿鐵傍系
南滿洲旅館株式會社	同		八、〇〇〇	同
鞍山振興無限公司	鞍山		四、一四五	
滿洲興業株式會社	營口		一、〇〇〇	
營口水道電氣株式會社	同		二、〇〇〇	日滿合辦
小寺油坊株式會社	同		一、〇〇〇	
滿洲物產株式會社	同		一、〇〇〇	日滿合辦
營口興業株式會社	同		一、〇〇〇	

東亞勸業株式會社	奉天	二〇、〇〇〇	滿鐵傍系	
共濟公司	同	一、〇〇〇		
滿洲鑛山窯株式會社	安東	一、〇〇〇		
大連農事株式會社	大連	一〇、〇〇〇	滿鐵傍系	

（備考、以上は公稱資本百萬圓以上のものゝみである。尙公司とあるは會社の意味である。）

著名商店

次に滿蒙各主要都市に於ける著名商店を記し、移住者の參考に供しよう。

大連

泉商店（建築材料商）、石井金物店（金物機械）、石田洋行（金物機械）、畑中商店（金物機械）、服部商店（皮革商）、石田商會（釀造業）、濱恒商店（材木店）、馬場商會（ゴム靴足袋）、西川商店（鐵材機械）、堀井商店（皮革）、深祥公司（各種機械）、平和堂（金物機械）、鳥羽洋行（金物機械）、東亞土木企業株式會社（土木建築）、德和公司（建築材料）、千村商店（金物機械）、渡部商會（建築材料）、加藤金物店（金物機械）、河島ミシン商會（金物機械）、嘉納支店（釀造業）、樫村洋行（貿易商）、春日商店、大華窯業公司（窯業）、高橋商會（金物機械）、大陸窯業會社（棟瓦洋灰商）、大松商行（貿易商）、大信洋行（金物機械商）、大正洋行（建築材料）、高田組（石材綿布商）、高岡工務所（土木建築）、多田工務所（土木建築石材）、辰巳銀工商店（建築材料）、田村商會

（自動車）、多久島商店（貿易商）、立山商店（綿商）、田場商店（自轉車）、月星合資會社（釀造）、辻山洋行（貿易商）、內藤商會（金物機械）、內藤商店（自轉車）、中村鐵工所（諸機械）、中村商會（諸機械）、瓜谷商店（滿洲物產）、海野商店（金物機械）、岡組（請負業）、大塚靴店（靴）、熊井洋行（皮革商）、矢野元商店（建材）、丸二商店（海運業）、丸山洋行（建築材料）、松家商店（金物機械）、前田洋行（工業用品）、前澤商店（金物機械）、萬宗双物店（金物）、增井洋行（船具）、深尾商店（硝子商）、不破洋行（綿製品）、福井組（礦物類）、福田商店（金物機械）、藤川商店（塗料其他）、藤田洋行（耐火煉土）、福盛號（紙インキ類）、小畑秀一商店（皮革商）、古賀菊商店（皮革商）、光來洋行（建築材料）、鴻恩洋行（諸機械）、Aタクシー（運輸）、阿波國共同汽船大連支店、佐々木商店（ペーチカ）、三新洋行（綿商）、喜和洋行（金物機械）、北川電氣工務所、近商組（諸機械）、水上洋行（金物機械）、水上洋行（酒類食料品）、宮下木廠（建築材料）、宮本材木店（建築材料）、島田自轉車店、砂河口實業倉庫、島松商店（建築用具）、靖和商會（海運業）、新隆洋行（貿易商）、進和商會（金物機械）、廣尾洋行（貿易商）、盛進商行（貿易商）。

旅　順

華信洋行、湧波電機商會（金物機械）、田村商會支店（自轉車）、山崎土器製造所、阪本洋行（皮革）
佐野商會（自轉車）

大石橋

伊藤洋行（貿易）、岩崎商店（貿易）、蘆津公司（貿易）、豐順洋行（貿易）、星元太男（貿易）、高田洋行（金物商）、藤井正一（綿絲雜貨）、白川洋行（建築材料）

營　口

日清公司（貿易）、平安公司（貿易）、東和公司（貿易）、泰成公司（貿易）、永井商會（自轉車）、中村商店（貿易）、大瀨洋行（金物機械）、山住洋行（金物機械）、牧原洋行（煙草、砂糖）、後藤組（建築材料）、榮昌洋行（貿易）、秋山商會（貿易）、酒井商店（貿易）、平岡組（建築材料）、久間商店（火藥陶器）、森田商店（貿易）、盛和公司（金物機械）

鞍　山

加藤商會（建築材料）、加藤商店（貿易）、神田商會（建築材料）、大福商店（味噌醬油）、田村商店（建築材料）、瀧口洋行（貿易）、雙輪商會（自轉車）、永井商會、野村商會（建築材料）、野毛商會（建築材料）、大瀨洋行（硝子鉄力）、山一酒店（酒）、丸菱商會（養蜂器具米穀）、福井洋行（金物）、藤井大達磨商會（酒類）、相谷商店（電氣器具）、木和田洋行（諸鑵詰）、共立公司（貿易）、正和洋行（貿易）

瓦　房　店

瓦房店電燈株式會社（電氣供給並に附帶事業）

遼　陽

磯崎商店（綿商）、日支合辨遼陽電燈公司、北海屋（電氣器具）、川又商店（建築材料）、大松號（清酒）、高橋靴鞄店（皮革）、瀧下一（輿茂海燒酒）、前田商店（建築材料）、野並一水（輿茂海燒酒）、小林留吉（ペーチカ）、岸野靴店（皮革）、宮武商店（建築材料）

奉　天

井上商店（靴）、今井煖房商會（金物）、濱本商店（靴下）、西尾洋行（貿易）、泰天和登洋行（電氣器具）、奉天酸素製造公司（酸素）、豐記洋行、東省綿業公司（製綿）、德成號（ゴム製品）、河村工務所（金物機械）、吉川組（土木建築）、華東洋行（貿易）、門永洋行（電氣器具）、柏內洋行（貿易）、大松號支店（酒釀造）、大信洋行（貿易）、煙草製造第一公司、多田商店（皮革）、蔦井組出張所（建築材料）、中村陶器店本店（陶器）、寶信洋行（電氣器具）、岡田洋行（貿易）、久保洋行（貿易）、松永兄弟商會（自轉車）、滿洲土木建築業協會奉天支部、滿洲電氣商會（電氣）、滿洲公益社（貿易）、毛原洋行（貿易）、源隆洋行（電氣器具）、小村洋行（柳行李）、小寺洋行（貿易）、近藤商會（金物機械）、寺庄洋行（貿易）、淺野窯業部（煉瓦製造販賣）、櫻屋商行（酒類）、三友公司鐵工廠（金物機械）、三昌洋行（建築材料）、喜曾ゴム店（ゴム製品）、三浦商會（建築材料）、白石知隆（鐵工業）、昌和洋行（貿易）、茂林商會（陶磁器）、扇利洋行（貿易）

本　溪　湖

金由太郎（建築材料）、田中熊藏（魚菜、石炭）、田中資三郎（杭木）、莊司力也（杭木、石炭）、溪城鐵路公司（鐵道運輸）、富豐公司（貿易）、福間德雄（建築材料）、小原商店（皮革）、永隆號精米所、北川浩（煉炭製造）、溝上工務所（建築材料）、宮崎酒造場、宮崎精米所、森雄二（建築材料）

撫　順

飯田工業所（建築材料）、伊藤號（貿易）、威司東洋行（貿易）、大松號（製造販賣）、田中金物店（金物機械）、夏目疊店（建築材料）、村松組（建築材料）、山口タクシー（自動車運輸）、山下洋行（貿易）、松井號（陶磁器）、松田商店（陶磁器）、松尾工務所（建築材料）、益田醬園（製造販賣）、撫順製材公司（建築材料）、後藤工務所（建築材料）、昭興號（貿易）、森本商店（陶磁器）

安　東

飯島商行（麻袋叭）、井原商店（金物機械）、岩本製靴店（皮革）、原田市松商店（金庫）、日華製油公司（麻袋、蕎麥、石鹼原料）、東興電料公司（電氣器具）、川邊自轉車店（自轉車）、河野商店（金物機械）、かぎや硝子店（硝子）、吉岡商店（支那向諸雜貨）、達磨商會自轉車商（自轉車）、辰巳屋硝子店（硝子）、高野洋行（機械、セメント）、高柳商店（金物機械）、長沼電氣商會（電氣器具）、材木洋行（建

築材料)、浦川鐵工所(金物機械)、越澤硝子店(硝子)、藤平兄弟商店(雜貨)、福原茂平商店(ゴム製品)、三省洋行(建築材料)、北田榮太郎商店(建築材料)、宮崎鐵工所(金物機械)、元野商店(ゴム靴、木炭叭、麻袋)、須田商會(煖房衞生器具)

鐵嶺

石松商店(金物機械)、石田商店(金物機械)、橋本洋行(貿易)、怡泰號(貿易)、竹井洋行(貿易)、大成號(貿易)、田中組(建築材料)、田中裕成號(硝子)、鐵嶺電燈局(電氣事業)、中村商店(酒類)永村靴店(皮革)、上野榮五郎(建築請負)、丸多洋行(陶磁器)、松岡洋行(綿糸布)、三盛商會(貿易)、湊商店(陶磁器)、志村洋行(建築材料)、成清商行(自轉車)

開原

大正堂商店(建築材料)、大眞自轉車商會、大重洋行(セメント麻袋)、大下洋行(セメント麻袋)、安坂商店(建築材料)、荒木商店(建築材料)

四平街

伊藤新八商店(綿糸布)、池田醬園(製造業)、石井商店(綿糸布、麻袋)、林洋行(硝子、ペイント)橋本洋行(金物)、東信洋行(建築材料)、渡邊商店(硝子、ペンキ)、泰興洋行(綿糸布、麻袋)、谷口洋行(電氣器具)、小林商會(自轉車)、後藤醬園、青木商店(陶器)、佐藤德四郎(綿糸布、麻袋)、共和洋行、昭和洋行(電氣機具)、昌圖公司(建築材料)、昌圖公司貿易部、松昌公司(建築材料)、信和洋行(建築材料)、日高與平商店(綿糸布)、森山榮一商店(綿糸布、麻袋)

長春

石崎洋行(各種穀類)、西脇洋行(建築材料)、寶山マッチ工場(マッチ原料)、龜岡硝子店(硝子、鐵板、塗料)、和昌號(銑鐵、コークス)、大本商行(自轉車)、泰利號(鐵材、油類)、大信組(硝子、鐵板、塗料)、田中電氣商會(電氣器具)、岡本鉱力店(鐵板、塗料)、天野商店(硝子、鐵板)、松木商店(建築材料)、船越商會(建築材料)、風柳煖房(鐵材、煖房)、小松製作所(建築材料)、吉備洋行(建築材料)、科野洋行(建築材料)

吉林

上田藏雄(地下足袋)、大久保洋行(自動車、電氣器具)、增島洋行(自轉車、電氣機具)、富吉號(貿易)、裕泰號(貿易)、裕泰號第三部(貿易)

哈爾賓

岩田商店(陶器)、哈爾賓和登商行(電話、電氣具)、荻原紙店(洋紙)、馬場商店(ミシン)、日光洋行(輸入商)、西原洋行(綿糸布)、日盛洋行(陶器)、中和洋行(銃砲、火藥)、川路洋行(絹織物)、加藤明商店(輸入商)、加藤醬油釀造公司、横田三磨(綿糸布)、大信號(輸入商)、高岡號(輸入商)、辰

巳洋行（輸入商）、田中洋行（輸入商）、南海洋行（生果、陶器）、岡田商店（寫眞機材料）、大島洋行（電話、電氣器具）、久保田商會（機械、精米）、矢田洋行（棉花）、松浦洋行（絹織物）、松島商店（硝子、陶器）、藤井洋行（輸入商）、光武商店（輸入商）、益昌盛（輸入商）、三省洋行（機械、器具）、近澤洋行（洋紙）、寧古塔高岡號（輸入商）、昭和祥（輸入商）

公主嶺

福富洋行（建築、棉花）、淺野釀造場（清酒、醬油）

（四）列強の滿蒙投資

列強の滿蒙投資

東洋の富源として王座を占むる滿蒙は、既に一九一一年（西紀）前より帝政ロシヤの東方政策に依る資源開拓が企圖されて以來、世界列強の經濟的關心を惹起し、種々の手段方法によつてその自國資本の投資が試みられ、今や其競爭の激烈の結果、列強はその既投下資本並に將來の投資の安全なる保證と好果とを獲得する爲めに軍事的行動にまで及ばんとする狀況にある。

日本の投資

而して日本も亦、日淸戰役以來日露戰役を經て、絶大なる經濟的關係をもつに至り、又資源開發に當り、資本投下を爲して居る。

今列強の投資の事情を述べる前に、日本投資の實狀を簡單に述べることゝする。日本の投資は明治三十七八年戰役後に始まり、主として南滿洲鐵道株式會社卽ち日本帝國の准植民地に於ける特殊會社に依りてなされ、その他大倉以外の投資があり全額約三十億圓若しくは二十五億圓と推定されて居る。勿論正確なる統計上に表れて居る資本は、滿鐵が四億圓以上に達し、其他合計にて十五億圓以上に上り、列強全投資の七割三分餘である。

是等投資の細かなる內譯及び事情は別項に於て記するを以て省略する。

次に列強殊にロシヤ、英國、瑞典、米國、和蘭等の投資につきて漸次詳細に記述する。

ロシヤの投資

ロシヤの投資高と事業別

滿蒙投資の、その活躍の歷史的關係よりしても、且つ地理的關係よりしても、最も密接なる關係を有して居る。殊に東方政策に當つて、國境より南下を企てたるも、その南下が日露戰爭に依り阻止されて以來、主として黑龍江に接近せる北滿の地に投資され、日本が南滿の地に投資せる點と對比して興味あるものである。左にその數字的實情を示さう。

事業種類別	投資額（單位千円）
東支鐵道關係	四五、〇〇〇
商工、農、林業	五〇、〇〇〇
露人の不動產	七五、〇〇〇
計	五七五、〇〇〇

東支鐵道に對してはその事業が露支合辦の關係上兩國に分擔され居り、露國政府は六億七千三百萬留、支那國は五百萬兩になつてゐる。從つて東支鐵道權利については支那國の權利が殆ど認められて居らず、露國側の專横的經營を見るに至つて居るのである。斯る結果、經營の實際に當るものは露國人のみに依りて占められ、支那側が東支鐵道利權回收運動を起す動機となつて居る。後一九二八年六月の東支鐵道の武力回收以來その弊は阻止され、經營の任に當る兩國人も對等の權利を獲得するに至つた。工業方面に對する投資は製粉及び石鹸製造に主力を注がれて居る。滿洲事變到來に依つて休業を持續し、目下は製粉工業迄も露支紛爭の結果その好果を擧ぐることを得ず、寧ろ滿洲に於ける露國の工業は衰滅の過程を辿つてゐる、斯る點に對しては刻下の日本滿蒙投資を企つる日本資本家側の垂涎して止まざる好餌と稱し得べきではなからうか。

英國の投資

英國

滿蒙投資中の列强中の第二位を占むるものは英國であり、投資總額中の主なるものは北寧鐵道と煙草會社である。北寧線は英國中央公司に依る借款鐵道であり出資二百三十萬磅、支那側銀二百十萬兩である。更に滿鐵借款が三十五萬圓であり、その經營上の實際の權利は英國が掌握し居る點露國のそれと似て居る。從つて重要なる任務も亦英國人が擔當して居る。次に工業方面に對する英國の投資は英米合資を以てなされたる英米煙草公司であり投資額は八億圓を有する大會社である。

支那の東支鐵道回收運動

英米煙草公司

ハルピンに大屠殺場

場は滿洲に於て營口、奉天に二工場を設け、近年極度の減收を餘儀なくされ居りしも、昭和六年三月一日の分離經營以來、ロンドンの本店より別個の經營に移し、啓東煙草股份公司と名稱を改めハルピンのロバート、永泰和等も本店から一旦別れて代理となつた。ロバートのトラスト出資々本は全投資の三分の一を有し、年產額十億本に上つてゐる。

更にハルピンに大屠殺場を設立し且つ罐詰製造工場を起し、製品の英本國輸出を盛にしてゐる。其他にアジヤ石油會社も目覺しき活況を呈し、北寧鐵道の英支合辦より得たる利益を以て瓦斯鐵道を起し其投資五百萬元に及んで居る。此は要するに英國が滿蒙に對する經濟政策の進出の重大なる觀點よりする計畫の一部と見られ、先に日本の滿洲事變に當つて日英兩國の感情を害したる事も是等關係に依存するものである。

瑞典

瑞典の投資

瑞典國の滿蒙投資は、同國の世界的企業として有名なるマッチ製造工業に對するものであり、滿洲工業方面に於て當工業は極めて重大である。故に各國の工業企業家は、この將來を非常に重視してゐる。而して、瑞典國の三大會社は、マッチ專賣の新制度を確立し、それ以來、亂脈であつたマッチ業界の販賣戰線を全く統制してしまつた。

次に前記、北滿洲にある三社の投資額及び生產能力を比較すれば次の通りである。

會社名	資本	瑞典投資	生産能力
大連マッチ	四〇〇千円	九五㌫	三〇千箱
吉林マッチ	—	六	七
日清マッチ	—	二〇㌫	三六千箱

上記生産能力中の單位である一箱とは、小箱二千四百箱を含んでゐる。

アメリカの投資

米國は、日露戰爭後ハリマン計畫をなして、世界一周鐵道計畫を企てた事があつた。然るに、日本の反對に逢ひて失敗に歸した。其後數度に亙り、滿洲に對する資本投下を企てた。だが全體的に見て、大資本は投資不能となり、單に、ゼネラルモータース又はラヂオコーポレイションにのみ止まつた。其他、水道、電車、電燈等は、今後の滿洲國に取つては、最も發展性に富んでゐる。之に對して、米國資本家は絕大な望みを掛け、自國の獨占的利益獲得を期し、着々その投資の計畫を謀り、且つ機會を狙つてゐる。[1]從つて、列强の滿洲投資を喜ばず、投資的立場よりして、米國資本家は、排日的であり、排露的であり、排英的である。更に、支那人を暗に敎唆して、積極的排外投資を企てゝゐる。他にも外國事業を通して、間接に投資をなしてゐるものもある。一例を擧ぐれば、

オランダの投資

オランダの滿洲に對する投資は、米國資本を中心とする國際借款で充てられる點より見れば、單にオランダの投資と云ふは、適當でないかも知れない。だが、玆では前記の意味を含む投資である。

オランダの投資による葫蘆島築港

それは、オランダ築港である。六百五十萬弗の資本を投下してゐる。此の葫蘆島の築港が、近き將來に於て完成せる曉は、その港が不凍港たる性質上、大連港に對する一大恐怖たるは言ふまでもなく明かなることである。從つて、この築港の完成に依る、わが國投資の影響は、實に恐るべきものがある。

列强の滿蒙への投資額一覽

斯る、列强の滿洲投資を、統計を以つて表すならば次の如くである。

國名	投資額	百分比率	國名	投資額	百分比率
ロシヤ	四五、〇一五（單位千円）	三一、五三	スエーデン	八五〇（單位千円）	〇、〇四一
イギリス	三九、五〇〇	一、九一八	ノールウエ	一五七	〇、〇〇八
アメリカ	二六、四〇〇	一、二七九	日本	一、五〇〇、〇〇〇	七三、〇〇〇
フランス	二一、〇六六	一、〇三二		（昭和五年度滿鐵調査課の統計）	

更に外國投資について、昭和六年十二月現在の、ハルピン日本商工會議所の調査を示せば、次の如くである。

國名	投資額	國名	投資額
露國	五七、〇〇〇（單位千円）	英國	三、二五〇（單位千円）
佛國	三、〇〇〇	米國	一、五〇〇
		波蘭	一、〇〇〇（單位千円）
		獨逸	二、三〇〇

丁　抹　0,500　希　臘　0,200　和　蘭　0,050

次に滿洲に於ける投資外國銀行支店及び公稱資本は次の通りである。

滿蒙への投資せる外國銀行

銀行名	公稱資本	本店所在地	銀行名	公稱資本	本店所在地
露亞銀行	六五,000千留	パリー	麥加利銀行	三,000千法	ロンドン
極東銀行	五,000千弗	ハルピン	中華懋業銀行	一〇,000千法	北　平
滙豐銀行	五〇,000千弗	香　港	中法實行銀行	五〇,000千弗	パリー
花旗銀行	一一〇,000千弗	紐　育	佛亞銀行	二五,000千磅	パリー

注意　右表中花旗銀行は米國ファースト・ナショナルに合併せらる。

滿蒙への國際投資戰

以上論ずる如く、滿蒙に對する國際的投資戰が、既往以來長期に亙つて着々準備を進められ、露國はソヴエト・ロシヤの赤き假面を被つて、新なる資源獲得の腕を延ばし、英國は北寧鐵道に依つて、新國家の熱河省、興安省の資源を狙ひ、和蘭また、米國資本を仰いで、新國の南方に於ける富源の開發に寧日なき狀態である。更に米國は、最も陰險なる方法、術策を以て、新國家への投資をなし、やがて、滿洲國に於ける投下資本の王位を占めんとして、虎視眈々たるものがある。斯る滿洲國に對する、列强の積極的態度について、日本は如何なる態度に出づべきやは、目下の重大なる問題である。唯一の生命線たる滿洲國の資源に對し、確固たる調査をなし、確實なる資源の開發に專念すべきではあるまいか。

第四　小資本投資案內

(一)　小資本投資の一般心得

先づ言葉

學業を了へても就職の出來ないもの、現在內地で何かの商賣に從事して居ても成績の思はしくないもの、其日々々の生活に惱み拔いて居る人達が、滿蒙へ行つて、兎に角手輕に始められるといふことを主眼として、小商賣の選擇をし、其一々について必要な注意を出來るだけ精密に書いて見たいと思ふ。

言　語

何商賣を始めるにしても、先づ第一に必要な事は言語である。直接、滿蒙支人を顧客とする商賣ではないとしても、材料の買入、外出、用足し、其他萬般の生活凡てに亙り、言語に不自由では、到底商人たる資格はない。勿論、上手であり、自由であることを、渡航早々の人に望むのは無理かも知れないが、用事を足すに足りる程度の語學を修得するのは大した難事ではない。

滿蒙支人の凡てに通ずる言葉を、自由にするのは困難だから、先づ、渡航後の志望を確立して、然る後、自分の行先、關係言語の何なるかを調べ、必要の最少限度から始めて、先づ最短期間に、最重要の日用會話一通りを修むべきである。

支那語といつても、日本語に訛りがある様に、或はそれよりも甚しく、北方、中部、南支と、まるで同じ文字を使用しながら、まるで、外國語同様に相隔つた用語發音をして居るのだから、困難な言葉には相違ないが、一面何といつても、文字には親しみがあり、發音とても、吾々の知る音に似通つたもの、或はそれに結び付けて覺え易いものが非常に多く、案外、習得は樂な點もある。

通貨に關する知識

通貨に關する知識　日常必須の會話がどうやら一通り出來る様になつたら、次に必ず知らねばならぬことは、通貨のことである。之れは、日本の様な整つた國の整つた通貨ならば、問題にもならぬ程簡單な事なのであるが、滿蒙に於ては、之れは頗る厄介な事で、通貨の複雜には恐らく、渡航される諸君の凡てが驚かされると思ふ。

通貨に關する詳細に就ては、概觀中の同項目に就き、充分の研究を積まれたい。

稅制

稅制　會話と通貨に次いで、商賣上知つて置かねばならぬことは、稅制の問題である。稅制は新國家に於ても今後、種々、新規な法制が產れて來る事と思ふし、從來の稅制についての知識が大した役に立つ場合が少いかも知れないが、兎に角、稅制についての一通りの知識を持つて居ることは是非必要である。概觀中の同項目について研究されたい。

以上の外、細かい事を言ふならば、心得て置かねばならぬことは、全く數限りなくあると思ふが、多くは各商賣個々について述べた方がいゝと思ふから、手つ取り早く開店の心得の方へ取掛

らう。

(二)個人商店

小資本で出來る個人商店

內地の、而も永年住み馴れて、何所の角を曲れば何屋がある、何屋の親爺は何兵衞だと、隅から隅迄事情の分つて居る所でさへ、一軒の店を開くとなれば、容易ならぬ氣苦勞の要るものである。況んや知らぬ他國で、便りとする親戚や知友にも乏しく、言葉も不自由、事情も不通といふ處で、新しく店舖を構へるとなれば、氣苦勞の並大抵でないのは言はずもがな、成否の危險が頗る多いことを覺悟せねばならぬ。故に、場所の選擇、店の種類、規模、造作等の決定には愼重の上にも愼重の注意を拂ひ、萬違算無きを期さねばならぬ。

營業地の選擇

營業地の選擇

最初は邦人相手が安全

農林等開拓的な事業に於ては、邦人々跡未到の山野を目指して、開拓者進運のマーチを高唱し、集團移民の幾十幾百隊かを、或ひは北滿の奥深く、或ひは吉林の邊陬に、或ひは蒙古の內藏目がけて送遣するのも痛快なことであるが、個人で而も渡滿早々に一個の店舖を構へようとする人々には、先づ以て、邦人先住者の居る土地で、それ等邦人目當ての商賣から取附くのが、比較的安全な道ではあるまいかと、お勸めせざるを得ない。こんなことを言ふと、卑怯だとか、退嬰的だとか、だか

ら居留邦人は皆んな共喰をやり少しも發展しないのだとか、いろ〳〵な非難を受けるかも知れないが、之れは非難する方が見當外れなので、其の非難ならば、永年彼地に在留し乍ら、保守退嬰、徒らに既得の地盤のみに執着して、何等新規の企畫乃至は研究をなさゞる居留邦人の古參者達、又邦人の新地盤開發掩護に關し、一定の方針無かりし政府、及び、我利に終始して、どちらかと言へば個人投資家壓迫の傾向にあつた財閥や大會社の營利政策等に對して向けらるべきものであつて、新渡航者のよき案内役たらんとする本講座の受くべきものでないことを確信する。

さて大體に於て、邦人先住者の居る土地で、邦人相手の商賣から取附くと極めて、然らば、大體どの位の大きさの町、どの方面の町を擇ぶべきかといふに、之れは主として、商賣の種類と、規模如何により決定さるべき問題であるが、大體の狙ひ處としては、大連、奉天、旅順などいふ、邦人密集の南滿一流都市よりも（かういふ都市は一番魅惑的ではあるが）大きな町であり乍ら、從來政治上其の他の關係から邦人が思ふ樣に驥足を伸すことが出來なかつたが、今後はもつと大いに居留邦人が增加すべきであるといふ可能性の多い處、たとへばハルビンとか吉林とか、もつと北進しては、チヽハルだとか滿洲里だとか、三姓だとかいつた町に着目せねばなるまいと思ふ。大連の如きに至つては、まるで東京や大阪などに劣らぬ程に邦商軒を並べ、激しい生存競爭をやつてゐるので、其の中へ割り込んで苦しい思ひをするのでは何しに滿洲へ行つたか分らぬではないか。尙ほ滿

蒙の主要な都市や居留邦人數は前項概觀中にあるから、その中から、自分の行きたさうな土地を選定するのがいゝと思ふ。土地が極つたら其處で話されて居る言葉、使はれて居る通信、現行の稅制等につき一通りの知識を持たねばならぬことは既に述べた處である。

店舗

愈々目的の土地へ行つて、豫め計畫した店を開くとして、第一に起つて來るのは店舗の構へ方である。

適當な貸家が見附かれば一番手つ取り早い。之れに適等な造作を加へ、餘り金をかけないで、外觀、内部共充分効果的であり、其の土地の型に嵌つてゐて而も陳腐に墮せず、何處かに一脈の新味がある、といふやうな店構へが出來上れば先づ成功といふべきである。

先づ其の土地へ行つたら、自分の志して居る商賣の同業者店舗を一巡すべきである。すれば、其の土地にどんな店を構へ、どんな態度で客に接し、どの程度の物をどの位の儲けで賣つて居る店が何軒あるかの見當が附き、進んでは、誰れは問題でないが、誰れは恐るべき同業者であるとか、どの店を目標にどんな方針でやるべきであるとか、どんな商品をどの位の儲けで賣つたらいゝかとか、經營上重要な點で、大いに參考になることが澤山會得出來て、新店舗を經營して行く上にどれ位の助けとなるか恐らく測り知られぬものがあらう。

北滿の小都市では良い借家が少ない

尙ほ北滿の小都市などでは、適當な貸家を見出すことは頗る困難な場合が多く、どうしても止むを得ずば、自分で簡單な家屋を構築する必要に迫られることもあらうと思ふ。此の場合には、いろ〳〵困難を伴ふが、兎に角餘り金をかけず、又大工や其の他の職人に誤魔化されぬ用心が肝要である。

商標、屋號

商標屋號のつけ方

內地で店舖を構へる場合にても、商標や屋號の附け方には相當の苦心を拂ふものであり、其の附け方の巧拙は時には商賣の運命に關するといふ場合さへ有り得るのである。況んや、直接支那人を相手にしない迄も、彼等の住む土地で商賣をする以上、文字や記號の上に、彼等の傳統的好尙を取入れる事を考へると同時に、昔から忌み嫌はれてゐるやうな、文字や記號は極力避けるやうにせねばならぬ。

由來、文明の低い民族ほど宿命論に囚はれ易いものであり、漢滿人に於ては特に其の傾向の强いことは周知の通りである。從つて、鄕に入つては鄕に從ふといふが、在滿邦人も長い年月の間に知らず知らず同化されて行く。大滿鐵でさへ、其の社章には、支那民族が瑞相の最たるものと信ずる蝙蝠をMの變態文字によつて象つてゐるといふ事實もある程で、日本から輸入される紙卷煙草のうちゴールデンバットが最も喜ばれる實情や、獅子印のライオン齒磨が盛んに支那へ販路を擴張したのも、同樣の理に外ならなかつた。

滿洲で好かれる商標

まづ商標について好惡の典型的なもの數種を擧げれば、

好まれるものは、

鶴、鳳凰、錦鷄、孔雀、鴛鴦、雁、龍、麒麟、獅子、虎、象、牛、馬、山羊、猫、蜂、蠏

などであり、

忌み嫌はれる側では、

龜（最も甚しく忌まれるものにて、頭を引込める形より、「恥知らず」の意味に代用せらる）鳩、猿、豚、犬、狐、兎、鰐、蟇、蛇蝎、柳木

など主なるものである。

次に、商標、看板、包紙などに配合する色彩も、黑、白、藍、青を嫌ひ、銀、黃、紅を好むといふ傳統がある。

更に文字に關する好惡では、好まれるもの

喜、寶、福、壽、吉、財、瑞、生、發、光、祥、盛、昌、泰、華、昇、東、成、裕、天、萬、老、衆、遠

などで、忌まれるものは、

死、苦、病、衰、散、離、惡、暗、禍、別、兇、患、窮、犯、毒、電、鬼、魔

などである。

(三)　商賣の種類と心得べきこと

故に屋號を考へ商標を按ずる場合には、之等の事情を充分に斟酌して何となく感じのいゝ名前を附けることに心掛けねばならない。

以上で、開店に至る迄の準備に關する注意事項の大要を盡したと思ふから、進んで各商賣につき、商品の種目、仕入先、資本額、豫想利益等につき概說を試みることゝする。

飲食店

飲食店をやつて見ようとする人に、本質的に必要な要素は何かといふに、「鋭い味覺を持つた人」でなければならぬといふことである。過去に飲食店經營の經驗があつた人ならば格別、新規に始めようといふ人は、よく自分を顧みて、自分が「鋭い味覺を持つてゐるか」といふことを靜思すべきだ。專門のコックを使へば別問題だが、それでも、經營者自身が常に自家の賣る食品の味につき充分の鑑識力が無ければならぬ。まして、小規模經營の飲食店で、主人自ら料理場を受持つてやらうといふ場合には、天性、食味に趣味を持ち、味覺の鋭い人でなければ仕事の永續も困難だし、商賣の成績も、到底期待することが出來ぬ。

反面から言つて、天性食味に趣味を持ち、所謂、食道樂といふ風の人で、料理を趣味とし、勞作を厭はぬ人であれば、過去に經驗のないといふことや、又正式な料理法を習得して居らぬ、などゝいふことは全く顧慮する必要なく、恐らく生れ付き飲食店の經營に成功するやうに出來て居る人である、と言つてもいゝ程であるから、進んでやつて見るべきである。

經營者の天賦に次いで重要なことは、店の感じである。店の感じと一口に言ふものゝ、之れ位難しい問題はない。表構へ、內部裝飾、椅子テーブルの配置、便所や手洗の位置構造、給仕の仕方、食器の趣味等、細かいことを言ひ出せば、「店の感じ」の一言に包容せらるゝ內容は、到底それ丈けを取扱つても三十頁や四十頁には書き切れない。殊に難しいことは、顧客の階層が一樣でなく、其の趣味、好尙にいろ〳〵の隔りがある場合、其全部の人に對し、感じよくあらしめるといふことで、經營者に餘程の腕を要する處である。

既に經營者が料理に天才を持ち、店の感じがいゝとなれば、其の飲食店は大半成功圈內に入つて居ると言ひ得よう。

殘る問題は、材料を精選すること、仕入れを上手に——(決して安くとも惡いものは使はぬこと)例へば現金仕入れにして割引させるとか、腐らぬものならなるべく小買ひを避けるとか、——して

店内裝飾

材料費を低廉にすること、表構へ、店内裝飾等に、時々氣の利いた改變を加へて、新味を失はぬやうにして行くこと、等の行き屆いた注意があれば、店の繁昌は疑ふべくもあるまい。

洋食店

尙、飲食店の主要なる種類につき、特殊の注意すべき點を述べよう。

洋　食　店

在來の、滿蒙にある邦人經營洋食店といへば、多くは味覺第二のインチキ曖昧屋であつて、たゞに引懸る椋鳥相手に、ウンと暴利を貪つて、どうにか經營の辻褄を合せて行かうといふので、味や店の感じよりは、白粉と肉の匂りで客の神經を痲痺させようとする、不眞面目なものが多かつたこと否むべくもない。斯うした情勢の中へ、眞面目な店が出現して、味よく感じよく、而も合理的な値段で客を滿足させるならば、成功の機會は案外に多いと思ふ。

目指す土地に到着したら、先づ町の樣子、人氣をよく見定め、出來れば邦人經營の洋食店を戸別訪問して、所謂敵情偵察をする。それから、恪好と狙つた場所で、適宜な家を借りるなり、建てるなりして、開業の運びを付けるべきである。

最後に附加へて注意して置き度いことは、主人や女將は、通り一遍の親しさ以上には客と接觸を深くせぬことで、餘り親しくなり過ぎると、金のない時に來て借りる店とされ、日錢の入るといふ此の商賣の大長所が減殺されると同時に、借りた金が返せなくなれば、自然闘が高くなり足が遠くなるといふ結果になり、金を損し客を失ふ二重の損害となる因である。

おでん小料理や

尙、素人のコックに洋食屋は一見無理のやうにも考へられるが、本章の冒頭にも述べた通り、料理に趣味を持ち、鋭い味覺があり、勞苦を厭はぬ決心さへあれば、小さな洋食屋の料理法、一二冊の實用的な西洋料理書さへあれば大丈夫、一生懸命な丈けに、却つて本職のコックを雇つた場合よりも成績がいゝであらう。

おでん、小料理屋

おでん小料理は內地での著しい流行であるが、內地の流行は同時に、植民地の流行となる。滿蒙の都市でも既に早く此の風潮に魁けて、おでん小料理を當て込んで居る者もあるが、奥地や小都市では未だ左程でない。只おでんやは滿蒙の酷暑にはふさはしくないものだから、夏は清涼飲料と小料理といつた風に商賣換へする必要に迫られるかも知れない。

「味よく、感じよく、割安に」其他一般的の注意事項は、洋食屋の場合に準ずる。

カフエー

カ　フ　エ　ー

小資本でカフエーといふのは一寸無理な感じもするが、極く小さい乍らも纏つた感じのする、裝飾や店構へに金はかけてないが、上品で厭味がないといふやうな店を造ることを目指し、店としての一つの特徴を出すことに成功したならば、必ず客はそれに盲目ではない。異境に活躍する同胞慰安

の眞使命に目醒め、アクドイ經營さへしなかつたならば、カフエー亦一つの立派な生業である。

唯だ此商賣の、他の飮食店に比し特に難しい點は、客が全く感じて來り感じて去ることである。だから徹頭徹尾、客吸引本位に、何よりも店の感じを仕上げることが肝要であり、それが又中々の難事である。又商賣柄、女給の勝れたのを手に入れることが重要なことだが、之れが又、素人の到底夢想だに及ばぬ困難な事で、美人なれば我儘であり高慢であり、主人など屁とも思はぬ者が多く、優しく柔順なのには不容姿なのが多い。その上時には惡い附者があつたりして、兎角男女關係の葛藤に累される。世にカフエー經營の經驗ある者で、女給難の嘆を發せぬ者無き實情である。故に其の點の苦勞は初めから覺悟して掛らねばならぬ。

又、土地柄によつては、其の土地の親分なり顏役なりに渡りを附けてから開業せぬと、開業後、少し繁昌すると、早速種々樣々な合法的營業妨害をされる危險がある。

兎に角、當ればボロイ水商賣だけに、氣苦勞も並大抵ではないことを豫め承知して掛らぬと、途中で厭になるかも知れない。世の中に兩方いゝことはない。

酒場

內地ではカフエーは漸次酒場に其の地位を奪はれんとしつゝある程、酒場の增加發展は目覺ましい。カフエーと大差無いやうなものではあるが、酒場の方が萬事が簡單で、多少上品で、而も洋酒でも日本酒でも、一般にカフエーに比べて、質を選んでゐることは事實である。それが酒場をして今日あらしめた、最大原因ではないかと思ふ。

一體に近代人は、たとへ遊びの瞬間にても、無駄や煩瑣や餘計な費用の多い處は、他に餘程の長所があつても、いやがつて寄り附かぬものだ。此の呼吸を心得て、簡素で上品、居心地のよい酒場を造り、酒の味を精選して、厭味のないサービスに客の滿足を得るならば、酒場經營の成功者となること難事ではあるまい。それにカフエーや洋食店に比し、開業迄の資本も少く、料理等のうるさもない。唯難かしい點といへば、適當な場所を見附けること、通俗に墮せず新奇に走らず、氣分の溢れた店を造ること、この二點である。

ビヤホール

酷暑の季節を中心に春秋にふさはしい商賣で、設備も簡單、資本も少く、極く手輕に始められる長所がある。只場所の適當を得るといふことが、最重最要の成否の岐路であるが、其他にはカフエーや酒場の場合の樣な難しい點はない。

うどん、そばや

之れは純粹に邦人のみ相手の商賣であるから、居留邦人の相當にある土地でなければならぬが、從來、滿蒙に現存する斯業者は、內地の斯業者以上に粗末なものを高く賣る癖が附いて居り、又そ

れを當然の特權の如くに考へて居るのであるから、新規に始めても、味よく安く勉強するならば、恐らく成功の機會は少くないやうに考へられる。小麥粉は內地よりも安いのだし、一杯五錢で賣つても充分過る利益がある。現在の滿蒙各地の相場である一杯拾錢乃至八錢は高過る。

フルーツ・パーラー

フルーツ・パーラーと云つても名前通りに果物のみを扱ふのではない。無論建前上果物類に力を入れて、新鮮で味の勝れた上等の果物で客の滿足を求むべきこと勿論であるが、果物の外に喫茶もやれば、輕い食事もやる、といふのでなければ立行くまい。

經營上の重點は、瀟洒たる感じのする店構へをすること、味とサービスと値段とに魅力を持たすこと、で、其他一般的な注意事項に就いては、先に述べた通りである。

喫茶店

單にお茶を飮ませるといふ以上に、一步進んで、上等な蓄音器に藝術の香り高い音樂的なレコードをかけ、靜かな、落附いた、上品な空氣の中に、紅茶やコーヒーをすゝり乍ら一日の疲れを休める安息所であらしめることを心掛けることが肝要である。一人十錢十五錢でも、數でこなせばカフエーや酒場よりも利廻りよく、而も上品で營業上の苦勞は少く、此の方が面白い場合も多い。

只、此店も氣分本位の客を相手とすることだから、店の場所と、表構へ、內部構造に特別の苦心を拂ふことは勿論、蓄音器は出來ればエレクトロラの上等を備へ、レコードは大盤の藝術的な高價なものを取揃へなければならぬ。

安つぽい喫茶店では到底客を吸引する力無く、相當な店となると案外に金のかゝるものである。

食堂

簡易食堂式の、低廉第一、簡素第一の食堂も、之れからの滿蒙に生存の可能性を持つてゐるものの一つであらう。之れは眞面目に考へれば一種の社會奉仕であり、又事實奉仕の心掛けで、安く、甘く、利益少く、設備にも慰安にも心を須ふれば、自然客も多く集まり、所謂薄利多賣が實現されることゝなつて、成功に惠まれる。

只、最も重要なことは、本當に簡易食堂を必要とする、大衆の集まるやうな場所をうまく選び當てることで、店の位置一つで店の成否が大部分決定されるといつても過言でない。

食料品店

飮食店に續いて食料品店につき述べる。これには飮食店程のボロさは無いが、生活必需品たる强味はある。成功は努力と如才無さとにあると思ひ、競爭者の多いことは覺悟の上で、或る程度迄勉强と、サービスで客を摑んで行くことに心掛けねばなるまい。以下、各種類につき特に注意すべき點を略述する。

肉屋

鳥獸肉類店

現在既に滿蒙各地に亘り、邦人支那人の肉類店は相當にある。が然し、今後の新渡航者割込みの餘地が全然閉されてゐる譯ではない。何分滿蒙は家畜の天地であると稱される程、畜産には豐富であり、又邦支人共、魚肉が高くて割合にうまくない關係もあつて大いに肉食するので、鳥獸肉の需要は頗る多い。大連相場牛肉ロース百匁四十錢といふのだから、又食はざるを得んやでもある。

支那人は一體に汚いのは平氣である。だから肉屋のやうな食料品を扱ふ店でも、小ざつぱりした白い服でも着て、きれいに磨き拭かれた店構へでやつて居るといふ樣なのは、決して見當るものでない。在留邦人でも、行つた當初は汚なく感じるが、段々慣れて不感性になり、汚ないのに平氣になつてしまふが、何と言つても、きれいに越したことはないのだから、今後開業する者が、清潔な店で純白なエプロン掛けで客に應對し、冷藏裝置には相當金をかけて完全なものを備へ、丁度食べ頃の、うまい肉を比較的安く賣るやうにすれば、繁昌は必然だと思ふ。

仕入れは屠殺場と特約し、鳥類は便宜仲買や獵人から直接に買入れる。開業資金は約六、七百圓。

パン製造販賣

氣の利いた上等のパン菓子などになると、素人には一寸難しいものもあり、やつてやれない事はないにしても、多少研究の必要もあらうが、簡單なアンパン、食パン類ならば、燒竈とパン型とを

備へ、材料となる馬鈴薯、酵母、ドライ・イースト、白砂糖、食鹽、小麥粉（硬粉のもの）、バター（料理用の安いものでよい、一ポンド三十錢位で買へる）又はヘット等に餡が揃ひさへすれば、卽座に出來上つてしまふのである。尙、燒竈やパン型は、種々な種類が考案されてゐるが、兩方共陸軍糧秣廠考案のものがいゝと思ふ。手輕に扱へて、値段も割安である。營業用として一式揃つて二十五圓も出せば調達されるから、同廠へ問合せ、使用方法から製造方法其他の注意すべき要點等、詳しく教へて貰ふがいゝ。

パン屋は無論、滿蒙の大抵の都市に現存してはゐるが、今後の移住邦人の增加も見越し、將來ありさうな邊隅な町で上手にやれば、珍しくはあるし成功の機會が多い樣に思はれる。それに何と言つても、强味は開業資金が極めて僅少で濟む點であつて、店造りも思ひ切つて簡單に、內地の今川燒式のものにすれば、自分の手造りで改造出來よう。其の上、パン材料は概ね滿蒙の地で潤澤に生產されるものだから、內地に比べれば非常に安くて、しかも賣値は變らないのだから、利益は十五割から二十割位にはなるであらう。

支那菓子、支那酒店

甘黨、辛黨どちらでも來い、と左右の使ひ分けをする譯ではないが、何れも支那物產をひさぐといふ點で、店の構へを上手に左右二分し、目障りにならぬやうに商品の陳列に意を用ひれば、案外

外觀のいゝ、取合せの粹な、人目を惹く店が出來上る可能性があると思ふ。

又、支那へ行つて支那人の造る物を日本人が賣り、店が立ち行き儲けの上る筈がない。と一笑に附する人があるかも知れないが、之れはあちらの實情を知らぬ人の言ふ事であつて、菓子にしても酒にしても、なか〳〵味の勝れたものがあり、又日本人間に廣く味の行き亙つてゐるものもあるのに、菓子にすれば、支那人商店のホコリだらけの中に並べられた菓子は買ふ氣にならぬとか、酒にすれば、態々支那人街の知名の酒屋迄行くのが面倒臭いとかいふ理由で、欲しいのを我慢してゐる邦人が中々多數あるのは事實である。故に小ぎれいで清潔な陳列棚に、行儀よく支那菓子を並べ、或ひは有名な支那酒問屋と特約して、それを看板に表はすとか、有名な酒の壜等を體裁よく陳列窓に飾るとかすれば、かなり人目に付いて繁昌するに相違ない。

無數の支那菓子の中から、比較的邦人に知られたもの、みを拾ひ上げて見ても、左の如く中々多數に上るのである。

氷雪酥　米の粉と薄荷を混ぜたもの
小綠豆糕　綠豆と麥粉を砂糖で練り固めたもの
牛皮糖　白胡麻にザラメ糖を加へ長く引伸したもの
桃片糕　米團子に胡桃を混ぜたもの
松子糕　米團子に松の實を配したもの。
白交功片　白胡麻を砂糖で練り固めたもの。
桔紅糕　米團子に蜜柑の皮を配したもの。
桂梅　梅の實を二つに割り、砂糖で煮詰めて、桂花を取合せたもの。
花餅乾　小麥粉と砂糖を混ぜ、乾燥させた上に彩色を施したもの。

等が一般邦人から歡迎されるものであり、次に、世界中で、最も發達して居ると言はれる各種の砂糖漬には、珍味のもの多く、代表的なものを掲ぐれば左の如くである。

糖無花菓　無花果を原料にしたもの。
糖沙梨　梨の皮を剝いたもの。
糖佛手　佛手柑を原料としたもの。
糖冬瓜　冬瓜の皮を剝き原料としたもの。
糖西瓜　西瓜の皮を剝いて漬けたもの。
糖西餅　蜜柑を原料としたもの。
糖金柑　きんかんを材料としたもの。
糖蓮子　蓮の實の砂糖漬。